



Kawasaki

JETSKI[®]
watercraft

ULTRA 300X
ULTRA 300LX

ウォータクラフト

JETSKI[®]
watercraft

取扱説明書

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

JETSKI
watercraft
は川崎重工業株式
会社の登録商標です。



ウォータクラフトには定期的に点検・交換が必要な部品（エンジンオイル、バッテリ、ホース類等）があります。安心して快適にお乗りいただけるよう点検整備を必ず実施してください。

カワサキは人と地球にやさしい環境作りをめざしています。

早見表

一般事項

操縦方法

保管

整備と調整

トラブルシューティング

船舶検査

航行区域

環境保護

お客様の相談窓口

ご愛用の皆様に

カワサキのウォータクラフト“ジェットスキー”をご購入くださいましてありがとうございます。きょうからあなたのよきパートナーとして、十分に活躍させてください。

この取扱説明書は、あなたのウォータクラフト“ジェットスキー”を安全かつ魅力的にご使用いただく手助けをするために編集したものです。

最初にお乗りになる前にこの本を読んで十分にご理解いただき、正しい操縦方法を完全に習得してください。

そして、この本に従って注意深い操縦と正しい整備を行うと、ウォータクラフト“ジェットスキー”の魅力と性能を十分に引き出せます。

また、水上での安全確保のためのマナーを守ると同時に、各種の法規、条例等も十分理解し、守ってください。

ウォータクラフト“ジェットスキー”に乗るときは本書を携帯し安全なマリンライフをお楽しみください。

本書は大切に保管し、ウォータクラフト“ジェットスキー”を転売や譲渡等されるときは必ず添付してください。

別冊の整備手帳には保証書とともに定期点検整備表および点検整備記録簿が入っています。ウォータクラフト“ジェットスキー”的維持管理にご活用ください。

本書では正しい取り扱い方法および点検に関する事項を、次のシンボルマークで示しています

⚠ 警告

取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

取扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

要点

○作業を正しく行うためのポイントを示しています。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

川崎重工業株式会社

株式会社カワサキモータースジャパン

目次

主要諸元	6	見張りの役割	71
一般事項	8	トーイング用ロープをかける場所	72
製造番号	8	乗る前の点検項目	73
各部の名称	9	ならし運転	75
ラベル位置	12	エンジンの停止	75
マルチファンクションメータ	23	エンジンの始動	77
燃料	39	発進	79
エンジンオイル	41	桟橋からの発進	79
エンジンオイルレベルの計測	41	ランプからの発進	79
操縦装置	43	水深の深い場所での発進	80
イグニションスイッチ	52	水深の浅い場所での発進	80
シートラッチ	56	停止	81
備品入れ	58	旋回	83
小物入れ	60	後進	86
工具	61	着岸	86
ビルジシステム	61	ウォータクラフト“ジェットキー”的乗り方	87
ドレンプラグ	62	落水	87
リポーディングステップ	62	転覆したウォータクラフトの起こし方	88
操縦方法	64	浸水後の処置	89
安全な操縦	64	航走終了後の手入れ	93
経験の浅い運転者による操縦	64	第1：排気系統の水抜き	93
乗船者の水泳能力	64	第2：エンジルームの清掃	94
最大搭載人員	64	第3：船体外部の清掃	94
安全運転規則	64	特殊な手入れ	95
ジェットポンプに関する注意	67	インペラの清掃	95
乗船者の安全装備	68	汚れたスパークプラグの清掃	95
ヘルメット着用の選択	69	ウォータクラフトのえい航	96
積載	69	ジャンプコードによる始動	96
トーイング（ウェイクボード／水上スキー等の定員1名のけん引物）	71	エンジンのオーバーヒート	98
操縦者の役割	71	運搬	98

エレクトロニックスロットルバルブ(ETV) システム	99	燃料系統	117
保管	100	スロットルの調整	117
保管する前の作業	100	燃料ベントチェックバルブ	117
冷却系統	100	燃料ポンプスクリーン	117
ビルジ系統	100	燃料ホース	117
燃料系統とエンジン	101	エンジンオイル系統	118
バッテリ	103	バルブクリアランス	122
エンジン取り付けブラケット用ボルト	103	スパークプラグ	123
スーパーチャージャ	103	バッテリ	125
ジェットポンプペアリング／シール	104	潤滑	135
洗浄	104	冷却系統の洗浄	138
潤滑	104	ビルジ系統の洗浄	140
保管後再使用する前の作業	105	ジェットポンプペアリング／シール	141
整備と調整	107	ヒューズ	142
定期点検整備表	107	トラブルシューティング	144
スーパーチャージャ	110	船舶検査	148
スーパーチャージャの防錆	110	船舶検査	148
コントロールケーブル	111	船舶検査証書など合格証書類	148
スロットルケーブルの調整	111	航行区域	149
ステアリングケーブルの調整	111	航行区域	149
ステアリングケーブルの点検	113	海岸あるいは陸岸で使用する場合	149
トリムコントロールケーブルの調整	113	母船に乗せて使用する場合	150
トリムコントロールケーブルの点検	113	環境保護	151
シフトケーブルの調整	114	環境保護	151
シフトケーブルの点検	116	お客様の相談窓口	152

6 主要諸元

主要諸元

ウォータクラフト“ジェットスキー” JT1500H/J

エンジン	
型式	4ストローク、4気筒、DOHC、4バルブ、水冷、スーパーチャージャ
排気量	1 498 cm ³
内径×行程	83 × 69.2 mm
圧縮比	8.4:1
点火方式	デジタルトランジスタ
潤滑方式	セミドライサンプ
燃料方式	デジタル・フューエル・インジェクション
始動方式	スタータモータ
スパークプラグ	NGK PMR9B
ギャップ	0.6 ~ 0.7 mm
端子形状	一体型端子
点火時期	上死点前0°@1 300 rpm ~ 17°@3 000 rpm
アイドリング回転速度	1 300 ±100 rpm …… 水上 1 300 ±100 rpm …… 陸上
動力伝達機構	
カップリング	エンジン直結シャフトドライブ
ジェットポンプ	型式 軸流、単段
	推力 7 871 N (802.6 kgf)
ステアリング	ステアリングノズル
ブレーキ	水の抵抗力

※性能	
連続最高出力	213 kW (290 ps)/7 750 rpm
連続最大トルク	263 N·m (26.8 kgf·m)/7 250 rpm
最小旋回半径	4.0 m
燃料消費量	88.3 L/h(フルスロットル運転時)
航続距離	88.8 km(3名乗船・フルスロットル運転時)
航続時間	50分
寸法・重量	
全長	3 370 mm
全幅	1 195 mm
全高	1 150 mm
整備質量	462 kg
最大喫水	365 mm
燃料タンク容量	78 L
エンジンオイル	
タイプ	API SG、SH、SJ、SLまたはSM(JASO MA、MA1またはMA2) SAE10W-40
オイル容量	5.5 L
電装品	
バッテリ	12 V 18 Ah

※これらの数字は、一定の条件の下で測定されたものであり、条件が変われば数字も変わってきます。

一般事項

製造番号

- 船体およびエンジン番号は、あなたのウォータクラフトを表す番号です。この番号は登録に必要であり、また部品注文時に必要なこともあります。また、盗難にあった場合、是非とも必要なものです。下のそれぞれの空欄に記録してください。



A. 船体番号

船体番号

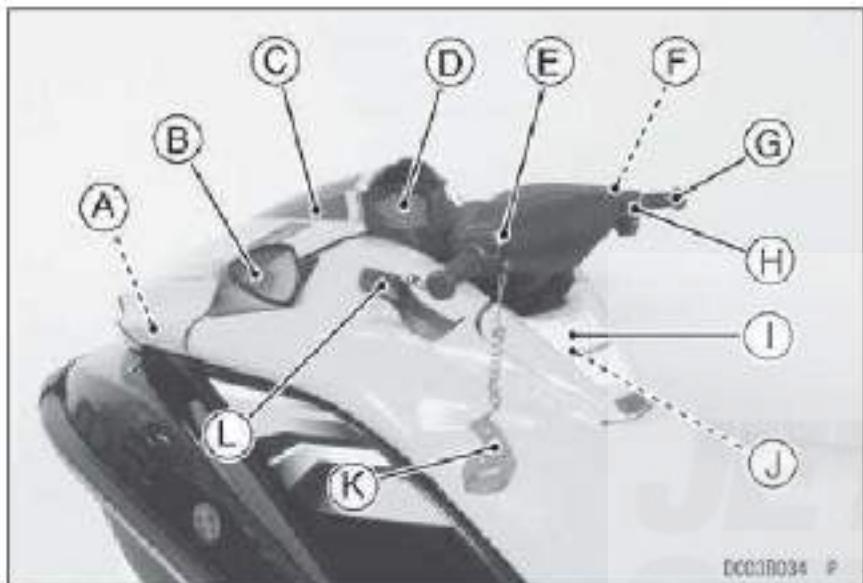


A. エンジン番号
B. スーパーチャージャ

エンジン番号

エンジン上面のラベルはエンジン番号を確認できます。

各部の名称

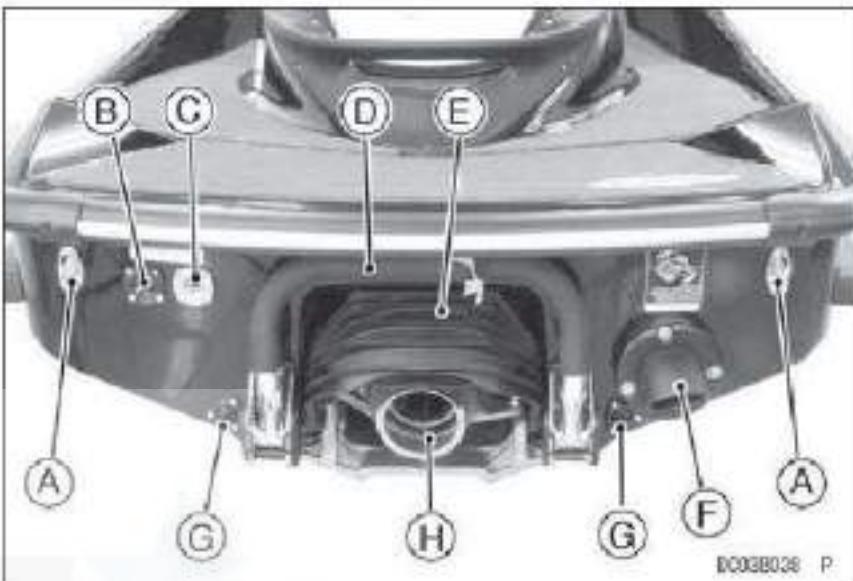


- A. パッテリ
- B. パックミラー
- C. 備品入れ
- D. マルチファンクションメータ
- E. 左ハンドルスイッチハウジング
エンジンスタートボタン
エンジンストップボタン
低燃費航行アシストモード
エレクトリックトリムコントロールボタン
- F. スロットルレバー
- G. ハンドルバー
- H. 右ハンドルスイッチハウジング
エレクトロニッククルーズコントロールボタン
(アップ/ダウン)
エレクトロニッククルーズコントロールボタン
(セット)
- I. 小物入れ（前部）
- J. イグニションスイッチ
- K. キルスイッチコード
- L. シフトレバー

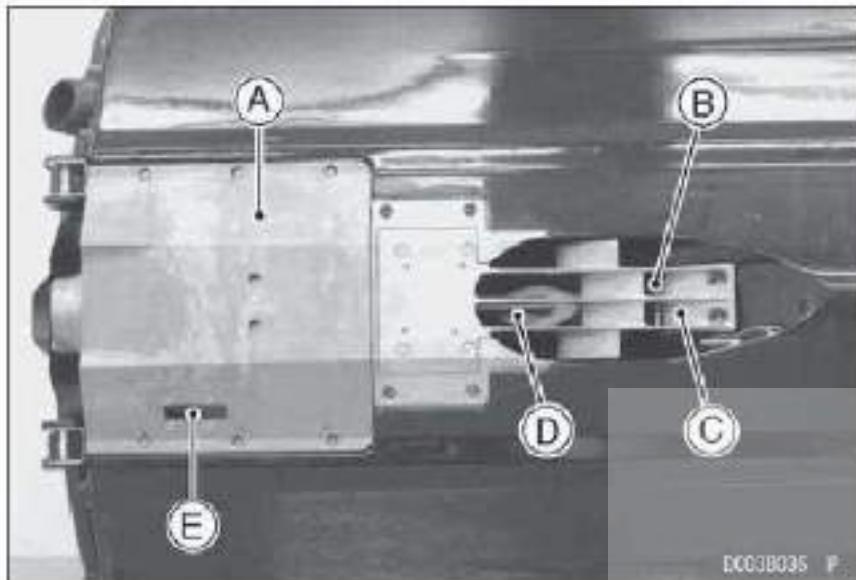
10 一般事項



- A. ハンドル（グリップ）
- B. スキー等けん引フック
- C. シートラッチ
- D. 後部シート
- E. 前部シート
- F. バイパス出口
- G. エンジン室

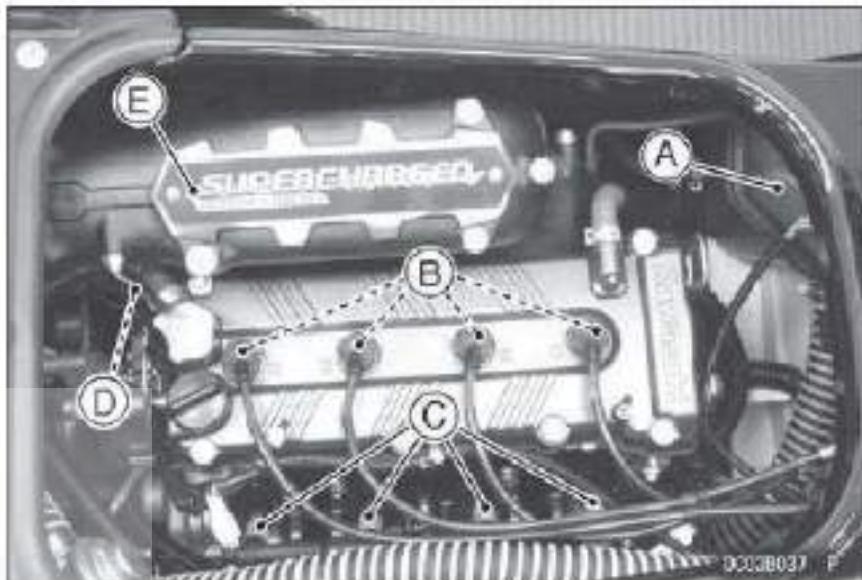


- A. えい航用フック
- B. エンジンフラッシングポート
- C. インタークーラフラッシングポート
- D. リボーディングステップ
- E. リバースパケット
- F. 排気口
- G. ドレンプラグ
- H. ステアリングノズル（ジェットノズル）



D003B035 P

- A. ジェットポンプカバー
- B. 吸水口
- C. 格子
- D. ドライブシャフト
- E. スピードメータ用水車



D003B037 P

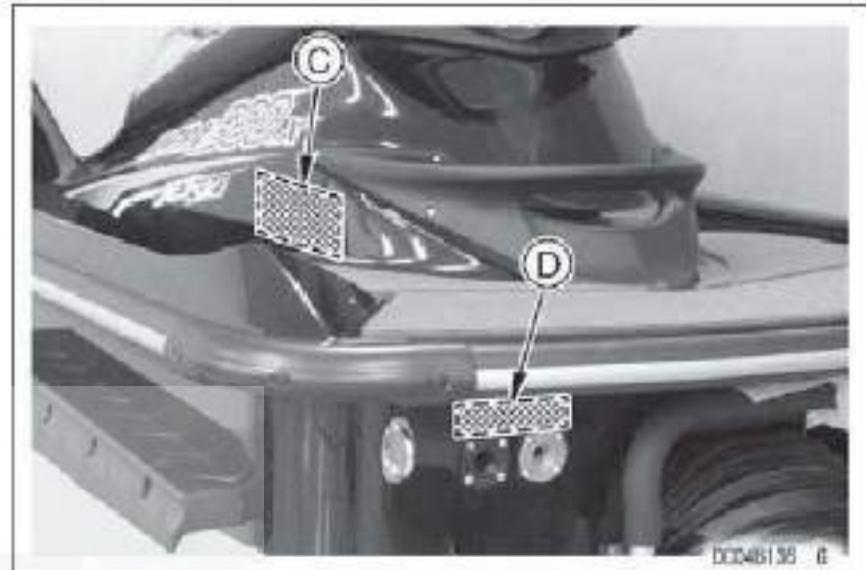
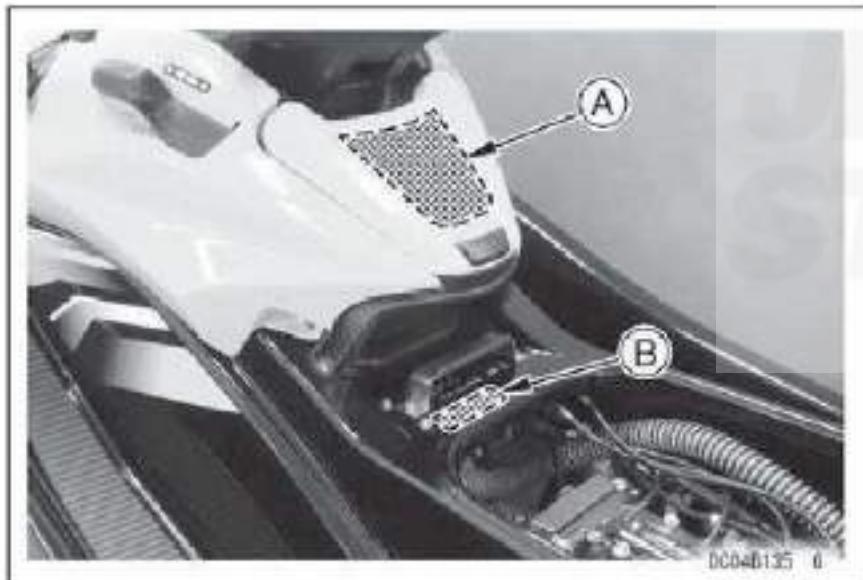
- A. エアボックス
- B. スパークプラグ
- C. フューエルインジェクション
- D. スーパーチャージャ
- E. エグゾーストパイプ

ラベル位置

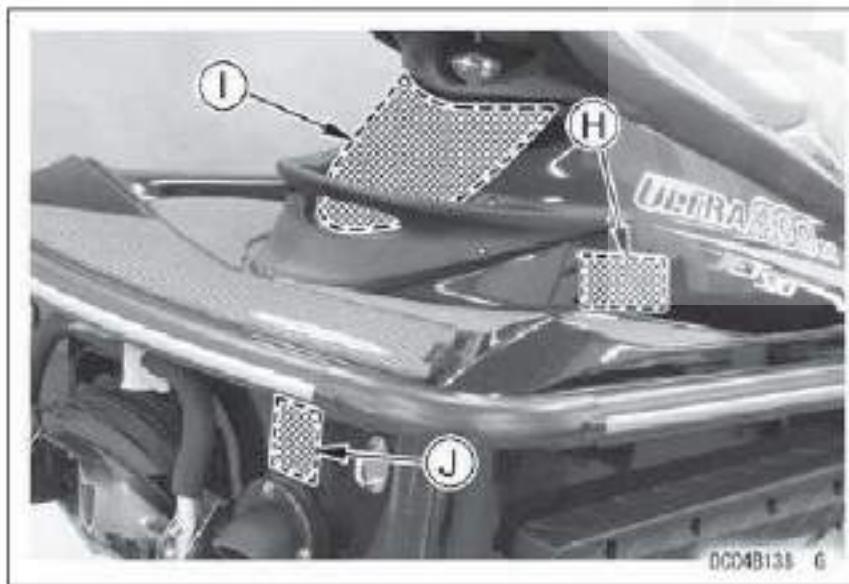
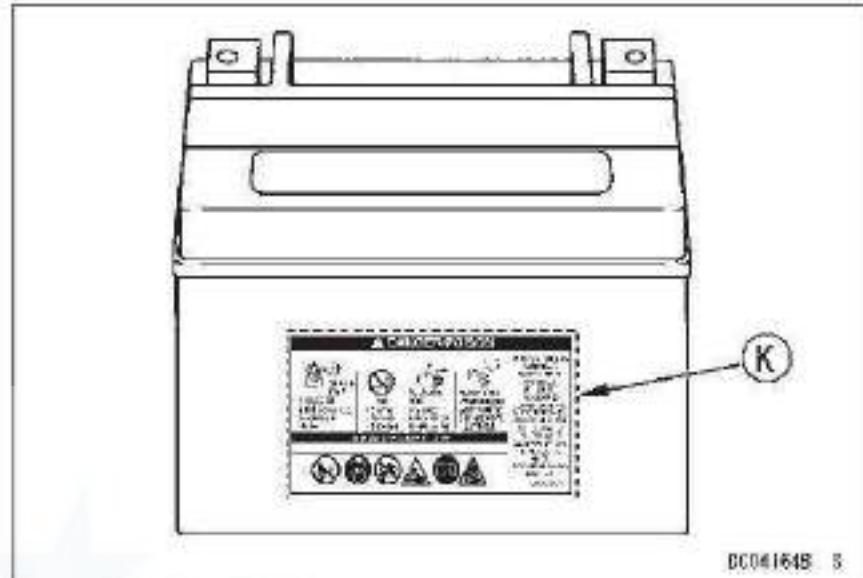
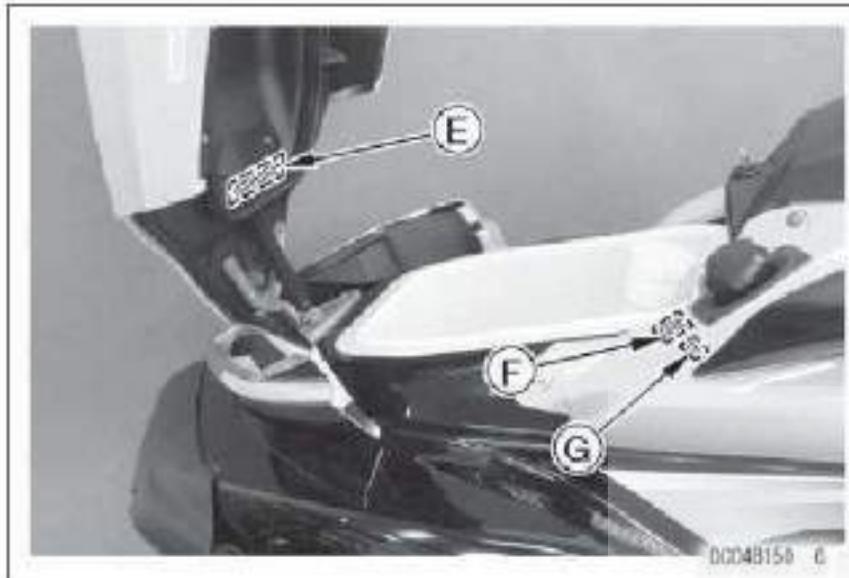
船体・エンジン各部には安全に関する各種ラベルが取り付けられています。これらラベルは常に良好な状態にしておき、もし破損した場合はKMJから新しいのを入手して、指定の位置に取りつけてください。

要点

- 各ラベルにはパーツ番号が付いています。注文される時はその番号をご指示ください。



- ガソリン・オイル・バッテリ・ならし運転・オーバーヒートとイグニションスイッチの注意およびエンジンルームとリボーディングステップの警告
- 証明ラベル
- ハンドレールとえい航用フックの注意およびリボーディングステップと積載の警告
- 冷却系統の洗浄に関する注意



- E. ダンパの警告
- F. 燃料注入の警告
- G. 燃料の注意
- H. 最大搭乗人員
- I. リバースペケットと船の回転方向の注意および安全装備・操縦とジェットポンプの警告
- J. 転覆時の反転要領
- K. バッテリの警告

(A)

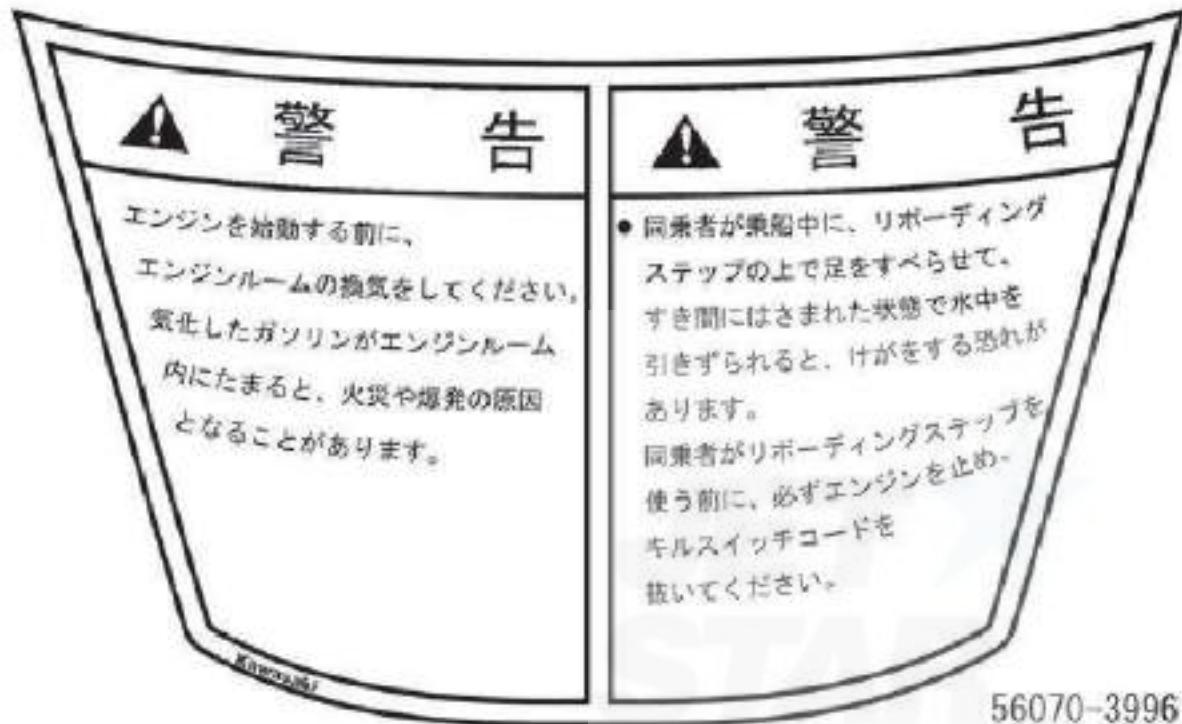
注 意

- ・航走する前に、ガソリンやオイルの量、また、バッテリの充電量をよく調べてください。
- ・燃料を補給する時には、必ずエンジンオイルの量も点検してください。
- ・エンジンオイルのない状態で航走すると、エンジンの焼き付きの原因になります。
- ・ならし運転期間は最初の5時間までとし、ならし運転中はスキーを引いたり、一定速度で運転したり、エンジン全開運転を行わないでください。
エンジンがオーバーヒートすると、警告灯と温度計マークが点滅してエンジンの回転が下がります。
ただちに岸辺に戻り、冷却系統を点検してください。
エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまで、ウォータークラフトを操縦しないでください。
- ・波に向かってぶつかる乗り方をすると、ウォータークラフトに過大な力がかかり、船体の破損の原因になります。

56070-3996

06050038 S

(A)



56070-3996

00052368 5

16 一般事項

(B)

MFD. BY KAWASAKI MOTORS MFG. CORP., U.S.A.

56037-1808

DE050428N5 C

(C)

注 意

- シート後端のグリップを使って、何かをけん引したり、この船を持ち上げたり、また固定用ベルトをかけたりしないで下さい。
- 水上スキーヤー引っ張るときは、シート後端のグリップ下にある専用フックを使って下さい。
- 他の船をけん引するとき、及びジェットスキーをロープでトレーラーに固定するときには、船尾のフックを使って下さい。



警 告

- エンジン回転中は、リボーティングステップを使わないで下さい。
- 後部デッキに積んだ荷物は、乗船を妨げ、バランスをくずす恐れがあり、そのを避け方をすることがあります。
乗船の妨げにならないよう、荷物を積んで下さい。

Kawasaki

TE076-1111

b6050528N5 C

(D)

注 意

エンジン洗浄用（黒色）

- ・エンジン冷却システムを洗浄するときは、エンジンを回して行って下さい。
- ・インタークーラー洗浄用（灰色）
・インタークーラー冷却システムを洗浄するときは、エンジンを回さないで行って下さい。

間違った洗浄方法は、エンジン損傷の原因になります。洗浄の詳しい方法は取扱説明書を参照下さい。

58071-0204
DC05597B42 C

(E)

**警告**

- ・高圧が入力されています。火中に付けては、絶対に入れなさい。

Kawasaki

58070-3781

DC080808K6 C

(F)

**警 告**

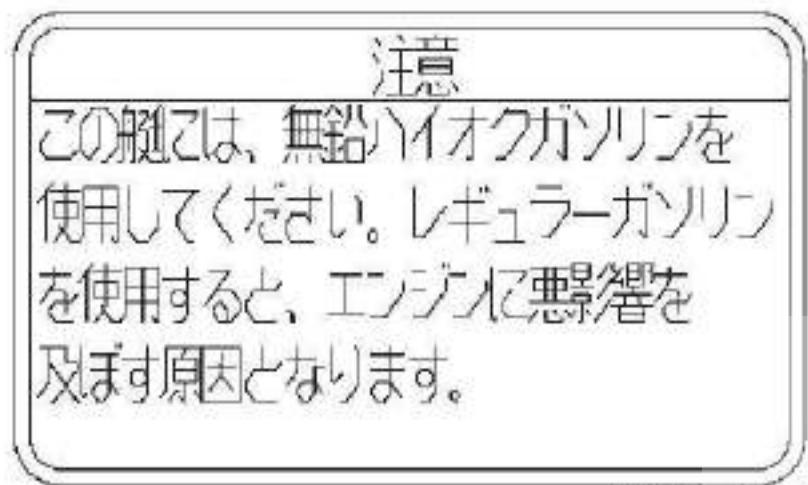
燃料を入れる時は、エンジンを止め、通気性の良い、火気のない場所で行って下さい。

Kawasaki 58070-3788
58070-3788

DC051058M2 C

18 一般事項

(G)



56030-3881

06052578M2_G

(H)

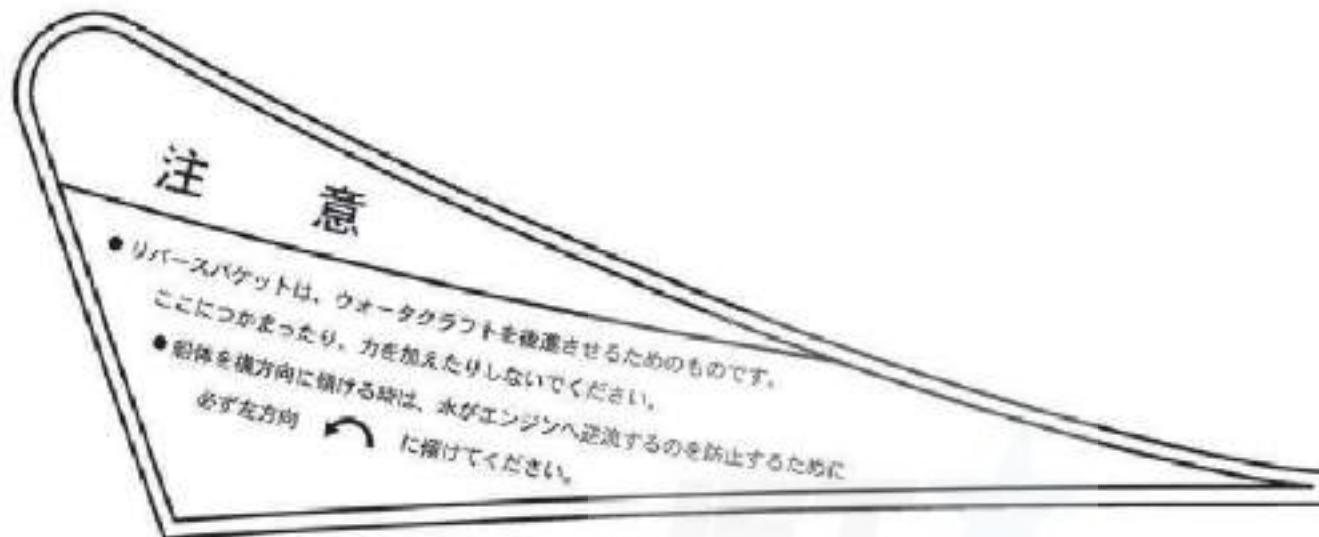


Kawasaki

56030-3881

06050518M2_G

(I)



56070-3995

DG052378 S

(I)



56070-3995

DG052378 S

(I)

▲ 警 告

- 乗船者は、JCI（日本小型船舶検査機構）認定のライフジャケットを必ず着用してください。
- 乗船者は、身体に合ったものを使用してください。
- 乗船者は身体を保護できる衣服を着用してください。
海水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、
体筋肉内に水が入り脳髄する恐れがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。
- 乗船者は身体を保護できるウェットスーツ・パンツ等を必ず着用してください。
海水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、
体筋肉内に水が入り脳髄する恐れがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。
- 操縦には、特殊小型船舶操縦士免許が必要です。操縦免許証を持って乗組してください。
- 乗組者が落水したときにエンジンが停止するようキルスイッチコードを手首に附め、
ハンドルバー年に結まないようにしてください。
下船後は子供や他の人が使えないようキルスイッチコードを
ウォータクラフトから外してください。
- 自分の機関性能をよく知り、無理な航進はしないでください。
自分の機関性能を超えた航進をすると、思い通りに操作できなかったり、
落水や衝突の可能性が増えたりします。
- 落水や衝突のジャンプは骨筋/骨盤、膝、足やくるぶし等を損傷あるいは
骨折する恐れがあります。ジャンプは行わないでください。
- ウォータクラフトの背後に入がいるときはスロットルを開けないでください。
エンジンを停止させるか、アイドルスピードにしてください。吸水口
- エンジン運転中はジェットポンプの吸水口に近づかないでください。
スロットルを開けると、ジェットノズルから噴出される
水や異物だけがをする恐れがあります。
- 長い髪、だぶついた衣服、ライフジャケットの紐等が
巻き込まれて、けがをしたり、割れたりする恐れがあります。
- 飲酒や薬物の服用後は絶対に乗船しないでください。
●車両免許書を必ず読んで、
よく理解してからご使用ください。



56070-3995

(I)

⚠ 警 告

ウォータクラフトの事故では衝突が多く児童につながっています。
次の事項を守り、衝突防止に努めてください。



- 周囲の游泳者、障害物、船舶に絶えず注意してください。
自分の視界が妨げられている場合、あるいは他の人から
見えない位置にいる場合は特に注意してください。
- 游泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度、
距離を保って航走してください。
 - ・他のウォータクラフトや船舶等の後ろを追走しない。
 - ・周囲のものに水しぶきが当かるような距離まで近づかない。
 - ・急旋回など周囲の操縦者が避けられないあるいは予測できない航走はしない。
 - ・浅瀬や暗礁等のある水域は航走しない。
- 早めに行動を起こし、衝突防止に努めてください。ウォータクラフトも
一般船舶と同様にブレーキ装置はありません。
- 障害物を避けるときはスロットルレバーを変さないでください。方向を
変えるためにはスロットルレバーを操作して推力を確保することが必要です。
航走前には、スロットルレバーとステアリングが正しく作動することを
いつも確認してください。
- 航海法規、地域の条例や規則を必ず守ってください。
- 夜間航走はできません。
- 游泳者の近くや、船舶の往来が多い水域では
航走しないでください。

56070-3995

22 一般事項

(J)



56070-3985

DC05184B-S

(K)



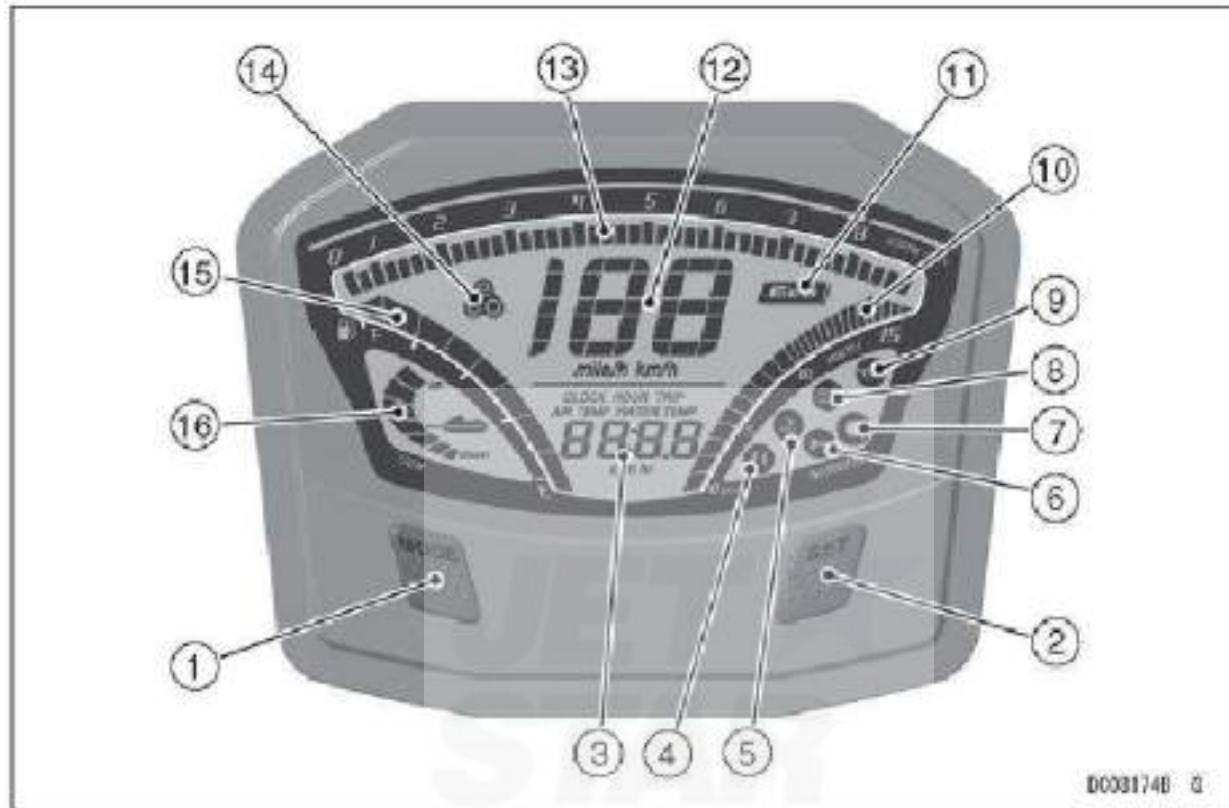
DC05184B-S

マルチファンクションメータ

ステアリングハンドルバーの前方に、マルチファンクションメータがあります。イグニションスイッチを“ON”にすると、メータ上のすべての標示が点灯します。そして赤色警告灯が点灯し、警告ブザーも二回吹鳴します。この初期作動のあとメータは通常の表示をします

要点

- メータの表示は、キルスイッチコードキーやストップボタンでエンジンを止めると3分後に消えます。
- 警告灯が点滅すると警告ブザーも鳴ります。このブザーを止めるには“SET”ボタンか“MODE”ボタンを押してください。
- “MODE”ボタン操作によるメータの切換えは下記の場合に可能です。
 - (1) エンジンの回転速度が3 000以下。
 - (2) 文字警告表示が点滅していない。
- 文字警告表示の点滅を止めるには“SET”または“MODE”ボタンを1秒間以上押してください。
- これで“MODE”ボタンによるメータの通常の切換え操作が出来ます。



1. "MODE" (モード) ボタン
2. "SET" (セット) ボタン
3. 多機能デジタルメーターディスプレー
時計
航走時間/航走距離/積算航走時間
タコメータ
最高速度記録と最高エンジン回転数記録
水温度計
外気温度計
4. FIインジケーター
5. 冷却水温シンボル
6. イモビライザインジケーター
7. "LED" 警告灯
8. バッテリインジケーター
9. エンジン油圧インジケーター
10. ブーストメータ
11. 低燃費航行アシストインジケーター
12. スピードメータ
13. タコメータ
14. ECO航行インジケーター
15. 燃料計
16. エレクトリックトリムコントロールインジケーター

スピードメータ

スピードメータはウォータクラフトの時速を示します。急旋回をしている間は、実際の速度より10ないし20 km/h低い速度を示します。

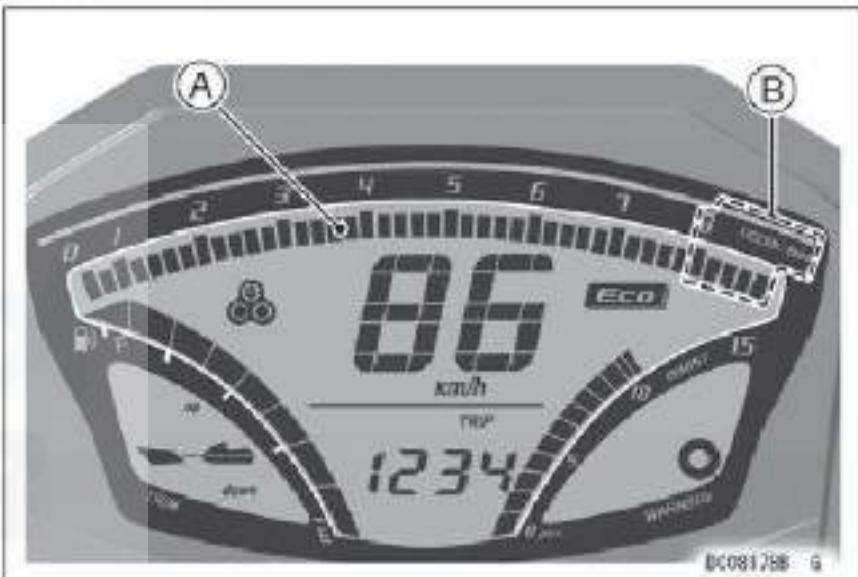


要点

- スピードメータの表示をKm/hおよびmphのいずれかに変えることができます。詳しくは積算航走時間メタ(HOUR)の項目を参照ください。

タコメータ

タコメータは毎分当りのエンジン回転速度(rpm)を示します。タコメータにはエンジンの過回転を示すレッドゾーンがあります。エンジン回転速度がレッドゾーンに入らないように運転してください。



- A. タコメータ
B. レッドゾーン

注意

レッドゾーンは、エンジンの許容回転速度を越えることを示したもので、レッドゾーンに入るような運転あるいはレッドゾーン内の運転は、エンジンが円滑に作動しなくなりエンジンの寿命に悪影響を与えます。

ブーストメータ

ブーストメータのセグメントはスーパーチャージャが 出力するブースト圧力を示しています。もしエンジンが運転していてもセグメントが増加しない場合は「ジェットスキーARK」でスーパーチャージャおよびメータの点検を受けてください。



A. ブーストメータ

多機能デジタルメータディスプレー

スピードメータ下部のディスプレーに、時刻、航走時間、航走路距離、積算航走時間、タコメータ、最高速度記録、最高エンジン回転数記録、水温度計および外気温度計のモードがこの順に表示されます。“MODE”ボタンを押すことにより表示が移り変わります。“MODE”ボタンを2秒以上押し続けると、これらのモードが連続的に移り変わります。

時計

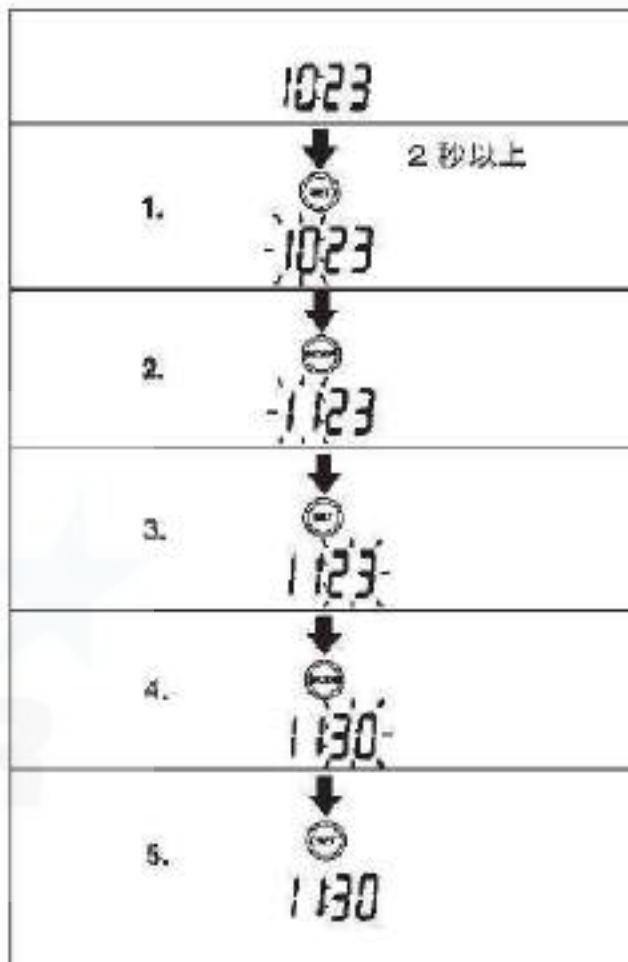


次のように時間を合わせます。

1. “SET” ボタンを2秒以上押す。時間表示が点滅を始める。
2. “MODE” ボタンを押して、時間表示を進める。
3. “SET” ボタンを押す。時間表示の点滅が止まり、分表示が点滅を始める。
4. “MODE” ボタンを押して、分表示を進める。
5. “SET” ボタンを押す。分表示の点滅が止まり、時計が動き出す。

要点

- “MODE” ボタンを瞬間に押すと時間表示または分表示が一つづつ進み、押し続けると連続的に進みます。
- イグニションスイッチが“OFF”的間は、時計はバックアップ電力により正常に動きます。
- バッテリからケーブルをはずすと、時刻表示は12:00にセットされ、次に接続されたときから動き始めます。



航走時間メータ(TIME)

航走時間メータは、表示をゼロにリセットしてから経過した時間を示します。

次のようにリセットします。

1. “SET”ボタンを押し続ける。このモードのすべての表示が点滅を始める。
2. 2秒後表示の点滅が止まり、時・分表示が00:00に戻る。エンジンが回転中ならすぐに動き始める。イグニションスイッチを“OFF”にしない限り、メータは次にリセットする（ゼロに戻す）までカウントを続ける。

要点

- たとえイグニションスイッチをOFFにしても、表示データはバックアップ電力によって保存され、次回ウォータクラフトを使用したときに再びそこから動き始めます。
- エンジンが回転中に表示が99:59になると、いったん00:00に戻ります。そして、再び先へカウントを進め始めます。
- バッテリからケーブルをはずすと、表示は00:00にリセットされます。



航走距離メータ(TRIP)

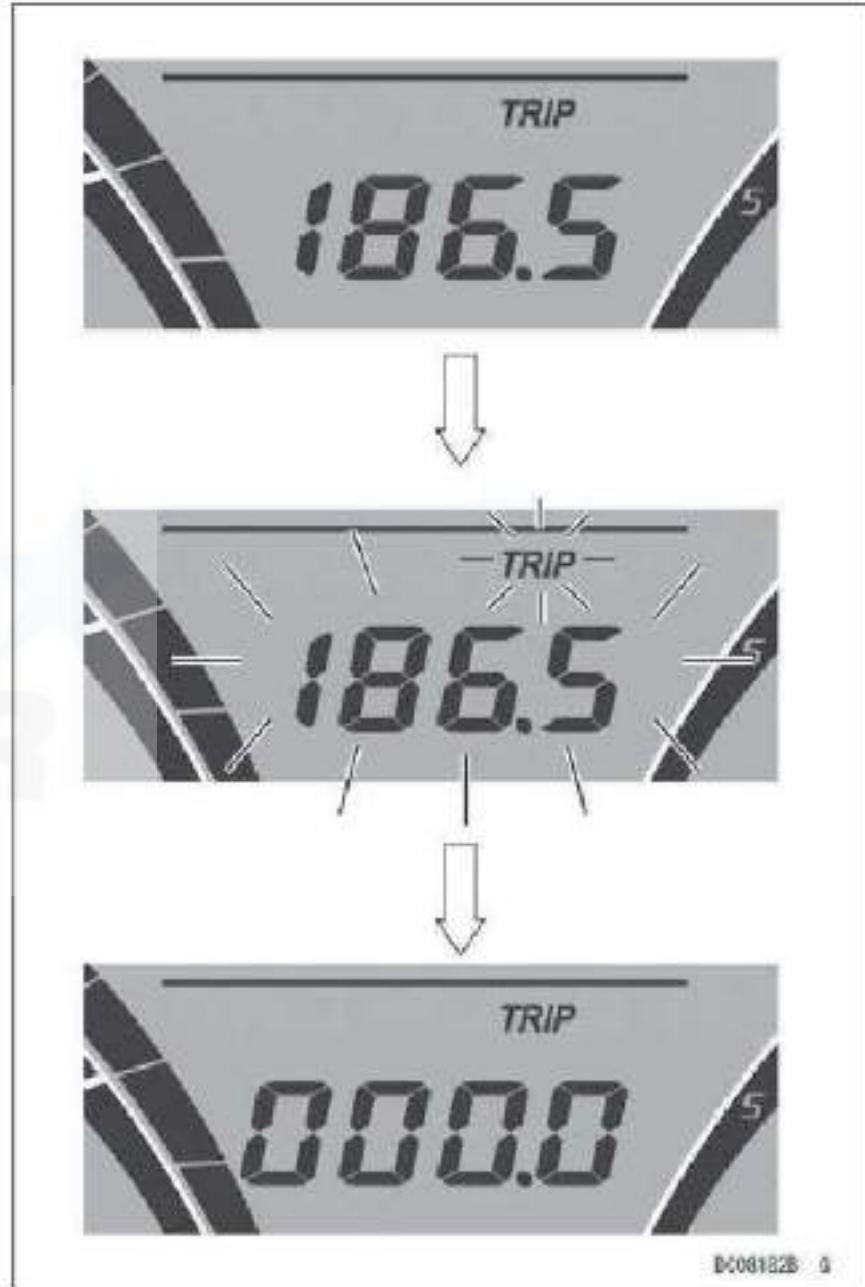
航走距離メータは、表示をゼロにリセットしてから航走した距離を示します。

次のようにリセットします。

1. “SET”ボタンを押し続ける。このモードのすべての表示が点滅を始める。
2. 2秒後表示の点滅が止まり、距離表示が000.0に戻る。航走中ならすぐにカウントを始める。イグニションスイッチを“OFF”にしない限り、メータは次にリセットする（ゼロに戻す）までカウントを続ける。

要点

- たとえイグニションスイッチを“OFF”にしても、データはバックアップ電力によって保存されます。
- ウォータクラフトの停止中に航走距離メータをリセットしたときは、再び航走し始めたらすぐにカウントを始めます。
- 航走中に表示が999.9になると、いったん000.0に戻り再びカウントを始めます。
- バッテリからケーブルをはずすと、表示は000.0にリセットされます。



30 一般事項

積算航走時間メータ(HOUR)

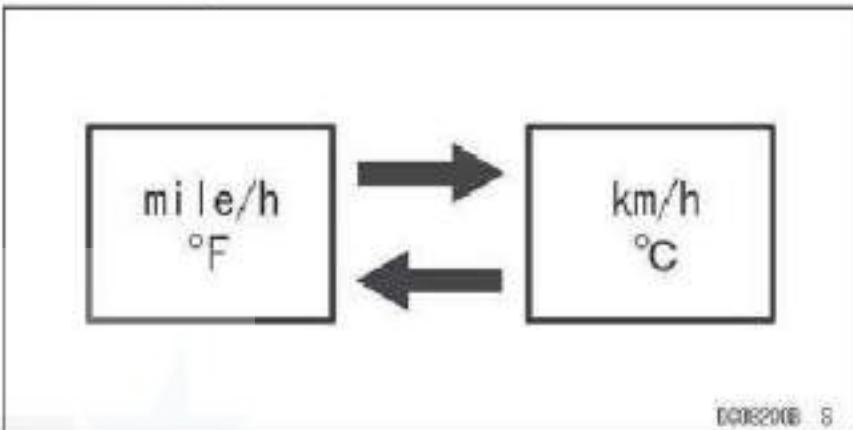
積算航走時間メータは、ウォータクラフトが今までに航走した全時間を示します。このメータはリセットする（ゼロに戻す）ことはできません。



要点

- たとえバッテリからケーブルが外されても、データは保存されます。
- ウォータクラフトが航走中に表示が9999になると、いったん0000に戻り再びカウントを始めます。

このメータの表示状態で“SET”ボタンを3秒以上押すごとに、次の通りの表示に切り替えることができます。



タコメータ(数値)

タコメータは毎分あたりのエンジンの回転速度(rpm)を示します。



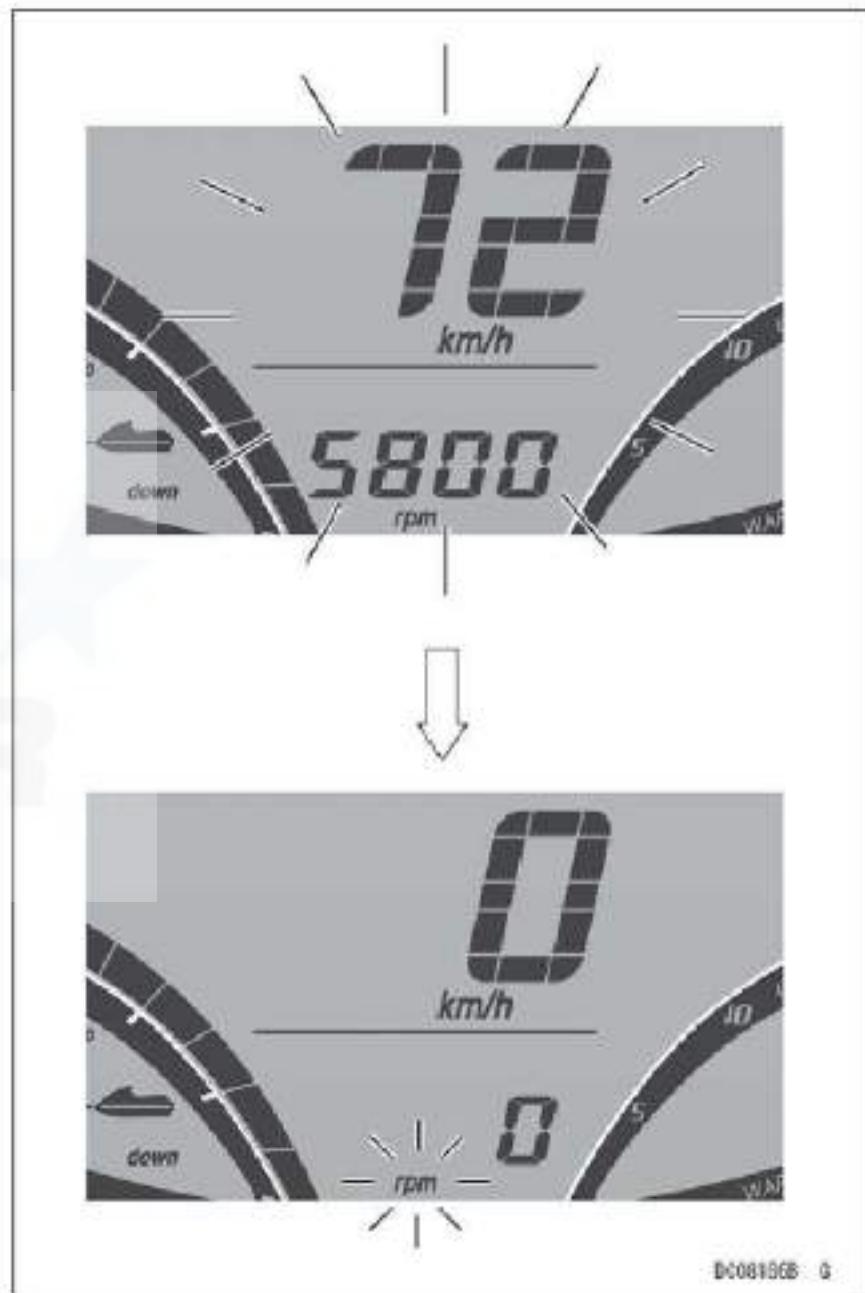
最高速度及びエンジン回転数

前回に表示をゼロにリセットして以来に記録された最高速度とその時のエンジン回転数を表示します。“rpm”表示はこのモードで点滅します。



次のようにリセットします。

1. “SET”ボタンを押し続ける。このモードのすべての表示が点滅を始める。
2. 2秒後、表示の点滅が止まり表示された数字が0に戻る



水温度計

水温度計は周囲の水温度を示しています。水温度表示は5秒毎に更新されます。



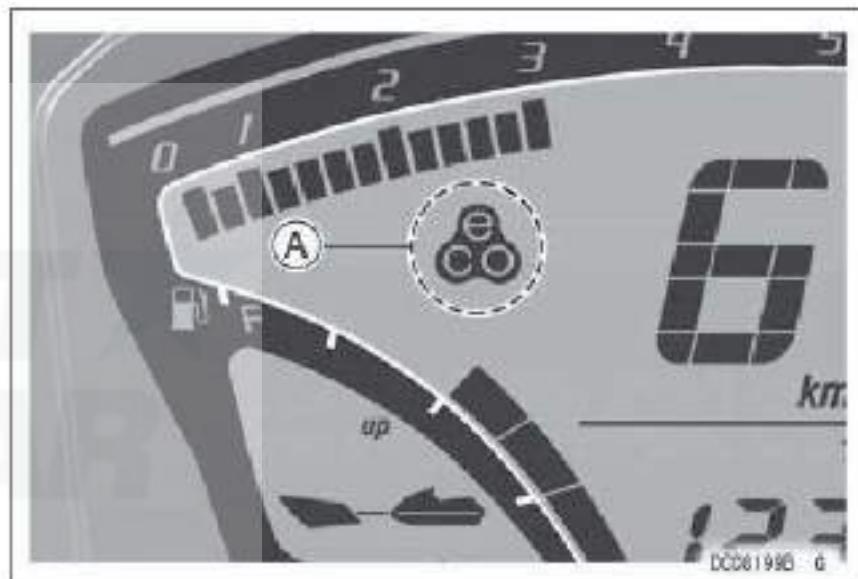
外気温度計

外気温計は周囲の外気温度を示しています。外気温度表示は5秒毎に更新されます



ECO航行インジケータ

運転者が燃料消費を抑えた航行を行っているとき、ECO航行インジケータがマルチファンクションメーターに表示され、低燃費航行であることが確認できます。ECO航行インジケータをモニタしながら航行することにより、燃料効率を高めることができます。



A. ECO航行インジケータ

⚠ 警告

周囲への適切な注意を怠ると、衝突の危険性が高まります。周囲から目を離して、ECO航行インジケータに集中しないでください。広い視野で航行してください。

低燃費航行アシストインジケータ

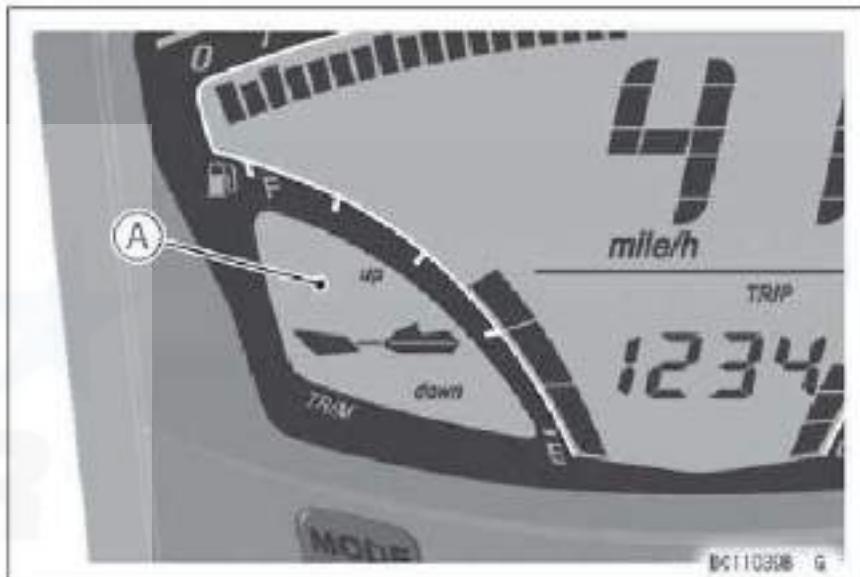
このインジケーターは低燃費航行アシストモードの作動状態を表示します。低燃費航行アシストモードの詳細については、操縦方法の項の低燃費航行アシストモードを参照してください。



A. 低燃費航行アシストインジケータ

エレクトリックトリムコントロールインジケータ

このインジケーターはエレクトリックトリムコントロールの作動状態を表示します。エレクトリックトリムコントロールの詳細については、操縦の項のエレクトリックトリムコントロールを参照してください。



A. エレクトリックトリムコントロールインジケータ

燃料レベル計／“FUEL”文字／警告灯

燃料タンクの燃料は、表示されるセグメントの数によって示されます。燃料が満タンのときは、全てのセグメントが表示されます。燃料が減るに従ってセグメントは上から順に消えて行き、タンク内の残量を示します。一番下（Eマーク）のセグメントだけになると、そのセグメントが点滅しはじめます。また、警告ブザーが鳴り警告灯が点灯しスピードメータの下の“FUEL”文字が点滅して、操縦者に警告します。警告ブザーは、メータのどれかのボタンを1秒以上押すと停止します。点滅が始まったときの残りの燃料は28 Lです。スロットルの作動は半分にしてできるだけ早く給油してください。このウォータクラフトには予備タンクがありません。（「燃料」と「操縦装置」の項参照。）



オイル圧力シンボル／“OILP”文字／警告灯

エンジンオイルの量が減り、オイル圧力が低下するとブザーが鳴り警告灯が点灯します。オイル圧力シンボル、“OILP”文字が点滅し、操縦者に警告します。同時にエンジンの回転速度を自動的に3 000 rpm以下に制御しますので、直に岸に戻り、できるだけ早くオイルを補充してください。（「エンジンオイル」の項参照。）警告ブザーは、メータのどれかのボタンを1秒以上押すと停止します。

要点

- ウォータクラフトが転覆して復旧した場合、イグニションスイッチがONになっていると警告灯が点滅したままになります。

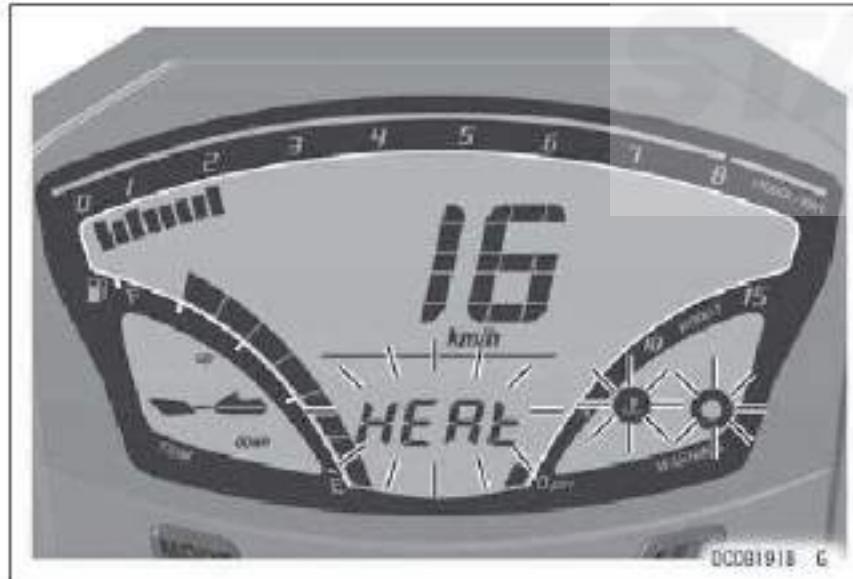


水温シンボル／“HEAt”文字／警告灯

冷却水の温度が高くなり過ぎると警告ブザーが鳴り、警告灯が点灯します。さらに、水温シンボル及びスピードメータの下の“HEAt”文字が点滅します。同時にエンジンの回転速度を自動的に3 000 rpm以下に制御しますので、直ちに岸に戻り、冷却系統が詰まっていないか点検してください。警告ブザーは、メータのどれかのボタンを1秒以上押すと停止します。（「操縦方法」の章の「特殊な手入れ」の項参照。）

注意

エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータクラフトを操縦しないでください。



バッテリシンボル／“bAt”文字／警告灯

バッテリ電圧が11.5 V以下になると、警告ブザーが鳴り警告灯が点灯します。さらに、バッテリシンボルと共にスピードメータの下の“bAt”文字が点滅して、警告ブザーが鳴り、操縦者に警告します。直ちに岸に戻り、バッテリの補充電を行ってください。警告ブザーは、メータのどれかのボタンを1秒以上押すと停止します。



油温センサー異常警告／“OILt”文字／警告灯

エンジンの油温センサーが作動不良を起こすと警告ブザーが鳴り、警告灯が点灯します。さらに、エンジン油圧シンボル、および“OILt”文字が点滅して、警告ブザーが鳴り、操縦者に警告します。

同時にエンジンの回転速度が自動的に3 000 rpm以下に制御されますので、直ちに岸へ戻り、「ジェットスキーARK」で故障修理を行ってください。

ブザーはSETまたはMODEのボタンを1秒以上押すと作動を停止します。

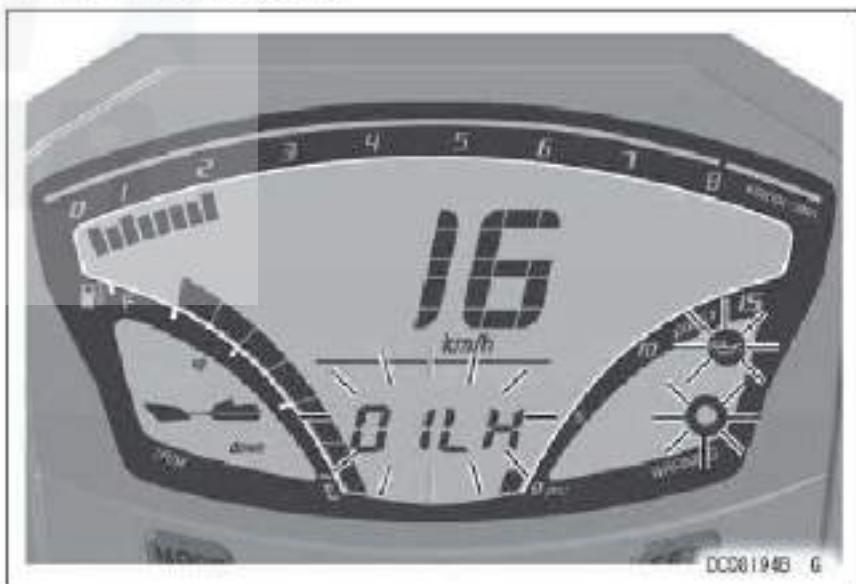


油温オーバーヒート警告／“OILH”文字／警告灯

エンジンオイルの温度が高くなりすぎると警告ブザーが鳴り、警告灯が点灯します。さらに、エンジンオイル圧力シンボル、および“OILH”文字が点滅します。

同時にエンジンの回転速度が自動的に3 000 rpm以下に制御されますので、直ちに岸に帰り冷却水系統のつまり、およびエンジンオイルの量を確認してください。上記以外の原因の場合は「ジェットスキーARK」で点検を受けてください。（「トラブルシューティング」の項の「エンジンの回転速度が3 000 rpm以上に上がらないとき」の項参照。）

警告ブザーはSETまたはMODEのボタンを1秒以上押すと停止します。



FIシンボル／“FI”文字／警告灯

燃料噴射関連、エレクトロニックスロットルバルブ、エレクトリックトリムコントロールシステムの部分の機能が損なわれると警告ブザーが鳴り、警告灯が点灯します。さらに、“FI”シンボル、および“FI”文字が点滅して、警告ブザーが鳴り、操縦者に警告します。直ちに岸へ戻り、「ジェットスキーアーク」で故障修理を行ってください。ブザーはメータのどちらかのボタンを押すと作動を停止します。故障の原因によっては自動的にエンジンの最高回転を3 000 rpmに制限します。



イモビライザアンプ異常警告／“Innb”文字／警告灯

イモビライザ装置のアンプが作動不良を起こすと警告ブザーが鳴り、警告灯、イモビライザシンボル、および“Innb”文字が点滅して、警告ブザーが鳴り、操縦者に警告します。「ジェットスキーアーク」で故障修理を行ってください。ブザーはSETまたはMODEのボタンを1秒以上押すと作動を停止します。



イモビライザキー照合警告／“19nI”文字／警告灯

登録された以外のキーが使われた場合は警告ブザーが鳴り、警告灯、イモビライザシンボル、および“19nI”文字が点滅して、警告ブザーが鳴り、操縦者に警告します。



通信異常警告／“Err”文字／警告灯

メータと電子制御ユニット(ECU)との間の通信に異常がある場合は警告ブザーが鳴り、警告灯が点灯します。さらに“FI”シンボル及び“Err”文字が点滅して、警告ブザーが鳴り、操縦者に警告します。「ジェットスキーARK」で故障修理を行ってください。ブザーはSETまたはMODEのボタンを1秒以上押すと作動を停止します。



燃料

- 無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

注意

- 必ず無鉛プレミアムガソリンを使用してください。燃料を補給するときは、必ず無鉛プレミアムガソリンであることを確認してから行ってください。レギュラーガソリンを使用すると、エンジンに悪影響を及ぼす原因となります。
- 高濃度アルコール燃料を使用しないでください。高濃度アルコール燃料を使用すると、エンジンや燃料系の部品を損傷させる原因となります。
- 粗悪ガソリンまたは燃料に不適切な添加剤を使用しないでください。粗悪ガソリンまたは不適切な添加剤を使用すると、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

燃料の注入

警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

- 燃料タンクはエンジルーム前部にあり、燃料注入口は船首備品入れのふたの下にあります。

- エンジンを停止状態にします。
- 艇を水平に保ちます。

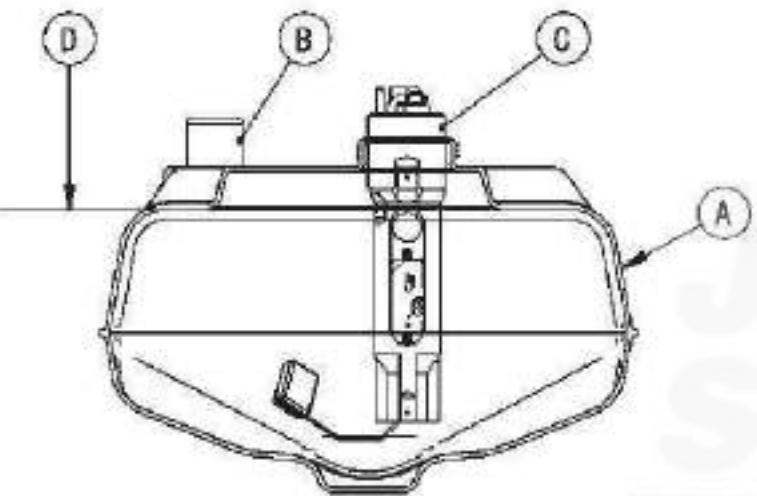


A. 燃料注入口キャップ

- キャップを開き、燃料を注入してください。注入するときは、細いホース等を用いると容易に注入ができます。また、ゆっくり注入すると、燃料タンク内の空気を抜くことができます。
- 座席シートを取り外し燃料タンクの液面の上昇を確認します。
- マルチファンクションメータの燃料レベル計でも確認します。
- こぼれた場合はただちに布でふき取ってください。
- 水上での給油や条例等で禁止されている砂浜での給油はしないでください。
- タバコを吸いながら給油しないでください。

⚠ 警告

燃料をタンク一杯に注入しないでください。温度の上がったタンク内では燃料が膨張し、ペントチューブから溢れることがあります。注入後はキャップを確実に閉めてください。



- A. 燃料タンク
- B. 燃料注入口
- C. 燃料ポンプ
- D. 燃料油レベル上限

注意

燃料に不純物が入らないよう、雨およびほこりの中での注油はしないでください。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、シートを取り外して数分間換気してください。（「シートラッチ」と「備品入れ」の項参照。）

⚠ 警告

気化したガソリンがエンジルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

要点

- シートを開けたときにガソリンのにおいがする場合、「ジェットスキーARK」で燃料系統の点検を受けてください。

エンジンオイル

エンジンには適量のエンジンオイルを保つことが不可欠です。「調整方法」の章の「エンジンオイル系統」に従がってエンジンオイルおよびオイルフィルタを交換してください。エンジンオイルにはごみ等が溜まる他、長時間使用によりオイル自体が劣化します。

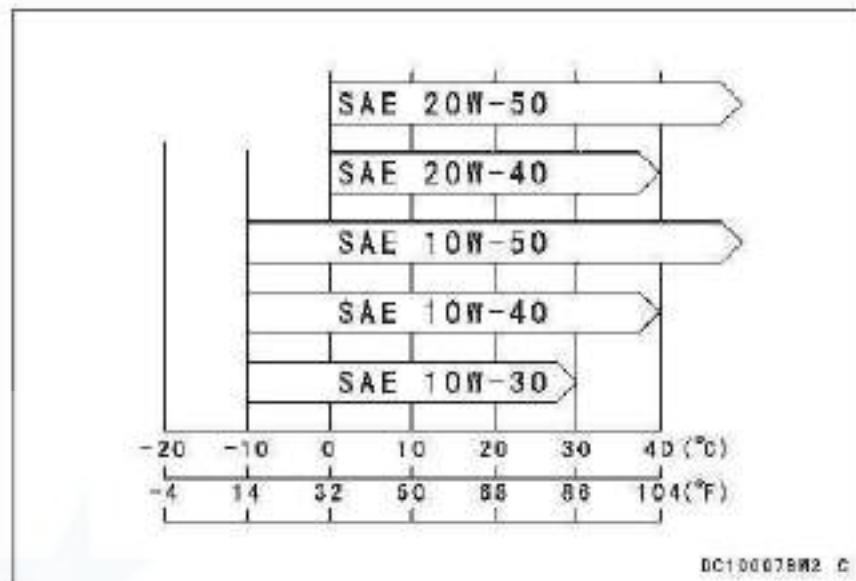
オイルの必要特性

タイプ:	API SG、SH、SJ、SLまたはSM(JASO MA、MA1またはMA2) SAE10W-40
必要量:	4.5 L(オイルのみ交換時) 5.5 L(エンジンを完全に空にした時)

要点

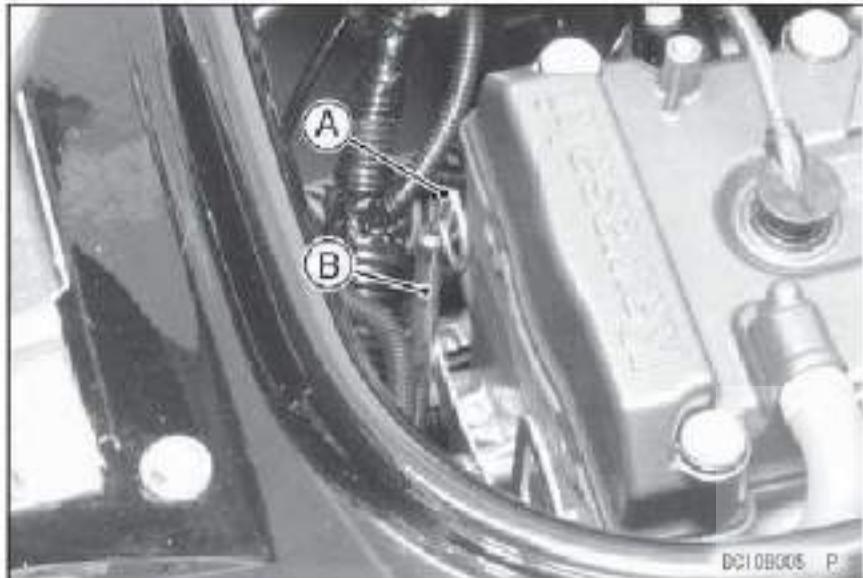
- エンジンの性能、耐久性に悪影響を与えることがあるので、エンジンオイルに摩擦を低減させる添加物は加えないでください。

通常10W-40が推奨オイルですが、使用環境状況によってはオイル粘度を次の表により変える必要があります。



エンジンオイルレベルの計測

- 毎回使用前にはオイル油面を計測してください。不足している場合には補給してください。「操作方法」の章の「乗る前の点検項目」を参照してください。
- オイルレベルを計測する時は必ずウォータクラフトを極力、前後・左右方向に水平にしてください。
- 計測ゲージを引抜き、きれいな布でふき取り、ゲージパイプに差込みます。再びゲージを引抜きオイルレベルを調べます。

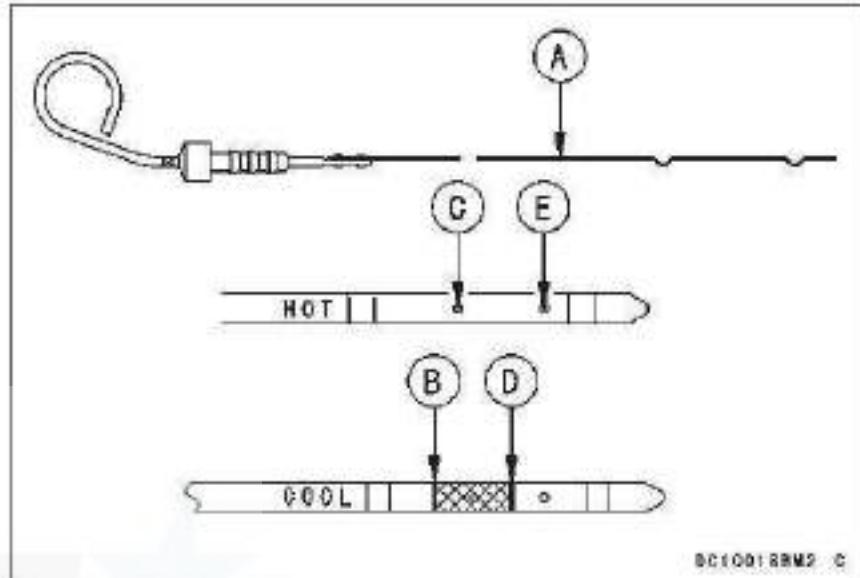


A. 計測ゲージ
B. ゲージパイプ

- オイルレベルは “H” (ハイレベル) と “L” (ローレベル) の間でなければなりません。ゲージ表面の冷間時の計測用レベルマークを使用してください。

要点

- ゲージ表面には温間用・冷間用の2種のマークがあります。エンジンオイルが温まっているか否かで読み取るマークを選んでください。次のイラストを参照ください。



- A. 計測ゲージ
B. 冷間時の “H” (ハイレベル)
C. 温間時の “H” (ハイレベル)
D. 冷間時の “L” (ローレベル)
E. 温間時の “L” (ローレベル)

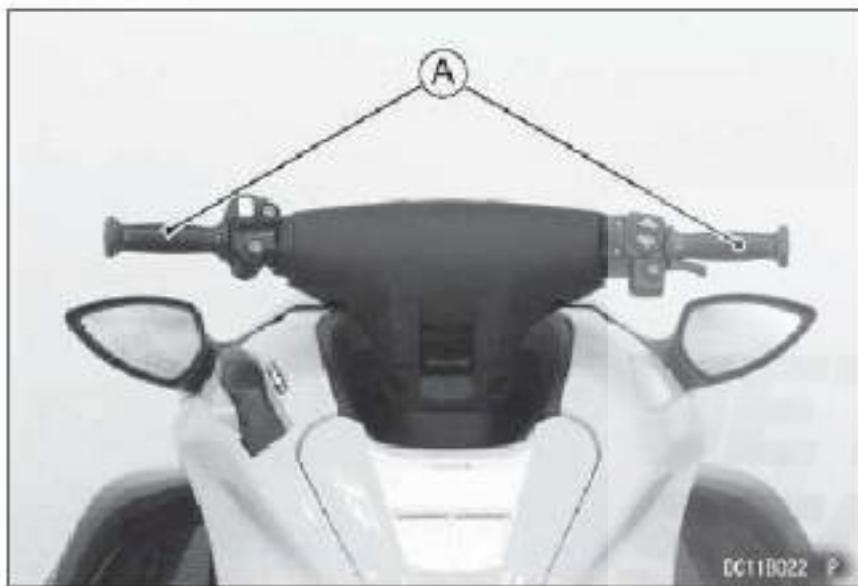
- オイルレベルが “L” (ローレベル) を下回っている時は “L” (ローライン) 追補給してください。補給するオイルは既にエンジンの中にあるものと同じタイプ・銘柄を使用してください。
- エンジンオイルの補給方法に関しては「整備と調整」の章の「エンジンオイル系統」を参照ください。

注意

エンジンの中にごみ等が入らないよう注意してください。

操縦装置

ステアリングハンドルバー

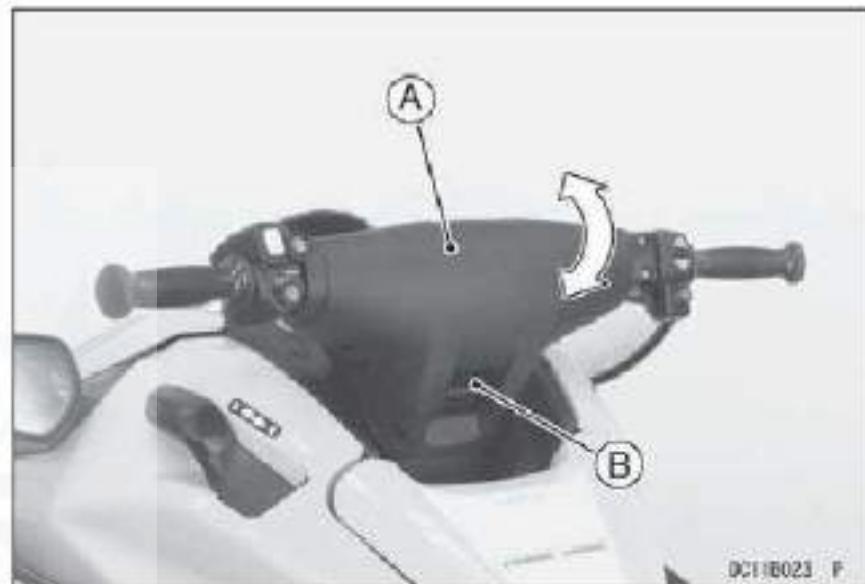


A. ハンドルバー

- ステアリングハンドルバーは自転車のハンドルと同じ機能を持っています。エンジンが回転しており、かつ、スロットルレバーを引いているときのみ、ハンドルバーを動かす事によってウォータクラフトを旋回させる事ができます。ハンドルバーはコントロールケーブルでウォータクラフト後部のステアリングノズル（ジェットノズル）とつながっています。

チルトレバー

ハンドルバーの角度を変えることができます。ハンドル下部のチルトレバーを押しながら好みのハンドル角度に調整してください。5段階の調整が可能です。



A. ハンドルバー
B. チルトレバー

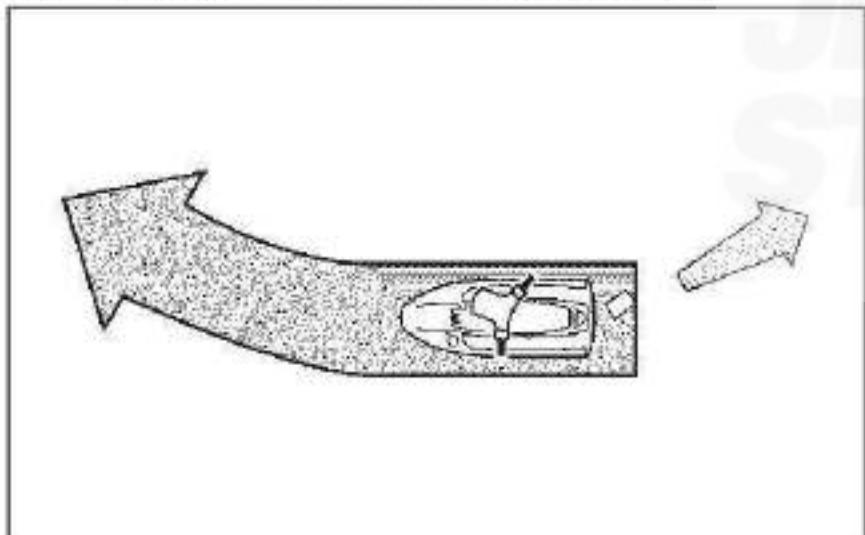
警告

航行中は絶対にチルトレバーを操作しないでください。ハンドルの角度が急に変わり事故につながる恐れがあります。

カワサキスマートステアリングシステム

旋回するためには、ジェットノズルに推力が必要です。カワサキスマートステアリングシステムの働きにより、スロットルレバーを放したときでも、特定の条件下においてハンドルを切れば旋回します。これは、操縦者が旋回操作を学ぶことを手助けする補助的な舵とりシステムです。

カワサキスマートステアリングシステムは、ハンドル操作と船の速度を絶えず検知しています。スロットルを放していくても、船の速度が速い場合、ハンドルを右または左に操作すれば、システムが働き、自動的にエンジン回転速度が高くなり、推力が増加します。エンジンを止めたり船の速度が遅い場合は、このシステムは働きません。



重要

緊急に旋回するには大きな推力が必要です。適度にスロットルを開けてジェットノズルに必要な推力を与えてください。

必要に応じてスロットルを開ければより速く旋回できますので、カワサキスマートステアリングシステムに頼らないでください。

カワサキスマートステアリングシステムは、以下の条件を全て満足したときに機能します。

- 一定時間の平均エンジン回転速度が3 000 rpm以上である
- スロットルレバーを完全に放している
- ハンドルを右か左に一杯切っている

スマートラーニングオペレーションモード(SLOモード)

このウォータクラフトには速度を約30%制御する機能、SLO（スマート・ラーニング・オペレーション）モードの機能がついています。

マルチファンクションメータにはこの機能はSLOと表示されます。また、この速度制限の無い通常モードである、FP0（フル・パワー・オペレーション）モードはFP0と表されます。

SLOモードでもメーターの各種作動・警報機能およびKSS機能等は通常モード（FP0）と全く同じように作動します。

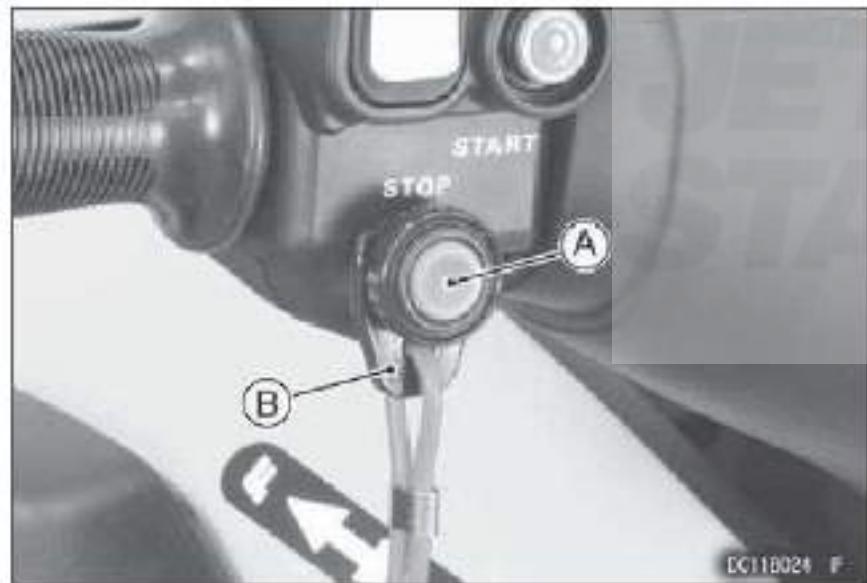
FP0モードからSLOモードへの切り替えおよびその逆は、エンジンを停止しイグニションキーをFP0モードキーからSLOモードキーまたはその逆に差し替えて下さい。詳細は「一般事項」の章の「マルチファンクションメータ」および「イグニションスイッチ」の項目をご覧ください。

初心者および経験の浅い運転者がウォータクラフトの操縦技能を安全に習得できるよう、ウォ-

タクラフトの所有者および運転者はこのSL0機能について熟知してください。

ストップボタン

- ストップボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。ストップボタンは赤色で、上方に“STOP”と表示されています。ストップボタンを押すとエンジンは停止します。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いても、エンジンは停止します。
- 下船後は子供や他の人が使えないように、キルスイッチコードをウォータクラフトから外してください。



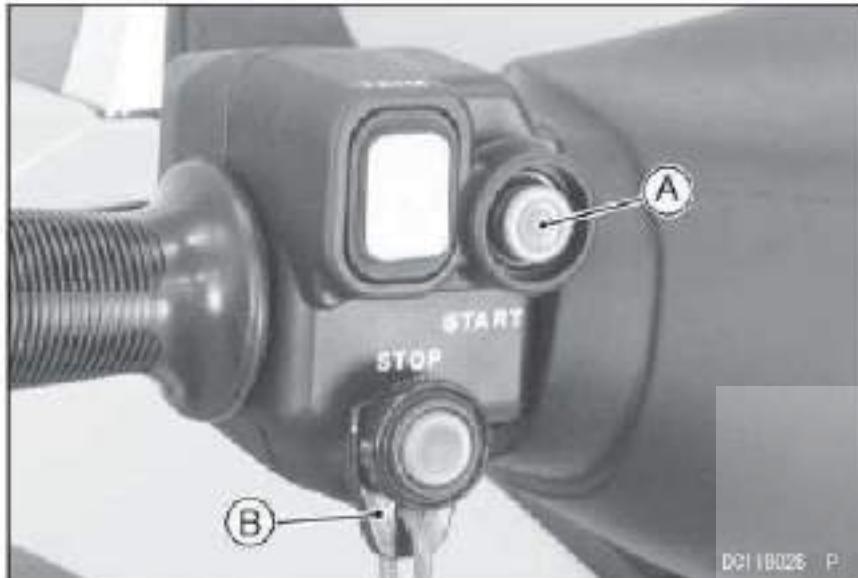
A. ストップボタン
B. キルスイッチコードキー

スタータボタン

- スタータボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。スタータボタンは緑色で、“START”と下方に表示されています。キルスイッチコードキーをストップボタンの下に差し込み、イグニションキーを差し込んで、スタータボタンを押すとエンジンが始動します。エンジンが始動したらボタンを放してください。キルスイッチコードキーを差し込んでいないと、エンジンは回転も始動もしません。

注意

エンジンが回転しているときや、スタータがまだ回っているときに、スタータボタンを押さないでください。スタータの摩耗を早め、また、スタータの故障の原因になります。



A. スタータボタン
B. キルスイッチコードキー

要点

- エンジンが始動するためには、イグニションスイッチがキー穴に差し込み、キルスイッチコードキーがストップボタンの下に差し込まれていなければなりません。
- 「操縦方法」の章の「エンジンの始動」の項を参照してください。

スロットルレバー

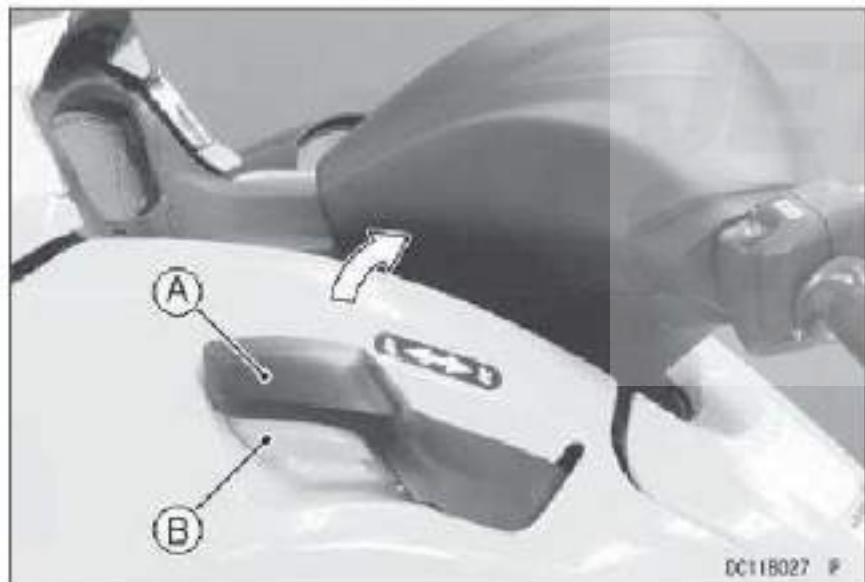
- スロットルレバーはハンドルバーの右グリップに付いています。レバーを手前に引くとエンジンの回転が上がります。レバーを放すとスプリングにより前方に戻ります。エンジン始動前に、スロットルレバーが通常の位置に戻るか必ず点検してください。更にスロットルケーブルには適正な遊びがなくてはなりません。スロットルケーブルの調整方法については「整備と調整」の章をご参考ください。



A. スロットルレバー

シフトレバー

- このウォータクラフトは、スター（船尾）のステアリングノズルについていたパケットの作用で後進ができます。前進、後進切換のシフトレバーは、ステアリングハンドルバーの左下側にあります。シフトレバーは“F”（前進）と“R”（後進）の二段階になっています。
- 前進から後進に切換えるには、シフトレバーのノブを押し込みながらレバーを上へいっぱい引き上げます。
- 後進へ戻すには、ノブを押し込みながらレバーを下へいっぱい押し下げます。



A. シフトレバー
B. ノブ

- 前進から後進へ切換える場合は、その前に必ずスロットルレバーをゆるめて船の速度を落としてください。（「操縦方法」の章の「後進」の項参照。）

! 警告

高速航走中、急にシフトレバーを前進から後進に操作してはいけません。また、ブレーキとして後進を使ってはいけません。ウォータクラフトのバウ（船首）が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。シフトする前に必ず船が停止するまで減速し、また、同乗者に安全のための注意を呼びかけてください。

低燃費航行アシストモード

このウォータクラフトには、低燃費航行アシストモードが装備されており、燃料効率を高めるのに役立ちます。低燃費航行アシストモードを作動させると、フューエルインジェクションの設定が変更され、航行性よりも燃料消費の低減が優先されます。このモードは運転者によりオンオフを切り替えることができます。

低燃費航行アシストモードの作動

- 左ハンドルスイッチハウジングの低燃費航行アシストモードボタンを押し、低燃費航行アシストモードを作動させます。モードが作動するとマルチファンクションメータに低燃費航行アシストインジケーターが表示されます。

要点

- SLOモードでは低燃費走行アシストモードを設定できません。



A. 低燃費航行アシストモードボタン



A. 低燃費航行アシストインジケータ

低燃費航行アシストモードの解除

- 低燃費航行アシストモードボタンを2秒以上押すことにより低燃費航行アシストモードは解除されます。

要点

- 運転の仕方により、燃料消費量は変化します。低燃費航行アシストモードを機能させていても、急発進や急加速を行えば燃料消費量の変化は見られないかもしれません。
- 低燃費走行アシストモードを機能させると出力が若干低下します。

注意

この車には、無鉛プレミアムガソリンを使用してください。レギュラガソリンを使用すると、エンジンに悪影響を及ぼす原因となります。

ワンタッチ8 km/hモード

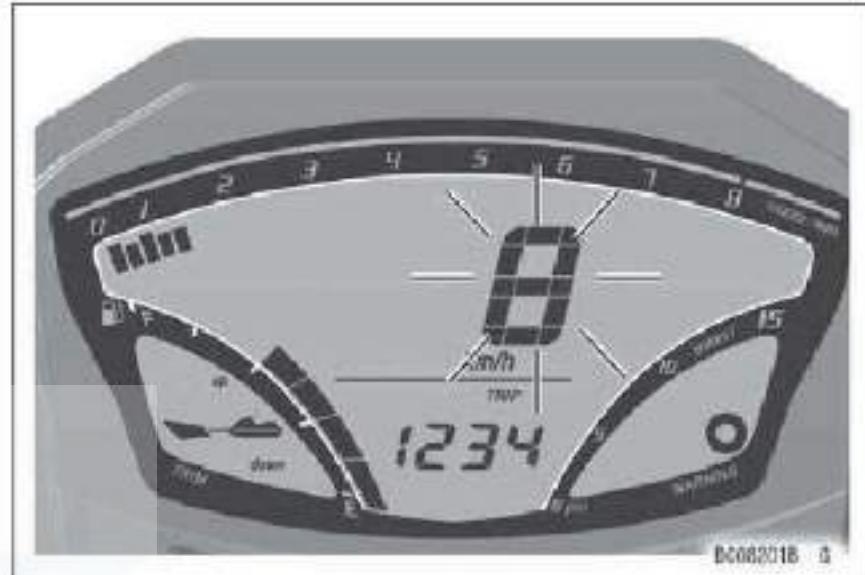
ワンタッチ8 km/hモードを使用することにより、8 km/hのエンジン回転数を維持して低速航行することができます。

ワンタッチ8 km/hモードの作動

- スロットルレバーをリリースし、エンジン回転数をアイドル回転数にします。
- 右スイッチハウ징のセットボタンを(0.3秒以上)押しワンタッチ8 km/hモードを作動させます。ワンタッチ8 km/hモードが作動すると、スピードメータで8 km/hの表示が点滅します。

要点

- ワンタッチ8 km/hモードを作動させたときにブザーが2回鳴ります。



ワンタッチ8 km/hモードの解除

- スロットルレバーを握りこむか、セットボタンを(0.3秒以上)押すことによりワンタッチ8 km/hモードは解除されます。

要点

- ワンタッチ8 km/hモードが解除されたときにブザーが2回鳴ります。

エレクトロニッククルーズコントロールモード

エレクトロニッククルーズコントロールモードを使用することにより、ユーザが設定する任意のウォータクラフトの速度を維持して航行することができます。長距離を航行するときには役立ちます。

エレクトロニッククルーズコントロールモードの作動

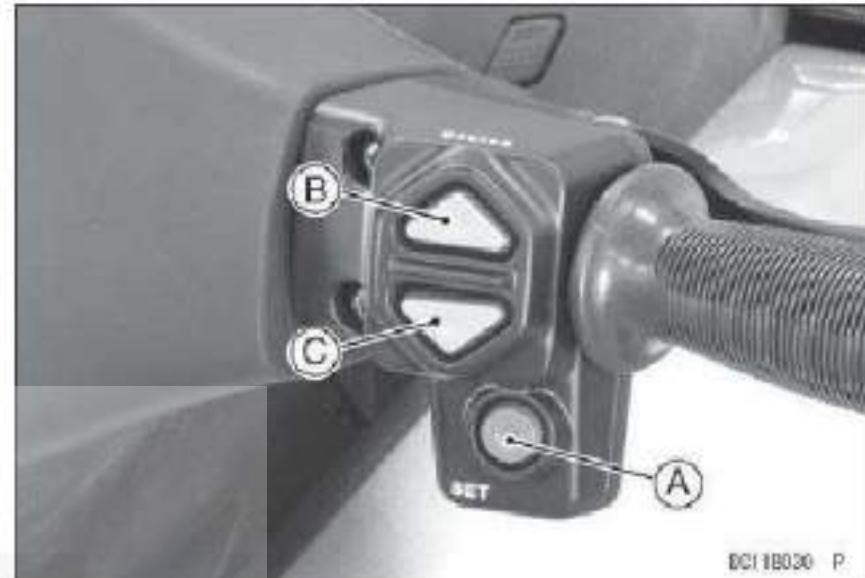
- スロットルレバーを操作し、設定したい航走速度に調整します。

50 一般事項

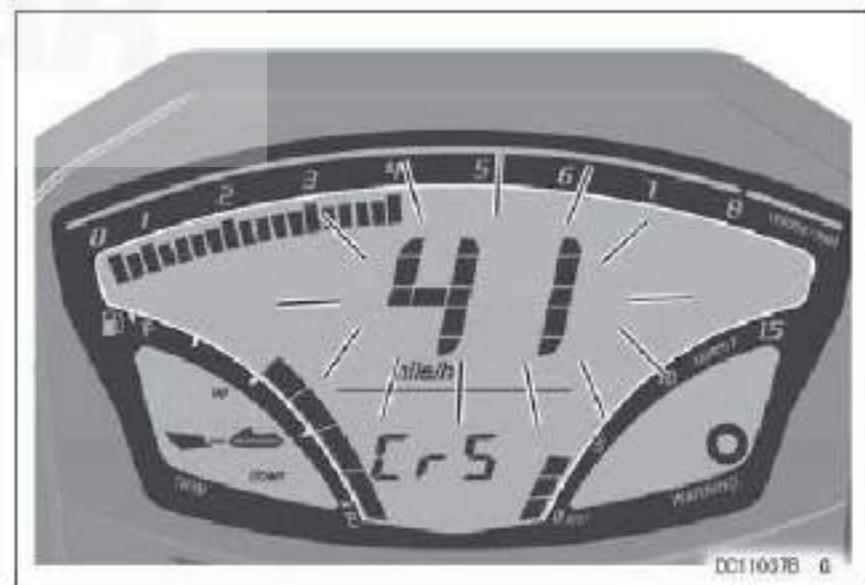
- 右スイッチハウジングのセットボタンを押しエレクトロニッククルーズコントロールモードを作動させます。
- クルーズコントロールモードがブザー音とメータ表示によって変更されたことを確認して、スロットルレバーをゆっくりと握ってください。
- クルーズコントロールモードが解除されないように、クルーズコントロールを設定した位置かそれより手前に引いた位置にスロットルレバーを保ってください。最も楽に操作するには、スロットルレバーをグリップに押し付けるように握りこんでください。

要点

- エレクトロニッククルーズコントロールモードが作動すると、スピードメータの表示が点滅し、スピードメータの表示の下で通常表示(3秒)と点滅した“CrS”文字(1秒)が交互に表示されます。
- エレクトロニッククルーズコントロールモードを作動させたときブザーが3回鳴ります。



A. セットボタン
B. アップボタン
C. ダウンボタン



DCI1A030-B-6

エレクトロニッククルーズコントロールモードの解除

- スロットルレバーを戻すとエレクトロニッククルーズコントロールモードは解除されます。

要点

- エレクトロニッククルーズコントロールモードが解除されるとブザーが3回鳴ります。

ウォータクラフト速度の調整

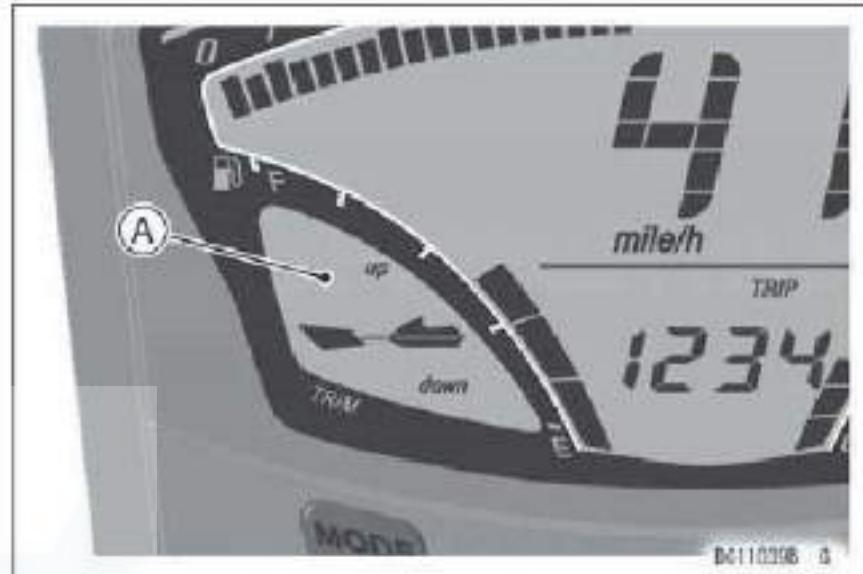
エレクトロニッククルーズコントロールモードが作動しているとき、アップまたはダウンボタンを押すことでエンジン回転数の調整することができます。エンジン回転数は200 rpmごとに変化します。そしてウォータクラフトの速度はそれに応じて変わります。

要点

- エンジン回転数は1750 rpm ~ 7000 rpmの範囲で調整することができます。

エレクトリックトリムコントロール

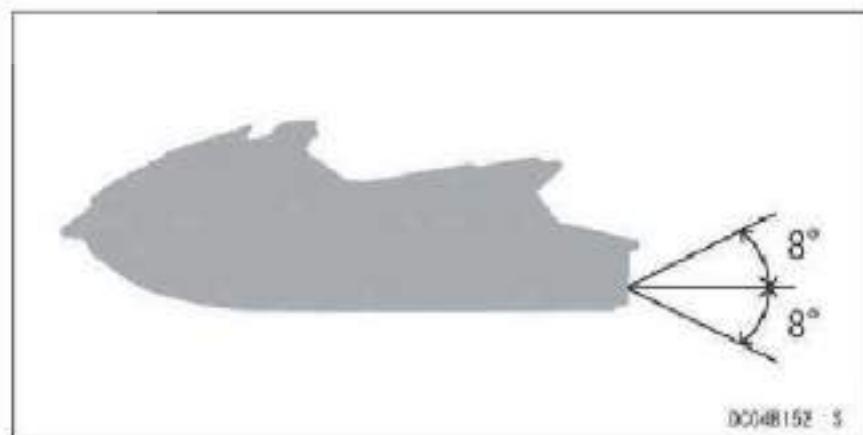
このシステムは、ジェットノズルの角度を電動で調整することで、水面の状態やライディングスタイルに応じて、水面への接面状態を容易に変更することができます。船首の状態はマルチファンクションメータのエレクトリックトリムコントロールインジケーターで確認することができます。



A. エレクトリックトリムコントロールインジケーター

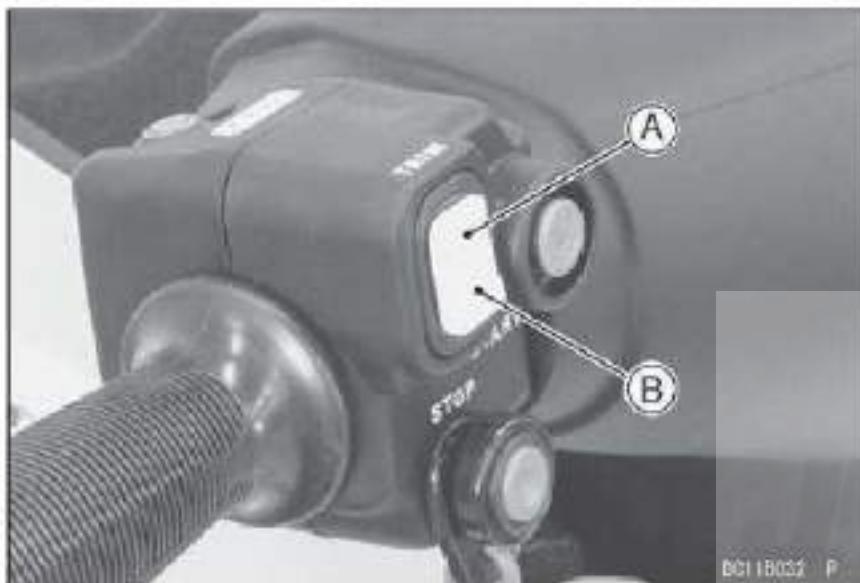
要点

- 調整角度は標準位置から±8°で無段階に変化します。



トリム角の調整は左ハンドルスイッチハウジングのエレクトリックトリムコントロールボタンで

行います。船首を上げる場合はボタンの上側を押し、船首を下げる場合はボタンの下側を押します。



- A. エレクトリックトリムコントロールボタン（上側）
- B. エレクトリックトリムコントロールボタン（下側）

要点

- ボタンを押し続けることでトリム角は連続的に変化します。
- 波が荒いとき、操作性を向上させるために船首を上げてください。また、波が穏やかなときは旋回性を向上させるために船首を下げてください。

イグニションスイッチ

イグニションスイッチは前部小物入れの中に入ります。このウォータクラフトには二種類のイグニションキーが付いています。ひとつは初心者及び経験の浅い方のためエンジン出力を制限して運転できるもの（SL0）で、もう一方は通常の運転ができるもの（FPO）です。またこのキーにはウォータクラフトの盗難防止のためのイモビライザ機能が付いています。

SLO／FPOモード

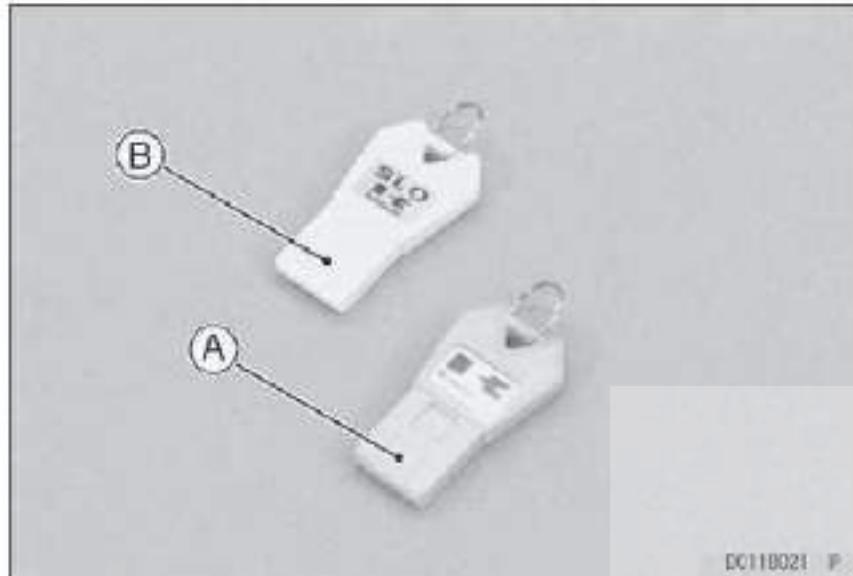
あなたの経験・技量にあわせてエンジン出力を制御したモード（SLO）または通常出力モードの（FPO）いずれかをお選びください。

キーはSL0./FPOモードで色分けがされています。

FPO：オレンジ色

SL0：黄色

またSL0キーにはSL0の文字が表示されています。



- A. EPOキー(通常運転モード:オレンジ色)
B. SL0キー(制御運転モード:黄色)

要点

- イグニッションキーは単独では水に浮きますが、水に浮かないような金属製などのアクセサリーを装着すると沈んでしまう恐れがあります。水に浮かないアクセサリー類はキーには装着しないで下さい。

FPOキーが使われた時は、マルチファンクションメータには次の表示が出ます。



SL0キーが使われた場合は下記の表示です。



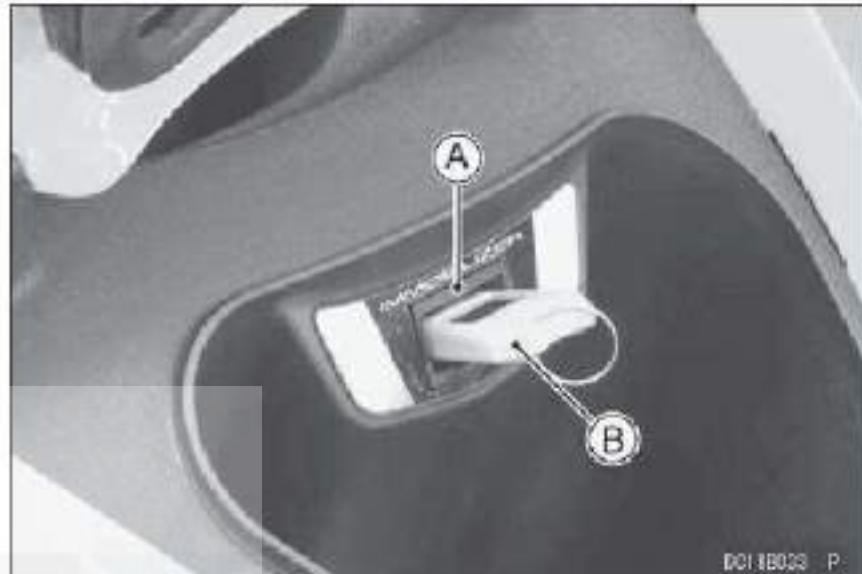
SLOの機能の詳細については本節の操縦装置の項をご参照ください。

要点

- SLOモードへの切り替え時には電源投入時と同じ初期表示がなされ、ブザーが2回鳴ります。その後SLOの文字が時計／航走時間／航走距離／積算航走時間メータディスプレー等の表示の間に3秒毎に交互点滅表示されます。この表示はSLOモードで運転中は継続されます。
- SLOから通常モード(FPOモード)への切り替えの時にも初期画面が表示され、その後FPOの文字が2秒間点灯し消灯します。FPOの文字はそれ以降は表示されません。
- 各種警告の作動、およびその他のメータ機能はSLOモード、通常モード(FPO)とも同じです。

イモビライザ機能の使い方：

全部小物入れの中にあるキー穴にSLOかFP0のキーを挿入し、さらに奥へ押し込みます。電子制御ユニット(ECU)とイモビライザキーの間で交信が交わされ、登録されているキーであることが確認されると警告灯が点滅し、警告ブザーが鳴り、その後マルチファンクションメータに初期表示が現れます。この状態でエンジンの始動ができます。



DCI3B033 P.

A. キー穴
B. イモビライザキー

要点

- SLOモードからFPOモードへ切り替える、またはその逆の場合には必ずエンジンを停止してください。エンジンが作動したままではモードの切り替えができません。
- エンジンが止まっている状態で3分経過すると、メータの表示が消えてイグニションスイッチがOFFされます。キーを挿した状態で再びイグニションスイッチをONにする場合はキーを前方に押してください。

**A. 押す**

ウォータクラフト運転中はキーを抜かないでください。キーを無くするとエンジンの再始動ができなくなり、海上で運転不能になる可能性があります。

イモビライザキーの保護のため次の注意事項をお守りください。

注意

- イモビライザキーを高温にさらさない。
- キーを磁石に接近させない。
- キーの上に荷重をかけない。
- キーのプラスチックカバーを損傷しない。
- キーに衝撃を与えない。

もし登録されていないキーを差し込むとマルチファンクションメータのブザーが鳴り、警告灯が点滅し警告を発します。

イモビライザが作動不良を起こした場合も上記の警告が出ます。詳しくはこの章の「マルチファンクションメータ」の節をご参照ください。

要点

○ イモビライザは電波を利用してるので、周囲の他の電波の影響によりキー照合警告が出る場合があります。

盗難防止や許可なくして他人に使われないために、ウォータクラフトの使用後はイグニションキーをキー穴から取り外してください。

キーの制作:

もしキーを紛失した場合は「ジェットスキーARK」で新しいキーを制作・入手してください。ウォータクラフトを取扱店へ搬入し、電子制御ユニット(ECU)に新しいキーを登録させてください。ECUに新しいキーを登録するには少なくとも同ECUにすでに登録されたキーがひとつは必要です。もし備え付けのキー(SLO/FPO)を二つとも紛失した場合はECU本体を取り替える必要があります。従ってこれら登録されたキーは別々に保管されることをお勧めいたします。

要点

○ 一度に作れる予備キーの数には制限があります。詳しくは「ジェットスキーARK」にご相談ください。

シートラッチ

- シートは前後分割タイプです。どちらもシート後部のラッチをはずすことにより、取りはずすことができます。後部シートから外してください。

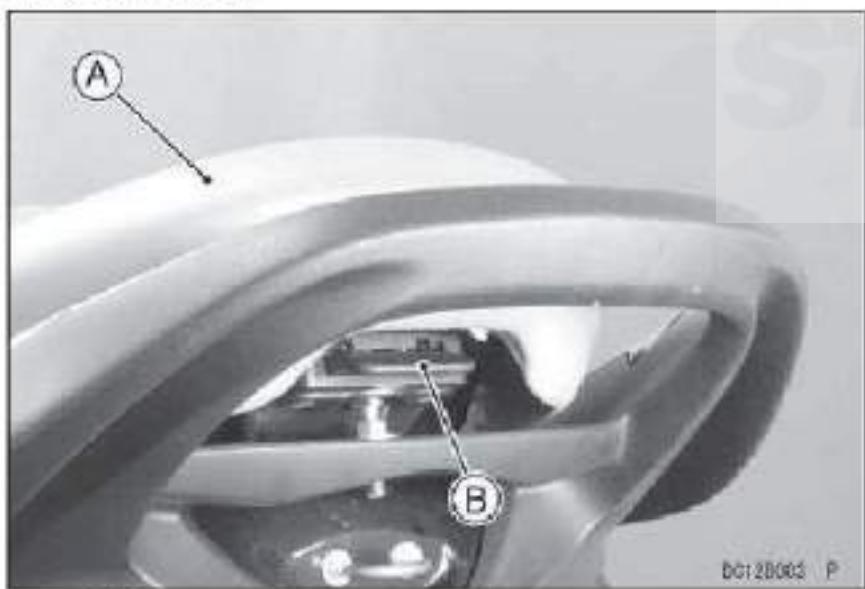
シートの外し方

ラッチハンドルを引き、シートを後方へ外します。

シートの取り付け方

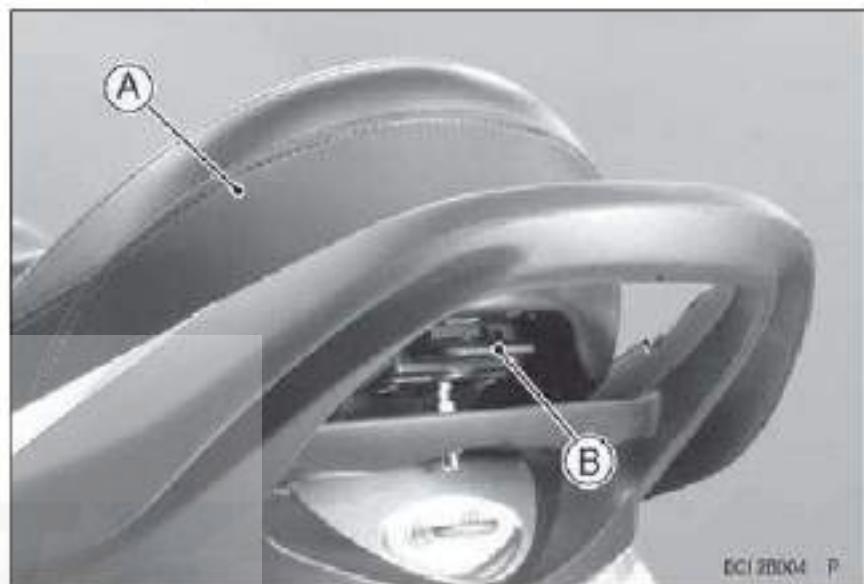
シート先端を所定の位置にきっちりと合わせ、シートの後端を前方へいっぱい押します。シートの後部を押し下げ、ロックします。

JT1500Hモデル



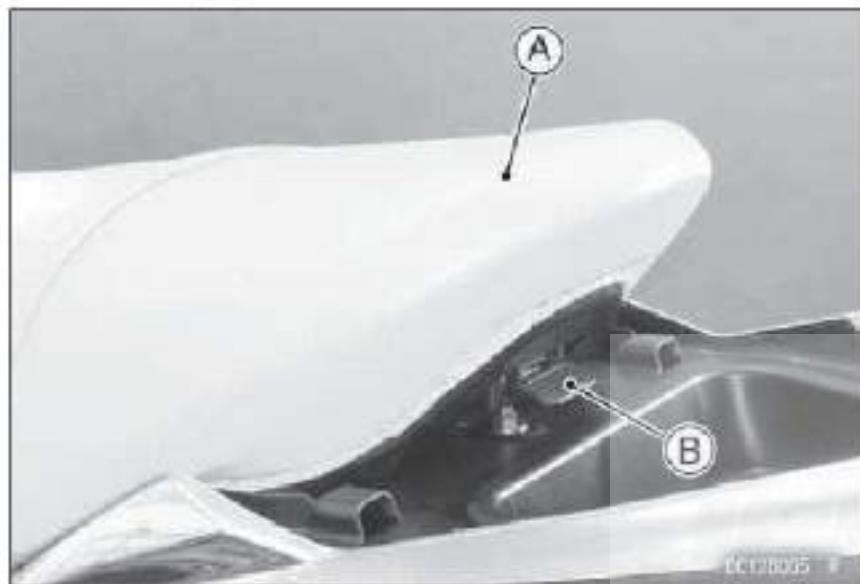
A. 後部シート
B. ラッチハンドル

JT1500Jモデル



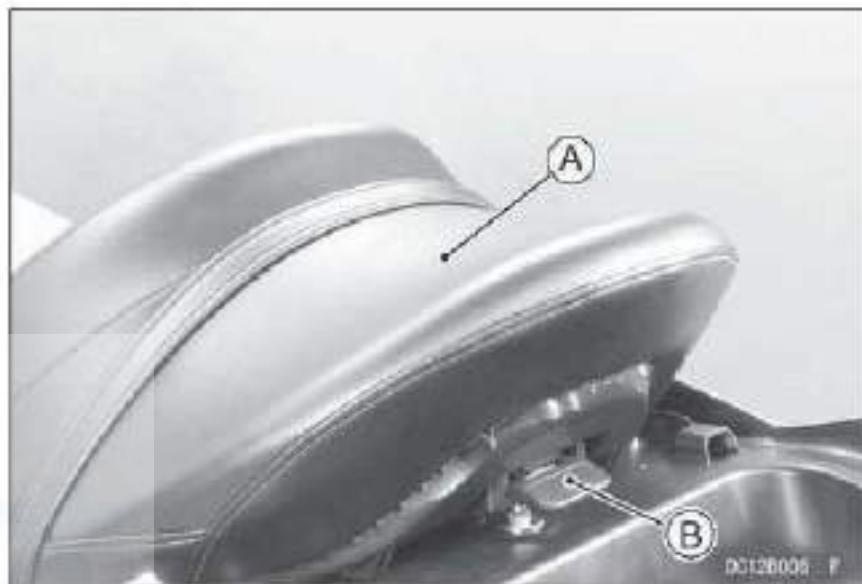
A. 後部シート
B. ラッチハンドル

JT1500Hモデル



- A. 前部シート
- B. ラッチハンドル

JT1500Jモデル



- A. 前部シート
- B. ラッチハンドル

58 一般事項

- ウォータクラフトを輸送するときは、シートがガタついて損傷しないようにラッチを完全にロックしてください。
- シート後方のハンドレールは、水深の深い場所から船に上がるためのものです。また、水上スキー等を引っ張っているとき、同乗者は見張りのために後方に向き、シート後方のハンドレールをつかみます。これら以外の目的に使ってはいけません。（「操作方法」の章の「けん引ロープをかける場所」の項参照。）

注意

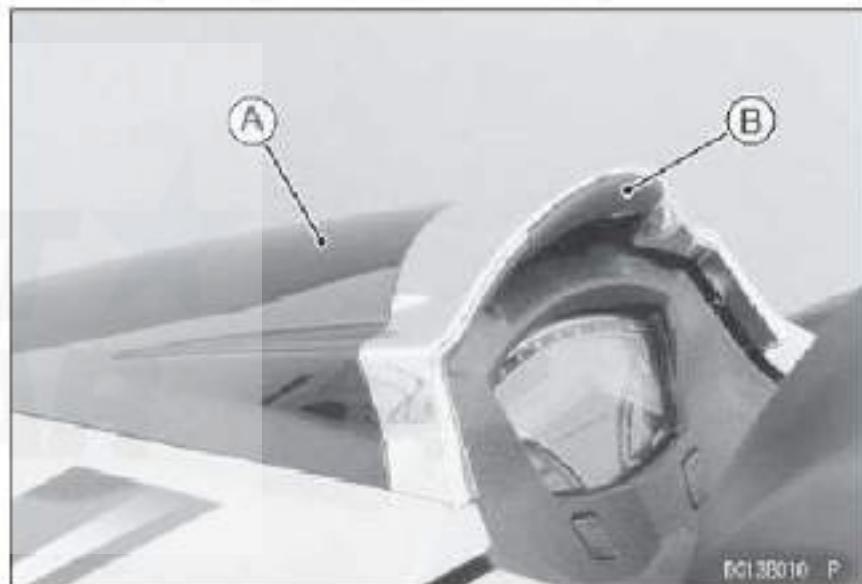
シート後方のハンドレールやけん引フックを使ってウォータクラフトを持ち上げたり、他の船をけん引したり、あるいは船体固定用ベルトでしばりつけたりしないでください。

要点

- ウォータクラフトに乗船する前にはシートのラッチが確実にロックされていることを確認ください。

備品入れ

- 備品入れは船首にあります。この取り扱い説明書を防水の袋に入れて、ここに保管してください。開けるときは、ノブを引っ張りふたをいっぱい開きます。閉めるときは、ふたをおろしノブの周りを押してロックします。



A. 備品入れふた

B. ノブ

- 消火器を格納する容器が備品入れに装備されています。
(消火器は標準装備ではありません。)



A. 備品入れケース
B. 消火器容器

- 備品入れケースを取り外せばさらにその下に格納スペースがあります。バッテリやヒューズがここに装備されており底部には水抜き用のドレンプラグがあります。



A. バッテリおよびヒューズ格納スペース
B. ECU格納スペース
C. ドレンプラグ

注意

ウォータクラフト運転時には必ず備品入れケースを取り付けてください。ケースをつけて航走すると格納スペースに浸水する恐れがあります。

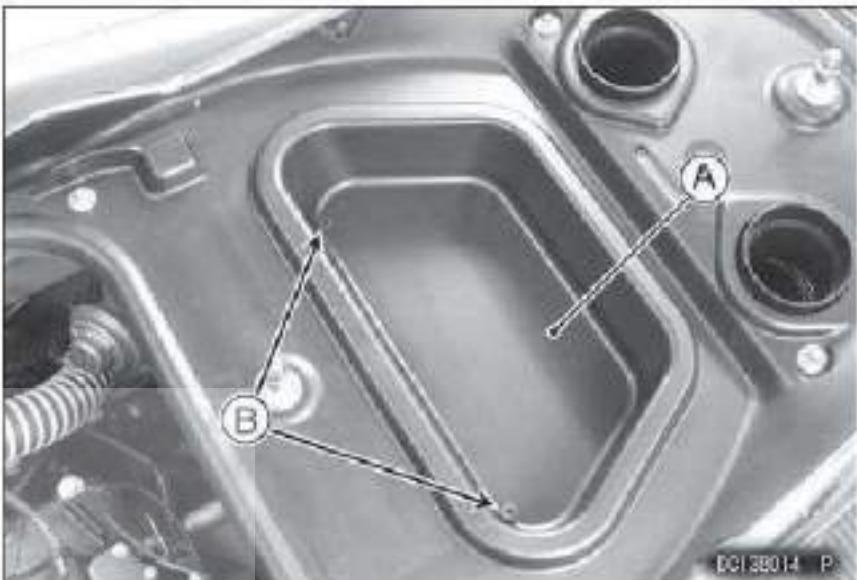
小物入れ

- シートのすぐ前に小物入れ（前部）があります。開けるときは、ふたのノブの下に指を入れ引き上げます。閉めるときは、ノブのまわりを押してロックします。



A. 小物入れ（前部）
B. ノブ

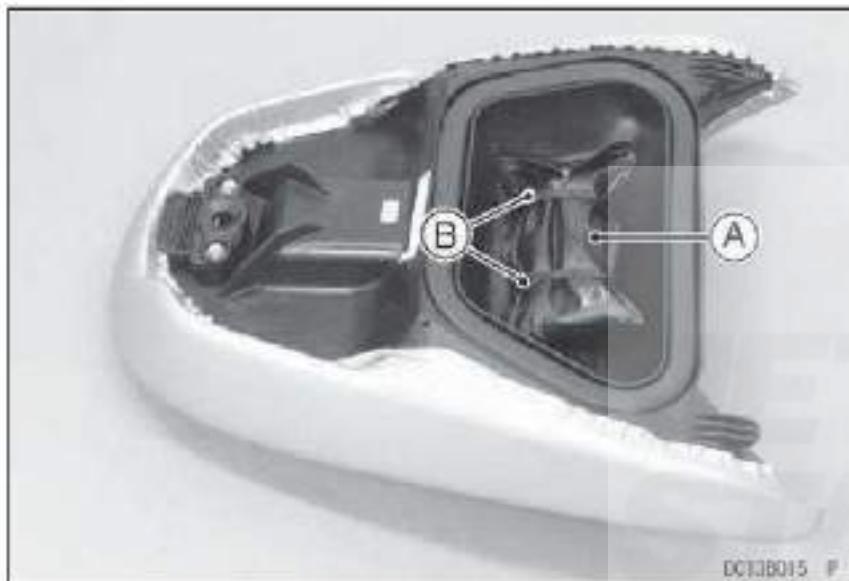
- 後部シートの下に、小物入れ（後部）があります。両方の小物入れには、ごく軽量の物だけを入れてください。



A. 小物入れ（後部）
B. ドレンプラグ

工具

- 工具は後部シートの裏側に収納されています。工具袋はゴムバンドを外して取り出します。



A. 工具袋
B. ゴムバンド

ビルジシステム

このウォータクラフトにはエンジンルームの後部にバキューム式の排水装置が装備されています。この装置は推進用のウォータージェットによりエンジンルームのビルジを吸引・排水します。水上でエンジンが作動しているときのみ作動します。

注意

定期点検整備表に従って、定期的にビルジ排水装置の作動を確認し、ビルジ吸引口周辺のゴミを取り除いてください。

⚠ 警告

このビルジシステムは事故等によるエンジンルームへの浸水に対処するようには設計されていません。

要点

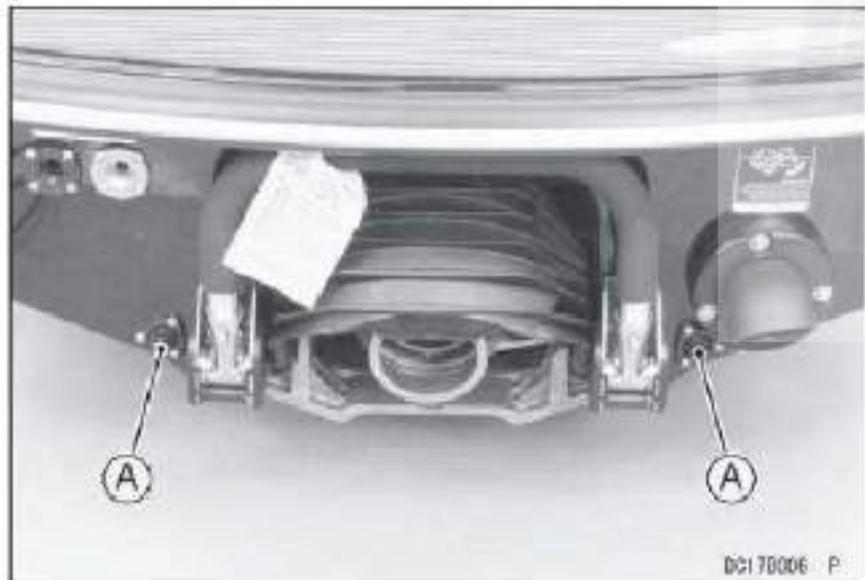
- エンジンルームの残水を排水するには、ウォータクラフトが陸上にある状態で船体後部のドレンプラグを取り外してください。

ドレンプラグ

- スター（船尾）には、エンジンルームにたまつた水を排出するため2つのドレンプラグがあります。ウォータクラフトを陸上に引き揚げたときだけドレンプラグを外してください。

注意

ウォータクラフトを水上に降す前に、エンジンルームに浸水しないようにドレンプラグをしっかりと締めてください。



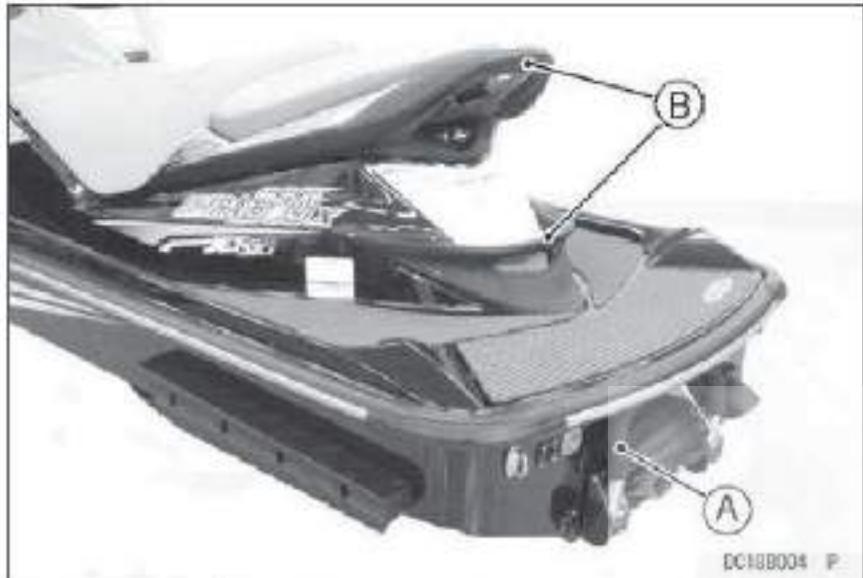
A. ドレンプラグ

リボーディングステップ

- このウォータクラフトには、船尾に折りたたみ式のリボーディングステップが取り付けられています。船尾から乗船するときは、ステップを下へ引き降ろします。放すとスプリングの力でもとの位置に戻ります。このステップとシート後端のハンドレールを使うと、水中からより容易に船に上がることができます。（「操縦方法」の章の「安全な操縦」と「発進」の各項参照。）また、このステップは、水深の深い場所から船に上がるためだけに設計されているので、人をこれにつかまらせて航走しないでください。

⚠ 警告

誰かがリボーディングステップにつかまっているときは、けがを避けるため彼等を水中で引っぱらないでください。



A. リボーディングステップ
B. ハンドレール

操縦方法

安全な操縦

経験の浅い運転者による操縦

- このウォータクラフトには最高速度を制限する機能、SL0（スマート・ラーニング・オペレーション）モードの機能がついています。

経験の浅い運転者の方はウォータクラフトの操縦に慣れるまで、このSL0機能を使って操縦してください。詳しくは「一般事項」の章の「マルチファンクションメータ」および「操縦装置」の項をご覧ください。

乗船者の水泳能力

▲ 警告

道具(たとえ浮袋のような簡単なものでも)を使って水上で遊ぶ人は泳ぎができなければなりません。また、泳いで戻ってくることができる範囲より沖合に出ではいけません。

最大搭載人員

このウォータクラフトの定員は3名（操縦者1名および乗客2名）です。最大積載荷重を超えたとき、3名以上の人員（水上スキーをけん引しているときは2名の乗船）を超えないようにしてください。

▲ 警告

最大搭載人員を超えないようにしてください。また、乗船人員に係わらず、乗船人員および積載荷重の合計が最大積載荷重を超えてはいけません。最大積載荷重を超えると、ウォータクラフトの操縦性・復元性に悪影響を与え、事故の原因になります。航走中はシートに座ってください。

最大積載荷重:	3名または225 Kg(荷物を含む)
デッキ上に積載可能な荷物の制限:	23 Kg

安全運転規則

▲ 警告

平成15年6月1日以降ウォータクラフトを操縦するには、特殊小型船舶操縦士免許が必要になりました。(新制度の1級、2級小型船舶操縦士免許では操縦できません。但し、それ以前に取得された旧制度の免許では、湖川小馬力以外の5級小型船舶操縦士以上の資格で従来通り操縦ができます。)ウォータクラフトを操縦する際は、必ず免許証を携帯し、安全規則、各地方の条例等を良く確認し、これらに従ってください。

- 航走を始める前には必ず当地の天気予報を確認して、気象の変化に注意しておきます。

注意

一般に陸上より海上の方が気象変化の程度が大きいので、変化には十分注意してください。気象情報のみにたよらず、観天望気により突風、霧の前兆があれば直ちに帰港してください。観天望気：雲ゆきや空模様を見るとか、日がさ、月がさ、朝やけ、夕やけ、山の上の笠雲などを観測して判断することです。狭い地域の天気を予測するのに役立ちます。

- エンジンを始動する前に、スロットル、ステアリングおよびシフトレバーが正常に動くか点検してください。これらが故障していると、事故につながることがあります。
- 操縦者は遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度、距離を保って航走してください。
 - 他のウォータクラフトや船舶などの後を追走しない。
 - 周囲のものに水しぶきが掛かるような距離まで近づかない。
 - 急旋回など周囲の操縦者が避けられないあるいは予測できない航走はしない。
 - 浅瀬や暗礁のある水域は航走しない。
- 発進や急旋回するときは、周囲に十分注意してください。ウォータクラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、周囲の人が思っているより早く旋回できるからです。旋回する前にいつも後から他のボートなどが近づいて来ていないか、ふり返って確かめてください。バックミラーだけに頼ってはいけません。ボートの方向、距離、

スピードを誤って判断したり、または全く見えなかったりするかも知れません。

- 操縦者は早めに行動を起こし、衝突防止に努めてください。ウォータクラフトも一般船舶と同様にブレーキ装置はありません。
- 航走中ずっと同乗者はバランス保持のため両足をデッキにおき、すぐ前の人の体につかまるか、シートバンドをつかんでおいてください。そうしないとバランスを失ってけがをすることがあります。決して同乗者は操縦者の前に乗せないでください。
- 操縦者は落水したときエンジンが停止するようキルスイッチコードを手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにしてください。下船後は子供や他の人が使えないように、キルスイッチコードをウォータクラフトから外してください。（「エンジンの始動」の項参照。）
- 酒気を帯びたり、または正常な運転や判断を妨げるおそれのある薬物を服用して、ウォータクラフトを運転してはいけません。
- 乗船者は、JCI（日本小型船舶検査機構）認定のライフジャケットを必ず着用してください。ライフジャケットは身体に合ったものを使用してください。
- 乗船者は身体を保護できる衣服を着用してください。落水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、体腔内に水が入り負傷するおそれがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必ず着用してください。

66 操縦方法

- ウォータクラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なゴーグル等をかけて安全をはかってください。
- 水深の浅い場所で水中に降りたとき、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。操縦者も同乗者もデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかってください。
- ウォータクラフトを前進中に後進へシフトするときは、徐々に減速してからシフトレバーを操作してください。また、シフトする前に同乗者に知らせて、安全のための注意を呼びかけてください。そうしないと、船首が水中に突っ込んで、同乗者がけがをするおそれがあります。
- 旋回するためにはジェットノズルからの推力が必要です。スロットルレバーを完全に放すと旋回能力が落ち、障害物を避けようとしても避けられないおそれがあります。
- 他のウォータクラフトをけん引しているときは、注意が必要です。けん引はハンドル操作に影響があり、危険な状態を引き起こすおそれがあります。
- このウォータクラフトは転覆しても自動復元しません。従って、操縦する人は誰でも船の正しい起こし方を知っていなければなりません。（ウォータクラフト“ジェットスキー”の乗り方の転覆したウォータクラフトの起こし方の項参照。）
- ウォータクラフトは日没後、繩縛しないでください。夜間も操縦できるように設計されていませんし、灯火もありません。
- ジェットポンプが詰まり、事故の原因となるので、雑草・海草や浮遊物の多い所で操縦しないでください。
- インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあるので、浅瀬で操縦しないでください。
- 他のボート、特に水上スキーをしているボートには注意してください。
- 決して水上スキー用のジャンプ台をとび越えないでください。ウォータクラフトの損傷や、操縦者と同乗者のけがののもとになります。
- 悪天候や荒波では危険ですからウォータクラフトを運転しないでください。重大な海難事故につながることがあります。
- 波を横切る前に、速度を落としてください。荒波の中を高速で航走すると、脊髄、腰や足をいためることができます。
- 同乗者がリポーディングステップを使う前に、操縦者は必ずエンジンを止め、キルスイッチコードキーを抜いてください。同乗者がリポーディングステップの上で足をすべらせて、すき間にさまれた状態で水中を引きずられると、けがをするおそれがあります。同乗者は、エンジンの回転中はリポーディングステップを使用しないでください。
- 操縦者は、視界の良し悪し、他の船の往来、天候、波の状態などを考えて安全なスピードを判断しなければなりません。波がぶつかり合うような水面では、ウォータクラフトの航走特性はかなり影響されることがあります。操縦者や同乗者が落水する原因になることがあります。さらに、

悪条件のもとでフルスピードで航走しようとすると、船が予想外の動きをする原因になり、乗船者がけがをするおそれがあります。

注意

波に向かってぶつかる乗り方をすると、ウォータクラフトに過激な力がかかり、船体の破損の原因になります。

ジェットポンプに関する注意

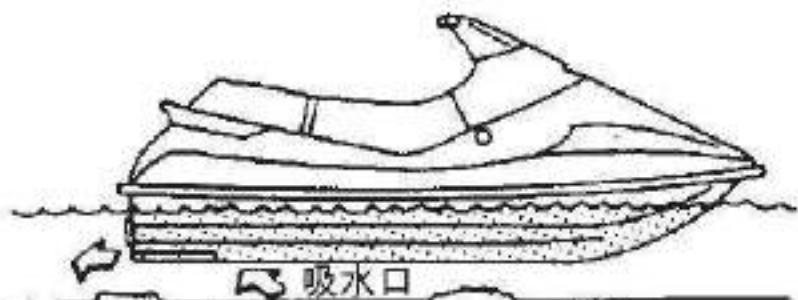
ジェットポンプはもともとプロペラ推進より安全になっていますが、次の特別な注意が必要です。

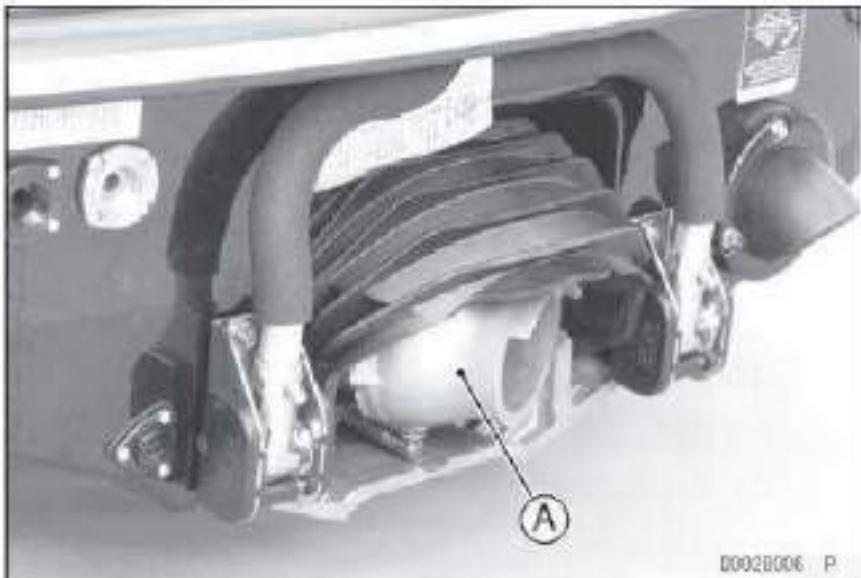
! 警告

エンジンが回転中は、けがをするおそれがありますので、ジェットポンプの吸水口(船底の中央後部)に手、足、衣類等を近づけたり、船尾のステアリングノズル(ジェットノズル)に物をさし込まないでください。

ウォータクラフトの背後に人がいるときはスロットルを開けないでください。エンジンを停止させるか、アイドルスピードにしてください。スロットルを開けると、ジェットノズルから排出される水や異物でけがをするおそれがあります。

エンジン運転中はジェットポンプの吸水口に近づかないでください。長い髪、だぶついた衣服、ライフジャケットの紐等が巻き込まれて、けがをしたり、溺れたりするおそれがあります。





A. ステアリングノズル

乗船者の安全装備

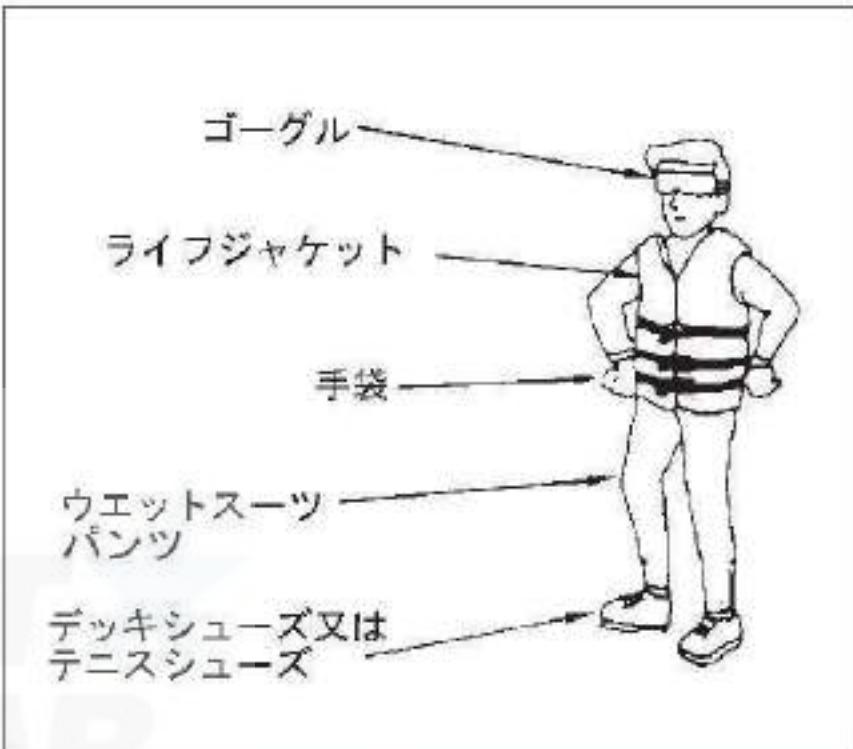
⚠ 警告

乗船者は、JCI(日本小型船舶検査機構)認定のライフジャケットを必ず着用してください。ライフジャケットは身体に合ったものを使用してください。

乗船者は身体を保護できる衣服を着用してください。

落水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、体腔内に水が入り負傷するおそれがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必ず着用してください。

シューズ、手袋、ゴーグル(保護眼鏡)も着用してください。



⚠ 警告

ウォータクラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なゴーグル等をかけて安全をはかってください。

水深の浅い場所で水中に降りたとき、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。乗船者はデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかってください。

ヘルメット着用の選択

ウォータクラフトでヘルメットを着用する前に、その利点と危険をよく考慮して選択してください。

安全性:

ヘルメットはレース中の転倒等、固いものにぶつかった際、頭部を保護します。

危険性:

ヘルメットの着用は周りの視野を制限し、その重みで疲れを増すことがあります。また、水中に転落したとき頸部との間に負担をかけ、重大なけがをする原因になるおそれがあります。

積載

⚠ 警告

不適切な荷物の積載やアクセサリーの使用、またはウォータクラフトの改造は、船の操縦安定性に悪い影響を与え、航走条件を危険にします。乗る前に積載過剰になっていないか、また、以下の指示に従っているか、必ず確認してください。

最大積載量

- 3名または225 kg(荷物を含む)以内。
- 後部デッキに積む荷物は23 kgを超えないこと。

重要

カワサキウォータクラフト用純正アクセサリーはその製品およびカワサキのウォータクラフトへの取付けに関して安全に設計されています。アクセサリーを装備させる時は必ずカワサキの純正アクセサリーをご使用ください。

純正以外のアクセサリーを使用されると、カワサキはその安全性に関して確認することができません。また純正以外のアクセサリーの不適切な取り付け・使用およびウォータクラフトへの改造はウォータクラフトに事故および不具合を生じる危険性があり、保証の対象にならない場合があります。

このようにカワサキの純正以外のアクセサリーを使用したり装備をする場合は、あなた自身およ

70 操縦方法

あなたの周りの人達への安全に関して、十分な責任をお持ちください。

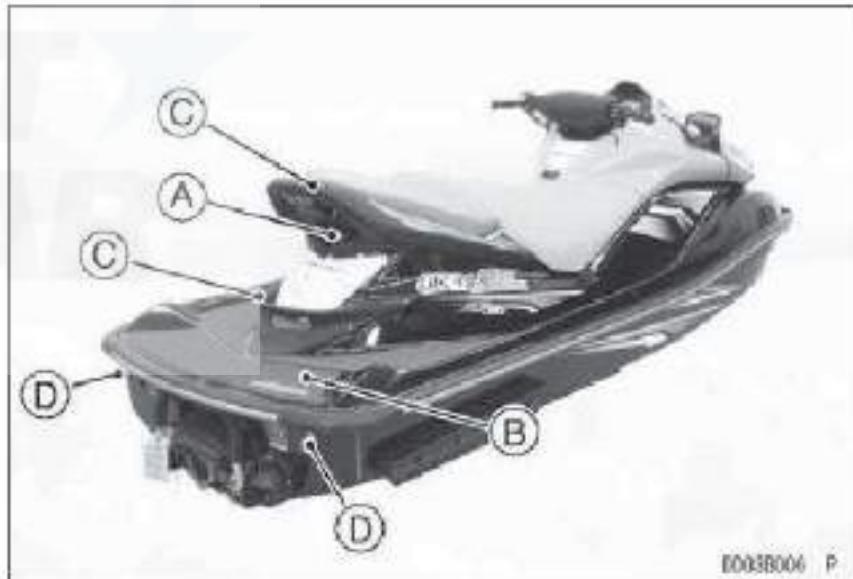
ウォータクラフトは重量配分の変化に敏感です。荷物を積んだり、同乗者を乗せるときや、アクセサリをつけるときは、最大の注意を払ってください。以下の一般的なガイドラインを参考にして決めてください。

- 同乗者が不適切な座り方をしたり、突然動いたりすると、ウォータクラフトのコントロールに影響を与えることがあります。航走中は、同乗者はじっと座って操縦の邪魔をしないことが重要です。また、船に小動物を乗せてはいけません。
- 乗船する前に、操縦者は同乗者に対してすぐ前の人につかまるかシートバンドやハンドレールをつかむように、また、バランス保持のため両足をデッキにおくように指示しなければなりません。
- シート後部の広いデッキを荷物の積載に使ってください。ばらばらの荷物は船から落ちて紛失しないように、浮力のある容器に必ず収納してください。ばら積みの荷物やロープは海に落ちて、吸水口の格子やポンプにからみつくおそれがあります。
- カーゴネット（標準装備部品ではありません。）や適当なロープを使って荷物を後部デッキに固定してください。けん引用フックや船尾のえい航用フックを利用します。後部デッキには最大23 kgを超えて荷物を積んではいけません。
- 航走中に荷物が動くことがないことを確認してください。できるだけ何回も荷物の固定具合を点検し、必要ならば締め直してください。

- 視界をさまたげたり、操縦者の船のコントロール能力に影響を与えるような大きい、またはかさばった荷物を積まないでください。また、船の性能を落とすようなアクセサリを付けたり、荷物を運ばないでください。

⚠ 警告

後部デッキに積んだ荷物は、乗船を妨げ、バランスをくずすおそれがあり、そのためけがをすることがあります。乗船の妨げにならないように、荷物を積んでください。



B003B006 P

- A. けん引フック
- B. 後部デッキ
- C. ハンドレール
- D. えい航用フック

トーイング(ウェイクボード／水上スキー等の定員1名のけん引物)

トーイングは、3人で行うスポーツです。

バックミラーがプレーヤー(ウェイクボード／水上スキー等の定員1名のけん引物に乗っている者、以下プレーヤーと言う)の見張りに使えると考えてはいけません。操縦者、後方を向いて座る見張り役の同乗者およびプレーヤーは、3人のそれぞれの装備、航行規則、責任、合図、そしてこのスポーツの基本を知っているなければなりません。

他のボートや建造物および遊泳者との衝突する危険を減らすために、混み合った水域では行わないでください。岸や浅瀬から少なくとも使用するトーイング用ロープの2倍の距離を保ってください。トーイングしている状態で他のボートの前方を横切ってはいけません。グレンデの中には、それぞれ決められた条例、規則がありますので遵守してください。

操縦者の役割

操縦者はトーイングの全ての行為と安全に責任があります。トーイングをしているときは、細心の注意を払ってください。他の船は、あなたのウォータクラフトがトーイングしているとは思っていないかもしれません。プレーヤーが転倒した場合、直ちにその場所に戻りゆっくりと近づいてください。

トーイングロープがびんと張るまでアイドリング速度で航行します。プレーヤーが準備完了の合図

をしたら操縦者はウォータクラフトの前方および周囲の安全を確認し、プレーヤーを引き起こせる様に速度を調整します。プレーヤーを引き起こせたら一旦スロットルをゆるめ、もう一度前方および周囲にボートや障害物が無いかを確認します。またトーイング用ロープがプレーヤーに巻きついていないか見張り役に確認します。

常にプレーヤーの能力に応じた速度で航行してください。初心者に適した速度は概ね30から40 km/hです。プレーヤーが楽しくトーイング出来る様に常に見張り役と協力しプレーヤーからの合図を確認してください。プレーヤーが旋回する際にプレーヤーの体重と速度がウォータクラフトの操縦に影響することがありますので充分注意してください。

操縦者は、常にトーイングしている事を考え、安全でゆとりのある航行に心掛けてください。また見張り役やプレーヤーがトーイング用ロープを手繩り寄せている等、不安定な態勢の時はウォータクラフトを加速したり航行してはいけません。

見張りの役割

見張りの役割は、プレーヤーのすべての合図を操縦者に伝えプレーヤーに転倒等の危険が生じた場合は直ちに操縦者に知らせることです。見張り役は、プレーヤーを見張るために後方を向いて座りハンドレール(グリップ)をしっかりとつかんでいかなければなりません。また見張り役は、トーイング用ロープが吸水口に吸い込まれない様に注意しなければなりません。

72 操縦方法

トーリング用ロープをかける場所

トーリングするときは、シート後端下部にあるトーリング用フック以外にロープをつないではいけません。えい航するときは、船尾のえい航用フックにロープをつないでください。えい航するときは細心の注意を払ってください。ウォータクラフトの操作性に影響し、危険な状態を生じる可能性があります。また他の船は、あなたの運転するウォータクラフトがえい航しているとは思っていないかもしれません。



A. トーリング用フック



A. えい航用フック

乗る前の点検項目

- 毎回ウォータクラフトを使用する前に、必ず次の事項を点検してください。

ウォータクラフトの外側

- 1) ポンプの清掃: 吸水口、ジェットポンプ、ドライブシャフト等から異物を取り除いてください。
- 2) ポンプカバー: ジェットポンプカバー、吸水口格子に緩みがないか点検し、必要なら取付けボルトを締めてください。
- 3) 船体の損傷: 船体の損傷を点検してください。
- 4) ドレンプラグ: スターン（船尾）のドレンプラグが確実に締められているか確認します。

ウォータクラフトの内側

- 5) ステアリング: ステアリング系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検してください。必要であればケーブルを調整してください。（「整備と調整」の章参照。）ステアリングケーブルは両端をシールしており、潤滑は不要です。もし、シールが破損していれば、ケーブルごと交換してください。
- 6) シフトレバー: シフトレバーを “F”（前進）、“R”（後進）のそれぞれの位置に動かしてみて、ひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか点検します。また、スターン（船尾）のリバースパケットが、シフトレバーの動きと正常に対応して動くか点検します。（「整備と調整」の章参照。）

- 7) スロットルコントロール: スロットル系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検し、必要であれば調整します。（「整備と調整」の章参照。）スロットルレバーは手を放すと完全にもとの状態に戻らなければなりません。

⚠ 警告

もし、スロットルレバーがなめらかに、完全に戻らないと、操縦不能になるおそれがあります。

- 8) エンジンルームの換気: 備品入れのふたを開け、シートを外し、小物入れ（後部）を取り出して、数分間エンジンルームの換気をします。

⚠ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 9) バッテリターミナル: バッテリターミナルのスクリュがしっかりと締まっているか、また、ターミナルカバーが確実に取り付いているか点検します。

⚠ 警告

バッテリケーブルの取り付けが緩むとスパークが発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡するおそれがあります。バッテリターミナルのスクリュはしっかりと締め付け、カバーをターミナルにかぶせてください。

74 操縦方法

- 10) 燃料タンク内の圧力:燃料注入口キャップを開き、タンク内の圧力を逃がします。キャップはしっかりと閉めてください。
- 11) 燃料:燃料タンク内の量を点検します。必要なならば燃料を補給します。
- 12) エンジンオイル:エンジン内のオイルを点検します。必要なならば補充します。
- 13) 燃料漏れ:エンジルーム内に燃料漏れがないか点検してください。
- 14) オイル漏れ:同時にオイル漏れがないか点検します。
- 15) ファスナ:ボルト、ナット、クランプ等に緩みがないか点検し、緩みがあれば締めてください。
- 16) ホースの接続:すべてのホースが確実に接続され、また、すべてのホースのクランプがしっかりと締められているか確認してください。また、すべてのホースを点検し、劣化やひび割れがあれば交換してください。
- 17) ビルジ(あか)の排水:エンジルームに水がたまつていれば、ドレンプラグを外して水を出してください。排水後、ドレンプラグをしっかりと締めます。
- 18) キルスイッチコード:エンジンを始動して、数秒間回転させます。（「エンジンの始動」の項参照。）コードキーをストップボタンから抜いて、エンジンが停止するか確認します。
- 19) エアボックスドレンキャップ:水の有無を確認します。水があれば排水します。

▲ 警告

密閉された場所でエンジンを運転しないでください。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

注意

水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- 20) ストップボタン:再びエンジンを始動して数秒間回転させます。ストップボタンを押して、エンジンが停止することを確認します。
- 21) シート:シートのラッチが完全にロックされているか確認します。
- 22) 備品入れ:カバーが確実にロックされていることを確認します。
- 23) 乗船者の安全装備:操縦者と同乗者は常にライフジャケットを着け、その他安全装備をしてください。
- 24) マルチファンクションメータ:各メータ類の作動を確認します。「一般事項」の章を参照してください。

ならし運転

- 新しいウォータクラフトは、ならし運転が大切です。これは、機械部品の各摺動部にじみをつけ、偏摩耗を防ぎ、また、表面を滑らかにするためです。エンジン始動後、最初の5分間はエンジン回転を2 500 rpm以上に上げないでください。最初の5時間は急激な加速や長時間の全開運転をしないでください。この間は全開の3/4以下で運転してください。一定の速度で長く運転せず、ひんぱんに速度を変えて運転してください。
- ならし運転期間中、ウォータクラフトを注意深く取り扱うと、より効率よく、信頼性の高い性能が確保でき、長持ちにつながります。
- 上記ならし運転に加えて、最初の10時間運転後、整備工場で定期点検整備を受けてください。「整備と調整」の章の「定期点検整備表」をご参照ください。

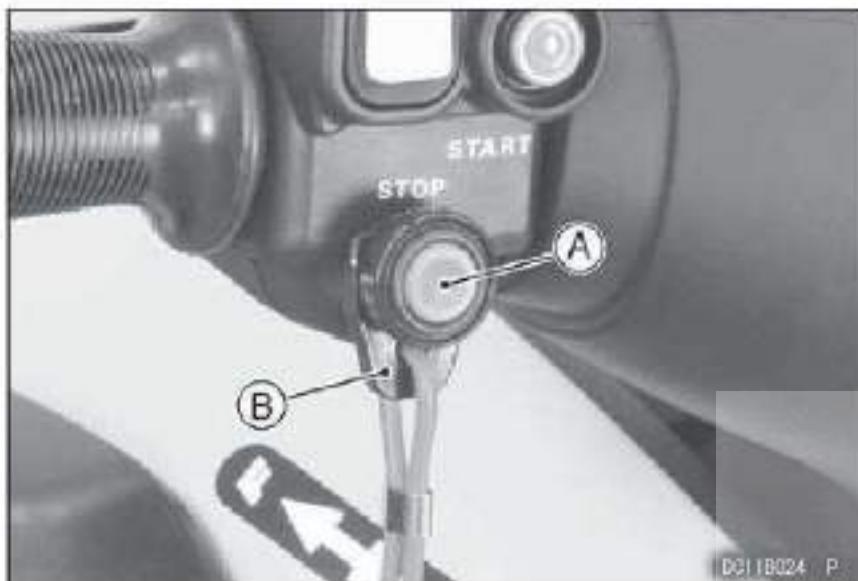
エンジンの停止

エンジンは次の二つの方法のどちらか一つによって、止めるることができます。

- 赤色のストップボタンを押します。押し続ける必要はありません。エンジンが停止すると、ストップボタンはもとに戻り、始動できる状態になります。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜きます。エンジンを再び始動させるためには、コードキーをストップボタンの下に差し込むねばなりません。どちらの方法でエンジンを止めても、イグニションキーをキー穴から抜いてください。

⚠ 警告

エンジンが停止すると、ウォータクラフトの進路変更ができなくなります。



A. ストップボタン
B. キルスイッチコードキー

- もし、緊急にエンジンを停止しなければならないときは、赤色のストップボタンを押すか、またはコードキーを抜いてください。

考えられる緊急事態とは：

- * エンジンの回転をコントロールできなくなったりとき。
- * スロットルレバーが指を放しても完全に戻らないとき。

⚠ 警告

もし、スロットルが正しく作動しないときは、原因を見つけて修理するまでウォータクラフトを運転しないでください。下船後は子供や他の人が使えないようにキルスイッチコードをウォータクラフトから外してください。

注意

エンジン停止中はイグニションキーを外してください。“ON”的ままで放置するとバッテリが上がります。

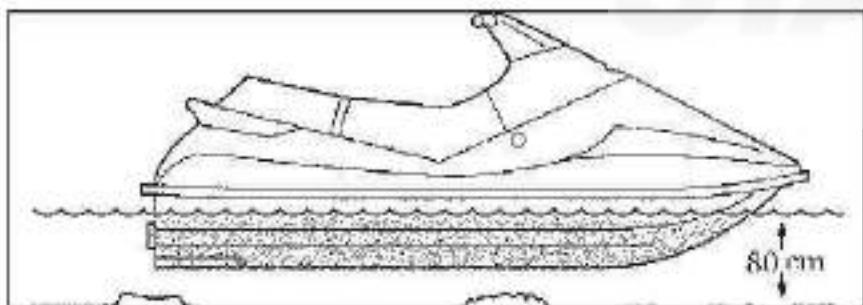
エンジンの始動

- ウォータクラフトを水上に下ろす前に、この章の「乗る前の点検項目」の項をよく読み、その指示に従ってください。
- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、前後シートを外して数分間換気してください。

警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 雑草・海草や浮遊物のない水深80 cm以上の所に船体を浮かべます。前方に泳いでいる人達がないか、また、ボートや障害物がないかよく確認します。



注意

ウォータクラフトを始動するときは、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が80 cm以上の所で行ってください。

- シートに座り、コードキーをトップボタンの下に差し込み、落水したときにエンジンが停止するようコードのもう一方の端を手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにします。コードを引っ張ってみて、しっかりと手首にはまっているか確認してください。

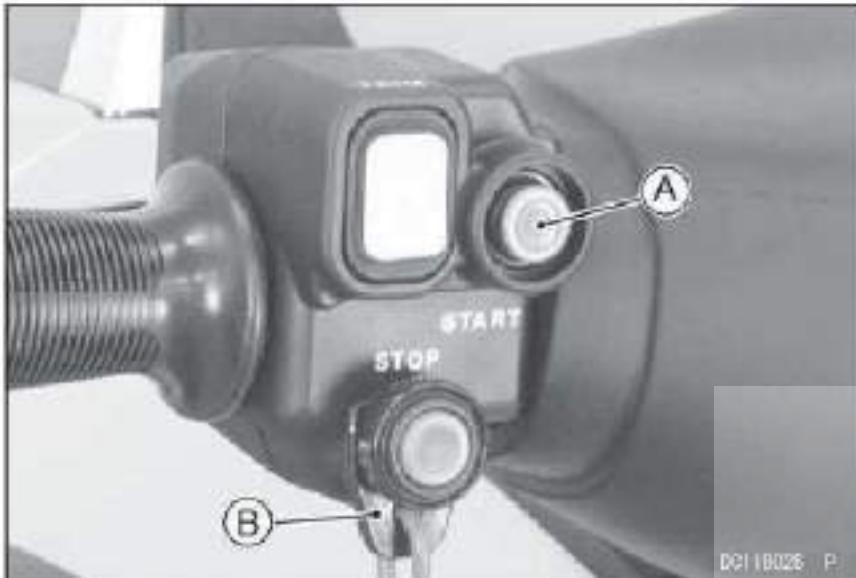
要点

- キルスイッチコードキーがトップボタンに差し込まれていないと、エンジンは回転も始動もしません。
- イグニションキーをキー穴に差込み奥まで押し込みます。

要点

- このウォータクラフトにはSLOとFPOの二つのキーが装備されています。あなたの経験・技量にあたったほうを選んでください。またこのキーにはイモビライザ機能が付いています。登録されたキーをご使用ください。詳しくはこの章の「イグニションスイッチ」の項をご参照ください。

- ウォータクラフト運転中はキーを常にキー穴に差し込んだままにしておいてください。キーが無くするとエンジンの再始動ができなくなり海上で運転不能になる可能性があります。
- 左手で緑色のスタートボタンを押し、エンジンが始動したら放してください。もし、エンジンが5秒以内に始動しないときは、スタートボタンを放してください。15秒間待って再び始動させてください。数回試みても始動しないときは、「トラブルシューティング」の章を参照してください。



A. スタータボタン
B. キルスイッチコードキー

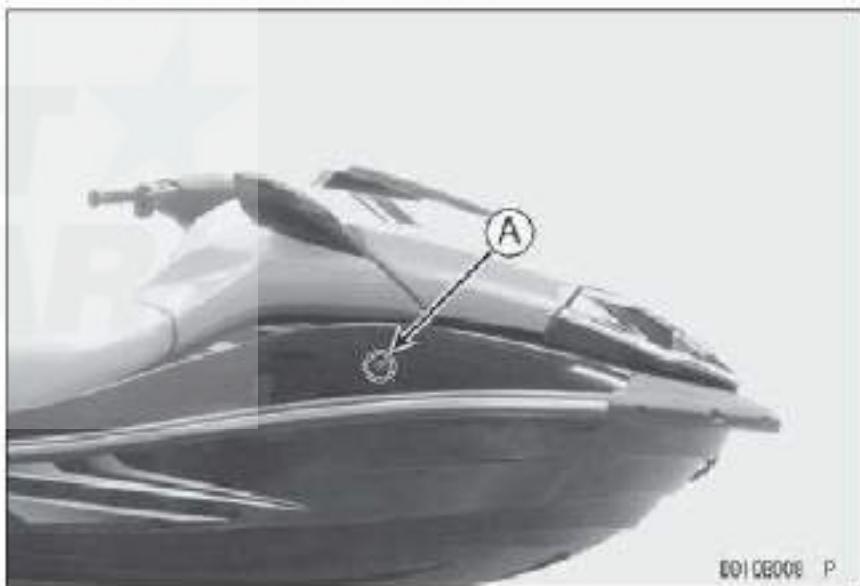
要点

- エンジンが始動しないときは、15秒間隔で始動を行ってください。こうすることはバッテリやスタータの寿命を延ばすことになります。

注意

エンジンが回転しているときや、スタータがまだ回っているときに、スタータボタンを押さないでください。スタータの摩耗を早め、故障の原因になります。

- エンジン始動後、約1分間暖機運転をします。ときどきスロットルレバーを少し引いて回転を上げます。長時間のアイドリングはスパークプラグを汚すことになります。
- スロットルレバーを引いたとき、船体の右側のバイパス出口から水が出てくるか確認してください。これは冷却水が循環していることを示しています。もし、水が出てこなければエンジンを停止し、原因を調べます。排気系統に水が入っていないときは、バイパス出口に水が出てくるまで15秒ほどかかります。



A. バイパス出口

発進

桟橋からの発進

- 桟橋からウォータクラフトの上に飛び降りていけません。
- まず桟橋側のデッキに片足をおき、次にハンドルバーをもち体重を移動させて船のバランスをとりながらシートにまたがって座ります。
- シフトレバーが前進しようとする場合は“F”に、後進の場合は“R”になっているか確認します。
- 桟橋を離れるときは、船を押してもらうか、または船尾の水面に十分余裕ができるまで桟橋から浅い角度で船を動かします。ウォータクラフトは船首で回るのではなく船尾で回るので、桟橋に当たらないように十分注意してください。
- 前方に障害物等がないか確認して、ハンドルバーを走る方向に向けます。

警告

進行方向にいるボートや障害物に注意してください。これは危険防止のため、初心者には特に重要なことです。

- スロットルレバーを引いて旋回ができる推力を出します。

注意

桟橋から離れるときは、急旋回や急加速を避けてください。そうしないと船尾が桟橋に当たり、損傷するかも知れません。操縦者は急激な操作をする前には、旋回する余裕が水面にあるか必ず確認してください。

- 広い水面に出ていくに従って、徐々に加速します。
- スピードが上がるにつれてウォータクラフトは水平になって滑走します。
- いったん滑走状態になったらスロットルを戻し、好みのスピードで走ってください。
- 進行方向のボートや泳いでいる人達、また、障害物に絶えず注意してください。

ランプからの発進

- ウォータクラフトを水上に降ろす前に、「乗る前の点検項目」の項の各項目を確認してください。
- 同時に、ランプの表面の状態、傾斜および幅が、トレーラやけん引車に適しているか点検してください。

注意

ウォータクラフトが漏水ないように、スター(船尾)のドレンプラグがしっかりと締められているか点検してください。

- 適当なロープをウォータクラフトが遠くに行かないよう取り付け、トレーラに縛り付けられたひもをときます。

- ウォータクラフトをトレーラと共に水中へ入れます。
- ウィンチのロックを外し、ウォータクラフトをゆっくり押してトレーラから離します。
- トレーラを水中から引き揚げます。

水深の深い場所での発進

一人乗りの場合

- ウォータクラフトの後部へまわります。
- エンジンが止まっていることを確認します。
- シート後端のハンドレールか、またはその下のトeing用フックをつかみ、リボーディングステップを下ろします。はじめに片ひざ、次に片足または両足をステップにおいて体をデッキの上へ引き上げます。次に片ひざづつデッキ後部にのせます。船に上がるとき、ステップや船上ですべらないように注意してください。
- シート中央のバンドをつかんで、船のバランスをとりながらデッキに両足をおきます。
- シートにまたがって座ります。

二人または三人乗りの場合

- 操縦者が船のバランスをとっている間に、同乗者は後部から一人乗りの場合と同じ要領でウォータクラフトに上がります。

▲ 警告

同乗者がリボーディングステップを使う前に、操縦者は必ずエンジンを止め、キルスイッチコードキーを抜いてください。同乗者がリボーディングステップの上で足をすべらせて、すき間にはさまれた状態で水中を引きずられると、けがをするおそれがあります。

同乗者は、エンジンの回転中はリボーディングステップを使用しないでください。

水深の浅い場所での発進

- ウォータクラフトを浅瀬にけい留するときはいつも砂や岩場を引きずらないでください。これは船体の傷を減らし、砂や岩がジェットポンプの中に入り、再始動時、ジェットポンプが損傷することを防ぎます。
- 海岸に引きあげたウォータクラフトの中に砂や岩が入ったときには、水中にて船尾を何回も大きく上下させ、ジェットポンプの中を洗浄します。

注意

ウォータクラフトを始動するときは、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が80 cm以上の所で行ってください。

- 船の左右どちら側からでも、また、後部からでも乗ることができます。どの場合でも、乗るときはウォータクラフトが安定するようにバランスをとってください。

停止

通常停止

⚠ 警告

フルスピードで滑走中は、動いている物や止まっている物から100 m以内に直進して近づかないでください。止まりたい場所に近づく前に必ずスロットルレバーを戻してスピードを落としてください。ウォータクラフトにブレーキをかけるつもりで後進ヘシフトしてはいけません。バウ(船首)が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。

このウォータクラフトは、次の順序で水の抵抗を利用して停止します。

1. 止めようとする区域に到着する前に、スロットルレバーを放します。
2. アイドリング状態のまま、停止区域へ向かって進みます。

注意

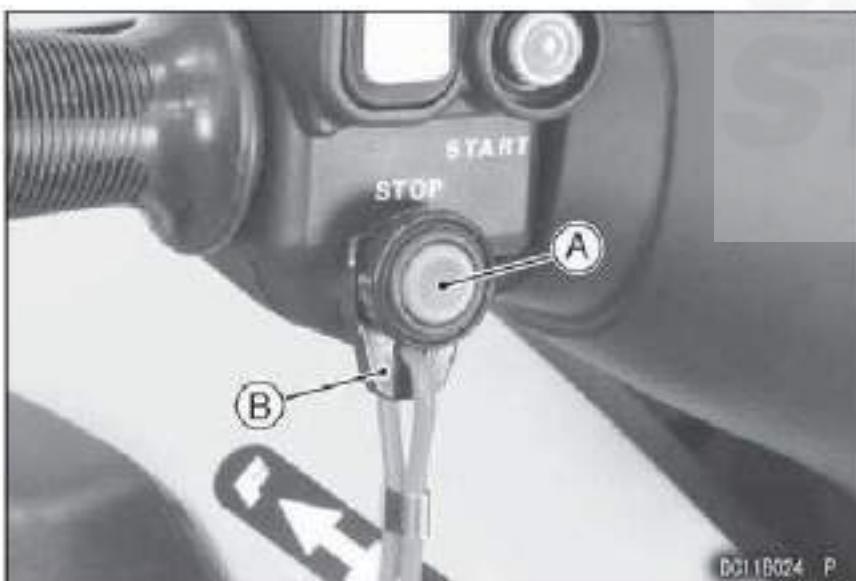
異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、水深が80 cm以下になる前にエンジンを止めてください。

3. 完全に停止させるため、ストップボタンを押すか、またはコードキーをストップボタンから抜きます。



A. スロットルレバー

DCI1B026 P

A. ストップボタン
B. キルスイッチコードキー

DCI1B024 P

スロットルレバーを放すと前進速度は落ちますが、エンジンがまだ回転しているので、再びスロットルレバーを引いてウォータクラフトの進行方向を変えることができます。

この方法でウォータクラフトを旋回させ、障害物から離れることができます。

⚠ 警告

スロットルレバーを完全に放すと、ウォータクラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになりかねません。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

岸辺に近づいてきて停止したいときには、ストップボタンを押してください。エンジンが直ちに止まるので、砂や異物がジェットポンプに入って損傷をうけることを防ぎます。水深80 cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

⚠ 警告

再びスロットルレバーを使ってウォータクラフトをすばやく旋回させる必要がある場合は、エンジンを止めないでください。エンジンが止まると、方向を変えることができません。

停止技術:

停止距離は操縦者と同乗者の体重や乗船位置、アイドリング速度、滑走速度等によって変わります。熟練した操縦者はいろいろな操縦技術を使って停止距離を短縮する事ができます。停止するときに急旋回（スロットルレバーを使って）することは、停止距離を短くするための一つの方法です。

最短停止距離:

3人乗りで、最高速度からの最短停止距離は103mです。

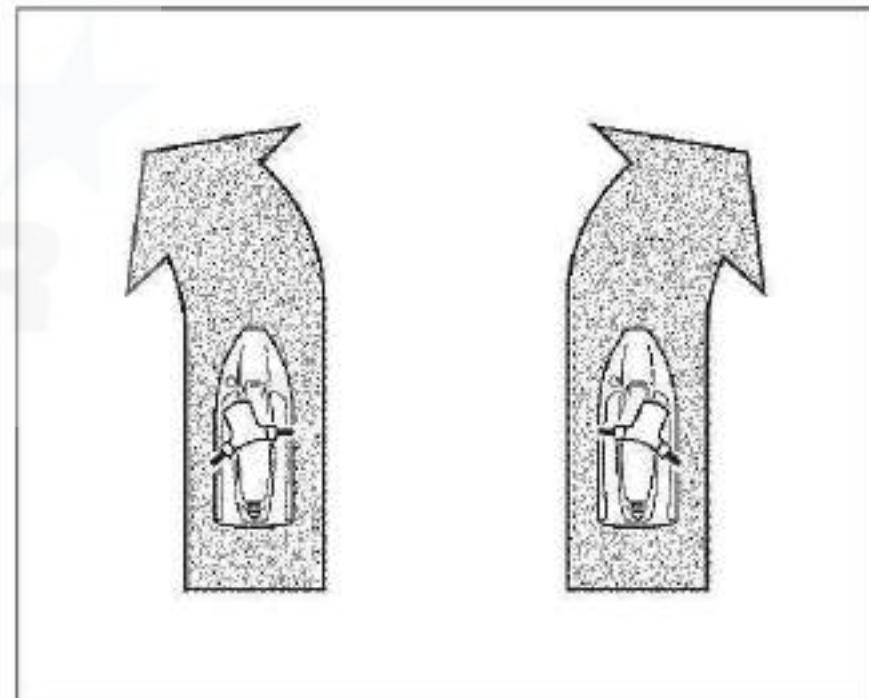
この数字は、一定の条件の下で測定されたものです。従って、条件が変わればこの数字も変わってきます。

旋回

ウォータクラフトを旋回させるには、次の二つの動作の組み合せが必要です。

- ハンドルバーを回す。
- スロットルレバーを使う。

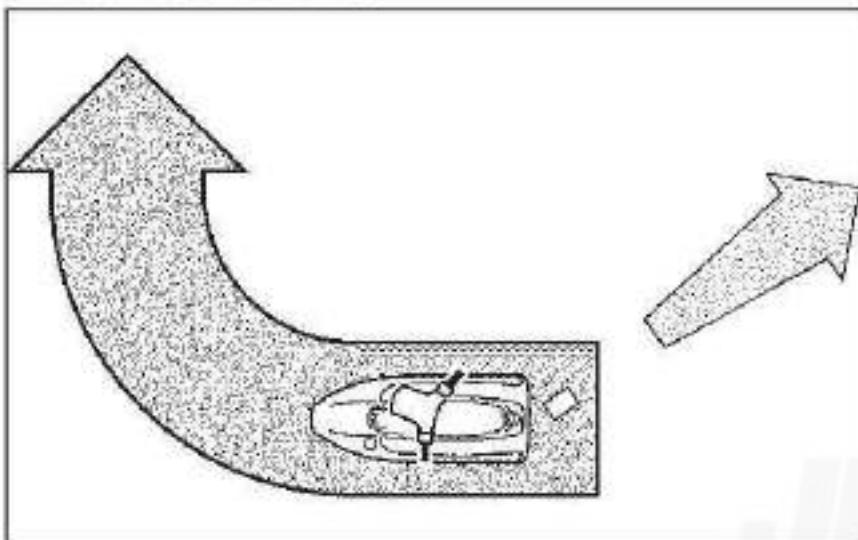
左旋回するためにはハンドルバーを左に向ける。右旋回するためにはハンドルバーを右に向ける。



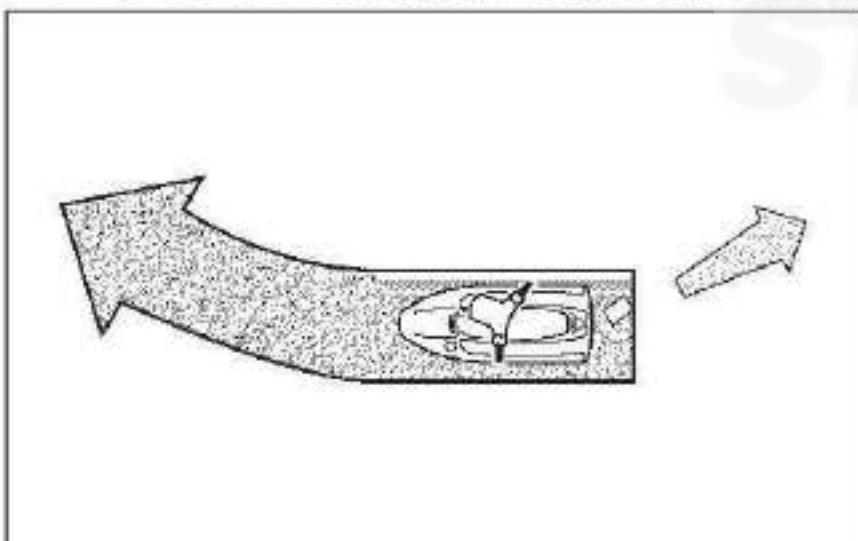
スロットルレバーを使うことも、もう一つの旋回方法の重要な要素です。スロットルレバーを引くとジェットポンプにより推力が生じ、進路変更ができるようになります。

84 操縦方法

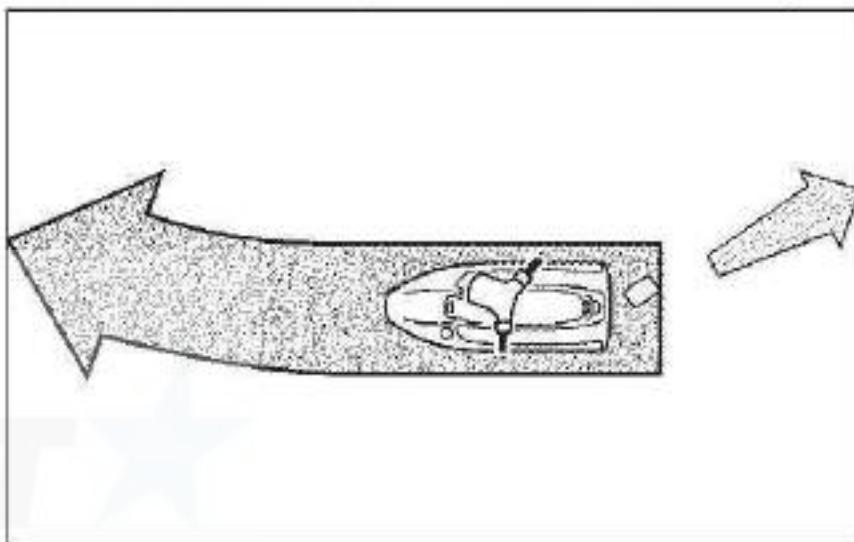
ジェットポンプの推力が強いとウォータクラフトは鋭く旋回します。



ジェットポンプの推力が弱いと緩く旋回します。



スロットルレバーを完全に放すとジェットポンプの推力が殆どなくなります。ウォータクラフトはゆっくりとまわり、旋回能力は低下します。

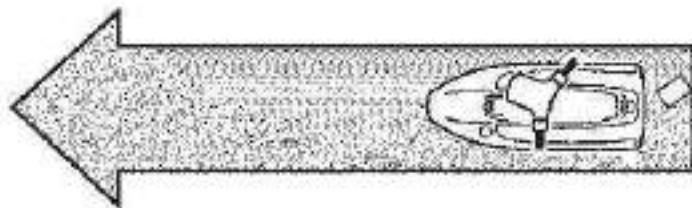


アイドリング＝ゆっくりと徐々に旋回

⚠ 警告

スロットルレバーを完全に放すと、ウォータクラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになりかねません。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

航走中にエンジンを停止すると、ジェットポンプの推力がなくなり、ハンドルバーを回してもウォータクラフトは真っすぐに進みます。



無推力 = 旋回不可

! 警告

再びスロットルレバーを使ってウォータクラフトをすばやく旋回させる必要がある場合は、エンジンを止めないでください。エンジンが止まると、方向を変えることができません。

次のことは緊急操作をするときに覚えておくことが大切なジェット推進ボートの特徴です。

旋回するには推力が必要なこと。

従って、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットノズルにいつも推力があるようスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

- 旋回に入る前に、スロットルレバーをゆるめてスピードを落としてください。

! 警告

このウォータクラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、急旋回や急加速したときに同乗者が船外に投げ出され、他のボートに当たって事故になるおそれがあります。操縦者は急旋回等する前にまわりのボートに注意してください。また、同乗者は航走中必ずすぐ前の人々の体につかまるか、シートバンドをつかんでいてください。

このウォータクラフトにはカワサキスマートステアリングシステムが設けられています。「一般事項」の章の「操縦装置」の項を参照してください。

後進

- 離着岸時等、やむを得ない場合を除いて、なるべく後進は使わないでください。
- 前進から後進に移る前に必ず船が止まるまで減速してください。スロットルレバーを充分ゆるめるか、または完全に放します。減速するまで待ってからシフトレバーを“R”（後進）に入れます。

⚠ 警告

高速航走中、急にシフトレバーを前進から後進に操作してはいけません。また、ブレーキとして後進を使ってはいけません。ウォータクラフトのバウ（船首）が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。シフトする前に必ず減速し、また、同乗者に安全のための注意を呼びかけてください。

- 後進方向の水面に他のボート、泳いでいる人達、または障害物等がないか確認し、目標を定めます。バックミラーだけに頼ってはいけません。よく見えないか、または全く見えないかも知れません。
- 徐々にスロットルレバーを引いて、ゆっくりと後進を始めます。

着岸

- 着岸するときは、ウォータクラフトのスピードと方向をコントロールするために、スロットルを効果的に使ってください。
- 停止したい砂浜や岸辺に近づいてきたら、ストップボタンを押してください。砂がジェットポンプに入って損傷させることを防ぎます。水深80cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

注意

ウォータクラフトを岸に乗り上げないでください。インペラや船体がひどく損傷することがあります。また、船尾の速度検知用水車が損傷して、スピードメータが作動しなくなることがあります。
浅瀬や浮遊物の多い所で操縦しないでください。インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあります。

- エンジンを止めると進路変更のコントロールが不可能になることを忘れないでください。従って、ウォータクラフトのスピードが充分落ち、停止位置寸前になってからエンジンを止めてください。いったんエンジンを止めると、非常事態の緊急回避ができなくなります。

ウォータクラフト“ジェットスキー”の乗り方

初めてウォータクラフトに乗ったときは、シートにまたがって座ります。ウォータクラフトの扱い方に慣れてください。スロットルレバーを操作してエンジンスピードをいろいろ変え、スロットルレバーの操作が旋回にどう影響するか感触をつかんでください。

ウォータクラフトの船首が連続的に上下する状態（ボーポイジング）が起きたら、体重をさらに前方へ移動してください。

⚠ 警告

ハンドルバーの真上にあごがくるような乗り方をしてください。波にぶつかったとき、けがをすることがあります。

エンジン関連部分の機能が損なわれるか、エンジンオイル温度計に異常が起こるとエンジンの回転速度が自動的に3 000 rpmに制限されます。警告ブザーが鳴り、警告灯が点滅しさらに“FI”シンボルおよび“FI”文字が点滅するか、またはエンジン油圧シンボルおよび“OIL t”，“OILH”文字が点滅すれば、直ちに海岸へ戻り、「ジェットスキーARK」で故障修理を行ってください。

水温や油温の警告灯等が点滅してもエンジン回転速度は3 000 rpmに制限されますので、すぐ海岸へ戻り冷却系統の詰まりを調べるかまたはエンジンオイルを補給してください。

冷却系統およそオイル量以外の問題があるようであれば「ジェットスキーARK」で故障修理を行ってください。

燃料シンボル、燃料レベル計、“FUEL”文字と警告灯が点滅し始めると残りの燃料が28 Lです。スロットルの作動は半分にしてできるだけ早く給油してください。。このウォータクラフトには予備タンクがありません。

（「一般事項」の章の「マルチファンクションメータ」の項を参照。）

常に他のボート、泳いでいる人達や、障害物に注意し航走してください。

落水

操縦者がウォータクラフトから転落すると、コードキーがトップボタンから抜けて、エンジンは直ちに停止します。

⚠ 警告

ウォータクラフトから落ちるとき、ハンドルバーにしがみつかないでください。ウォータクラフトにぶつかってけがをするおそれがあります。

- 落水の最良の方法は、両足をそろえ、腕を頭上に上げ、尻部から先に水面に落ちることです。
- ウォータクラフトの後部から上がります。コードキーをトップボタンの下に差し込み、スタートボタンを押してエンジンを始動します。

転覆したウォータクラフトの起こし方

万一ウォータクラフトが転覆したときは、コードキーが操縦者に引っ張られてストップボタンから抜け、エンジンは停止します。直ちに次の手順で船体を起こしてください。

⚠ 警告

このウォータクラフトは転覆しても自動復元しません。操縦者は適切なウォータクラフトの起こし方を知っているなければなりません。さもないと立ち往生することがあります。

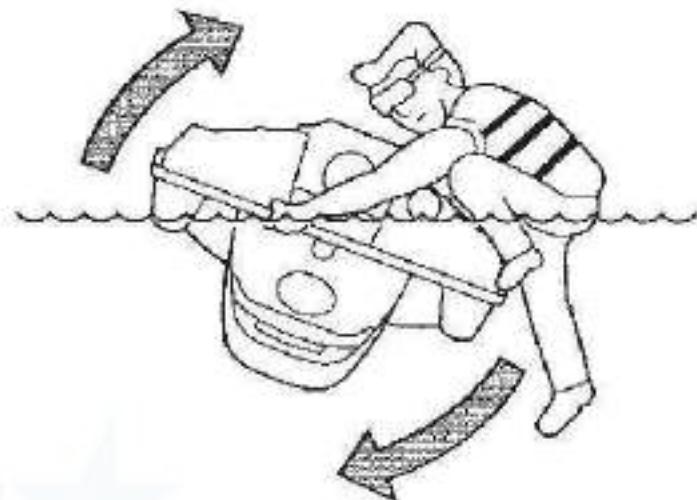
- エンジンが停止したか確認します。もし、停止していないければ、すぐにコードキーをストップボタンから抜くか、またはストップボタンを押してエンジンを停止させます。

注意

もし、ウォータクラフトが転覆したままでエンジンが回転し続けると、スロットルボディやエンジンに水が入るおそれがあり、エンジンの内部部品の損傷の原因になります。

もし、エンジンに水が入ったら「浸水後の処置」の項に述べられた方法に従ってください。

- 転覆した船の後部の角に泳いで行きます。
- 片手で左舷を押し下げ、もう一方の手を斜めに伸ばしてデッキの後部をつかみ、船底に伸び上がるようになります。



- 次に片方の足で船体後部の角を押し下げ、体重をかけながら手前へ回転させます。
- 船体が起き上がってきたら、必要ならばできるだけ遠くの船体をつかんで船を完全に引き起します。

注意

転覆した船は常に左舷を下側にして右回しに起こしてください。反対に回すと、マフラの水がエンジンの中に入り、エンジンの損傷を招くおそれがあります。

- ウォータクラフトは転覆して起こした後、エンジンルームに水が入っています。更に水がエンジンルームに入らないよう注意して、船尾から上ります。

要点

- 同乗者がおれば、他のウォータクラフトに乗移ることで、荷重を減らし、水が更に入ることを防止できます。
- コードキーをストップボタンに差し込み、スタートボタンを押してエンジンを始動します。
- ウォータクラフトをゆっくり運転して海岸に帰り、ビーチに引き揚げ、エンジンルームの水を抜きます。これはエンジン内に水が入って、エンジン内部が損傷することを防ぎます。

注意

吸入管とスーパーチャージャに水分が残っていると、スーパーチャージャのローターが腐食し回転しなくなることがあります。吸入管とスーパーチャージャに残った水分や湿気をできるだけ早く取り除いてください。

浸水後の処置

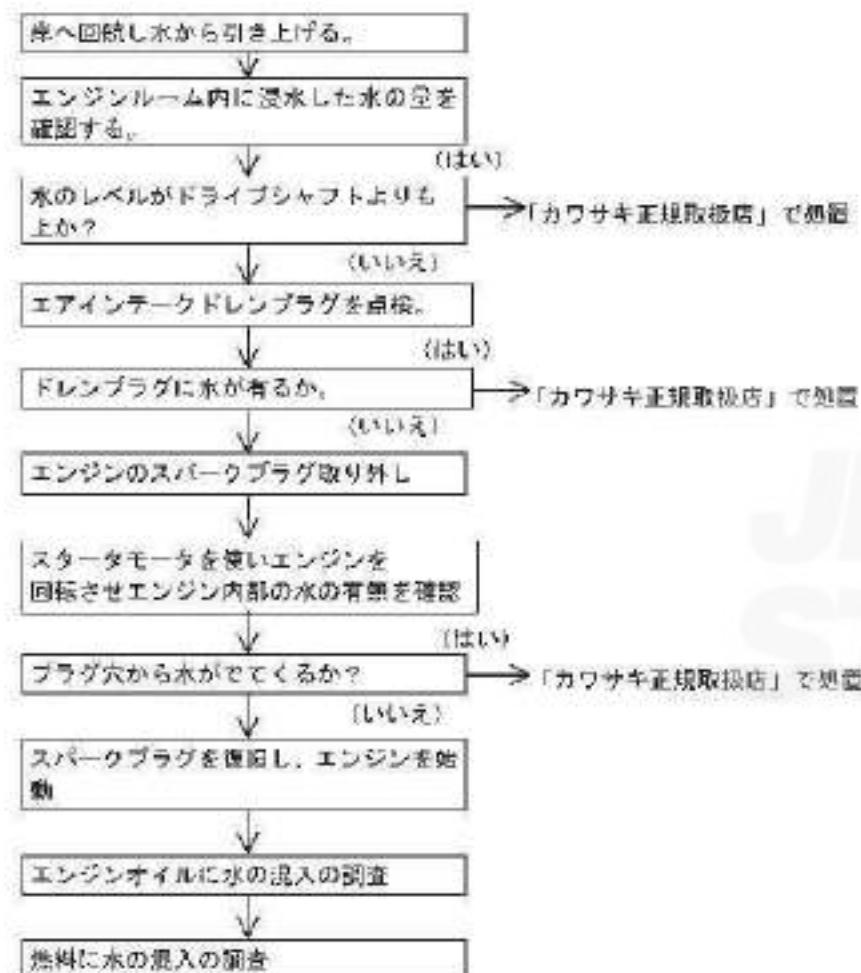
注意

エンジン内に水が入ったままで、ウォータクラフトを運転しないでください。エンジン内の水を完全に排出するまで、エンジンを始動しないでください。エンジン内部の部品が激しく、しかも急に損傷するおそれがあります。

もし、エンジン内に水が入ったならば、直ちに次の処置をしてください。エンジン内に数時間以上水が残ったままになると、クランクシャフトペアリングやエンジンの内部部品を傷めます。

もしウォータクラフトが水没したら、エンジン内部およびスーパーチャージャに水が入ることがあります。また燃料タンクやエンジンオイルにも水が入ることがあります。このウォータクラフトにはスーパーチャージャが搭載されているので浸水の場合には特別の処置が必要です。エンジンルームに浸水したウォータクラフトは以下に述べる手順に従って調査、処置を実施してください。まず以下の手順の概略を、その後で各詳細をよく読んでください。

概略手順

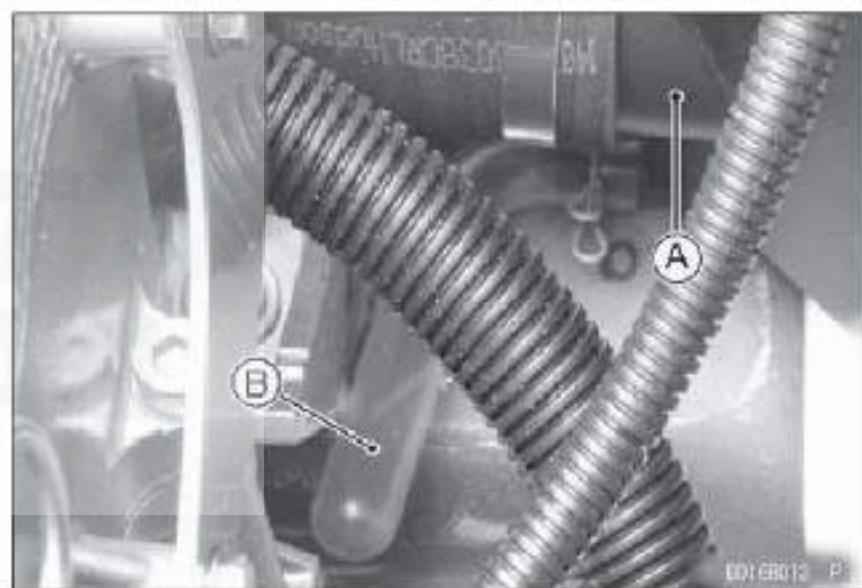


0018024B F

詳細手順

- ウォータクラフトを水から引き上げ、シートを外します。
- エンジンルームへ浸水した水のレベルを確認します。

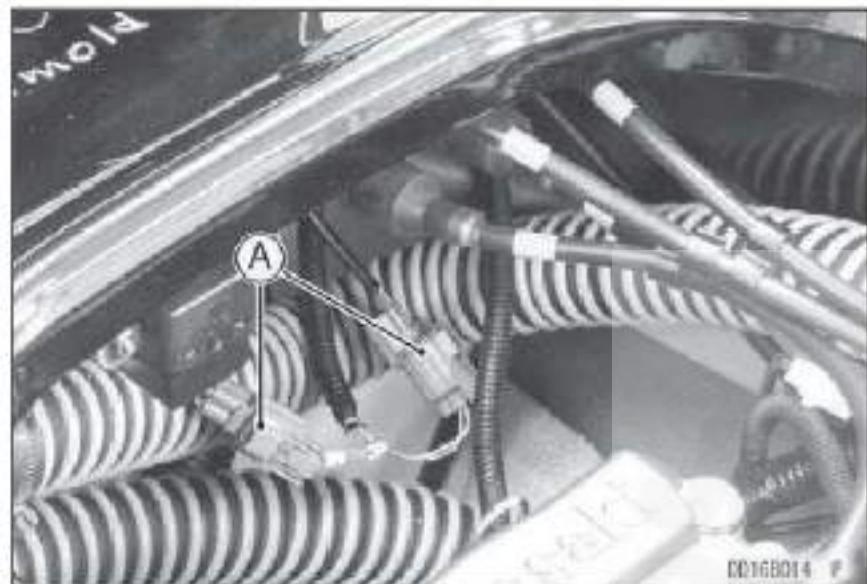
- もしドライブシャフトがすでに水没しておれば後部のドレンプラグを外し水を排水した上で、「ジェットスキーエンジンルーム」へ直ちに搬入し処置を受けます。
- ドライブシャフトが水没していないければドレンプラグを外し水を排水し、以下の手順で作業を進めます。
- エアーポックスの下面にあるドレンキャップに水が入っているかどうか確認します。



A. エアーポックス
B. ドレンキャップ

- もしキャップ内に水があればスーパーチャージャおよびエンジン内部に水が進入した可能性が高いので、至急「ジェットスキーエンジンルーム」へ搬入し処置を受けます。
- ドレンキャップ内に水が無ければ次の作業に進んでください。

- エンジン前部右にある一次側イグニションケーブルの二つのイグニションコイルコネクタを外します。



A. イグニションコイルコネクタ

- すべてのスパークプラグキャップを外します。
- すべてのスパークプラグを外します。
- イグニションキーをキー穴に差込み、ストップボタンの下にコードキーを差込みスタートボタンを押します。
- もしエンジン内に水が入っていればプラグホールから排出されます。エンジン内の水を排出

した後、至急「ジェットסקיARK」へ搬入し処置を受けます。スタータは5秒以上運転しないでください。再始動は15秒待ってからにしてください。

⚠ 警告

この作業中は、エンジンの上にかがみこまないでください。スパークプラグ穴から水とガソリンの混合物が勢いよく噴出し、目に入る恐れがあります。もし少しでも目に入ったら、すぐに水道水を使って十分に目を洗ってください。そして、できるだけ早く医者の診察を受けてください。

- プラグ穴から水が出てこない場合は、スパークプラグの電極から水気をよくふき取り、プラグとプラグキャップを取り付けます。
- イグニションコイルの一次側イグニションコイルコネクタ（2個）を接続します。

要点

- 2と3のマークがついたスパークプラグコードからのコネクタと、2と3のマークがついたリード線のコネクタを接続します。そして、残ったコネクタを接続します。
- コネクタを接続する前に良質の耐水グリースを塗布します。



A. 2と3のマーク (リード線)
B. 2と3のマーク (スパークプラグコード)

15. スタータボタンを押してエンジンを始動させます。但し、15秒以上運転しないようにしてください。

注意

水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないでください。エンジンの重大故障の原因になります。

16. オイルレベル計測ゲージを引抜いてオイルの中に水が混入しているか調べます。（混入しているれば、オイルが白濁します。）

17. オイルが白濁しておれば新しいオイルと入れ替えてください。その上で上記項目15と16の作業内容をオイルが白濁しなくなるまで繰り返してください。
18. もし、エンジンが始動しないようであれば燃料の中に水が混入した可能性があります。
19. もし、燃料タンクの中に水が混入しておればポンプかサイホンで燃料を抜き取り、新しい燃料を入れてください。抜き取った燃料は指定された方法以外で廃棄しないでください。

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

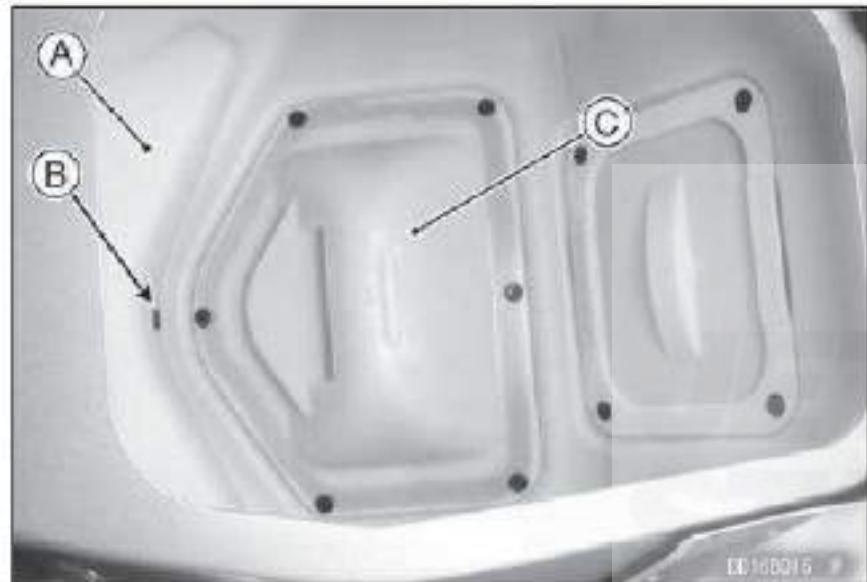
注意

油脂類の廃液は法令で適切な処置を行うことが義務づけられていますので、「ジェットスキーアーク」に相談してください。

要点

- 繰り返し燃料によるトラブルが起きる場合は、水分を排出するため燃料系統の掃除が要求されます。「ジェットスキーアーク」に相談してください。

20. 船首の備品入れを取り外し、格納スペースに水が入っていないか確認してください。必要ならばスペース底部のドレンプラグを外して排水します。およびバッテリ格納スペースのふたを外しバッテリの状態を確認します



A. 格納スペース
B. ドレンプラグ
C. バッテリ格納スペースふた

21. シートを復旧し確実にラッチをロックします。
22. 船尾のドレンプラグを取り付け確実に締め付けます
23. 最後にウォータクラフトを水上に戻し、10分間以上走らせて残っている水を完全に除去し、塩などの異物を排気口から排出します。

要点

- 上記の作業が困難と思われる時は「ジェットスキーARK」に相談してください。

航走終了後の手入れ

注意

ウォータクラフトは、長期間水中に置いておくようになってしまいません。長期間水にさらすと、船体の塗装のバブルやはくりの原因になります。また、ジェットポンプの金属が電解腐食を招き、ウォータクラフトの寿命を短くします。水中に放置された船は定期的に引き揚げ船底をこすり、汚れを防ぐ塗料にて塗装しなければなりません。それによって、水中の金属の電解腐食を減らせます。ウォータクラフトは使用する毎に、水中から引き揚げると、より長く、よりきれいな外観を保ちます。

第1: 排気系統の水抜き

- ウォータクラフトを水から引き揚げます。
- 余分な水を排気系統から出すためにエンジンを始動し、数秒間回転させます。排気口から水が出なくなるまで、繰り返しエンジンを吹かしてください。

注意

水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないでください。エンジンの重大故障の原因になります。

水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- 海上で操縦した後は、そのたびに真水で冷却系統を洗浄してください。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）これは、塩の固着による冷却系統の詰まりを防ぐのに役立ちます。

第2:エンジルームの清掃

- シートを取り外します。
- エンジルームに水がたまっていたら、ドレンプラグを外して水を出してください。排水後、ドレンプラグをしっかりと締めます。
- 海上でウォータクラフトを使用した場合はエンジルーム内部を清水であらいます。

注意

水洗いする時は電気部品に水を掛けないように、また、エンジン前方のエアインテークボックスに水が入らないよう注意してください。

- スーパーチャージャのロータに一般的な市販の防錆スプレーを塗布します。「整備と調整」の章の「スーパーチャージャ」の項参照。

注意

エンジン停止後長期間使用しない場合、ウォータクラフトを使用中にスーパーチャージャに吸引された空気中の湿気が凝縮し、内部の部品に鉛質沈着物ができることがあります。特に塩水での使用において、この沈着物がスーパーチャージャのロックを引き起こすことがあります。鉛質沈着物の生成を防ぐため、ウォータクラフトを使用した後は、そのたびにスーパーチャージャに油をさしてください。（「整備と調整」の章の「スーパーチャージャ」の項参照。）

- ウォータクラフトを一週間以上使用しない時は、エンジン各部の発錆を防ぐため、防錆剤を塗布します。
- ウォータクラフトを2週間以上使用しない時は、バッテリーを取り外し、充電器を使って充電します。「整備と調整」の章の「バッテリー」の項を参照ください。
- エンジルームを拭いて乾かし、シートを取り付けます。
- ウォータクラフトを保管する場合は、エンジルームの換気ができ、また、結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に木片等をおいて、隙間をあけておきます。

第3:船体外部の清掃

- 船外、デッキ、給水口および推進装置を清水で洗います。

特殊な手入れ

インペラの清掃

時折、海草や他の浮遊物がインペラやジェットポンプに詰まり、性能が低下することがあります。ジェットポンプを正常に作動させるために、これらの異物を完全に取り除く必要があります。

- エンジンを止め、ウォータクラフトを水から引き揚げます。



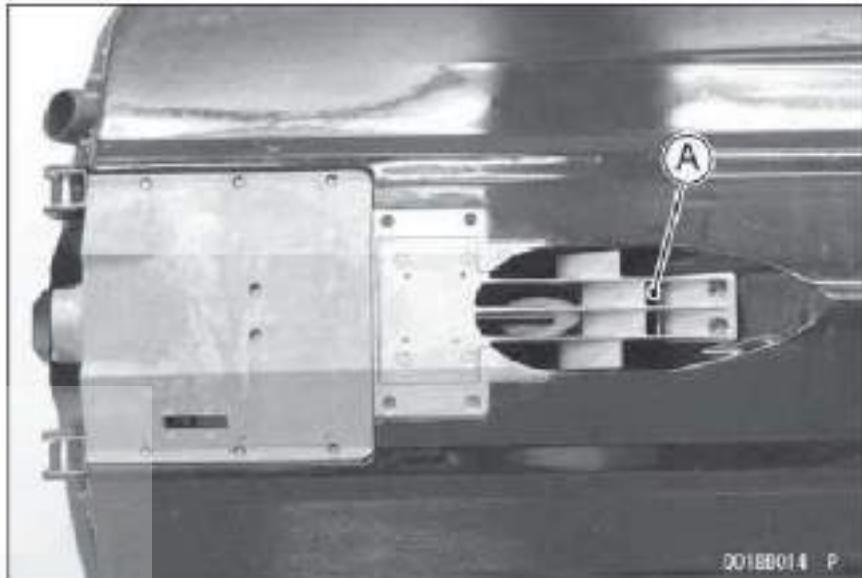
エンジンが回転中にジェットポンプの清掃をしないでください。けがをするおそれがあります。ポンプを点検する前にエンジンを止め、キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いておいてください。

- コードキーを抜きます。
- タオルかパッドをウォータクラフトの横におきます。
- ウォータクラフトを左側に傾け、必要ならばジェットポンプの格子およびカバーを取り外してください。

注意

ウォータクラフトは必ず左側に傾けてください。右側に傾けると、排気系統内の水がエンジン内に入り、エンジン損傷の原因になります。

- 吸水口、ドライブシャフト、インペラ、ジェットポンプハウジング、ポンプロ、ステアリングノズルから海草やゴミを取り除きます。



A. 吸水口

注意

ポンプのある場所や、関連部品がきれいになっていないか確認してください。エンジン冷却水はジェットポンプによって供給されるので、ポンプの性能の低下はオーバーヒートの原因になります。

- ジェットポンプカバーと格子を取り付け、ボルトにネジロックを付けてしっかりと締めます。

ボルト締付トルク: 7.8 N·m (0.80 kgf·m)

汚れたスパークプラグの清掃

スパークプラグの汚れはいくつかの原因で起こります。低いアイドリング速度や長時間のアイドリング運転をした場合等です。また、燃料に水が混

じっていたり、エンジン内部に水が入っている場合も、スパークプラグが汚れる原因になります。

- 汚れたスパークプラグを取り外し、きれいな乾いたプラグを取り付けてください。汚れたスパークプラグはプラグクリーナで清掃してください。また、水の付いたスパークプラグは、浸透性防錆剤で清掃します。

スパークプラグ締付トルク:

11 ~ 15 N·m (1.1 ~ 1.5 kgf·m)

- スロットルレバーをほんの少し開いて、エンジンを始動します。

ウォータクラフトのえい航

燃料切れ、エンジントラブル、また、その他問題が起きた場合には、ウォータクラフトをえい航してもらうことができます。6 mのえい航用ロープの一端を船首の穴に結びつけ、もう一方の端をえい航ボートに結びつけます。えい航はゆっくりと行い、8 km/h以上のスピードを出さないでください。

注意

このえい航要領は重要ですから必ず守ってください。そうしないとエンジルームに浸水し、ウォータクラフトの一部が沈むことがあります。

ジャンプコードによる始動

バッテリが上がった場合、取り外して充電する必要があります。それができないときは、他の

ウォータクラフト等の正常なバッテリとジャンプコードを使って始動することができます。その場合、ウォータクラフトのバッテリと同じ電圧(12 V)のものを使用してください。

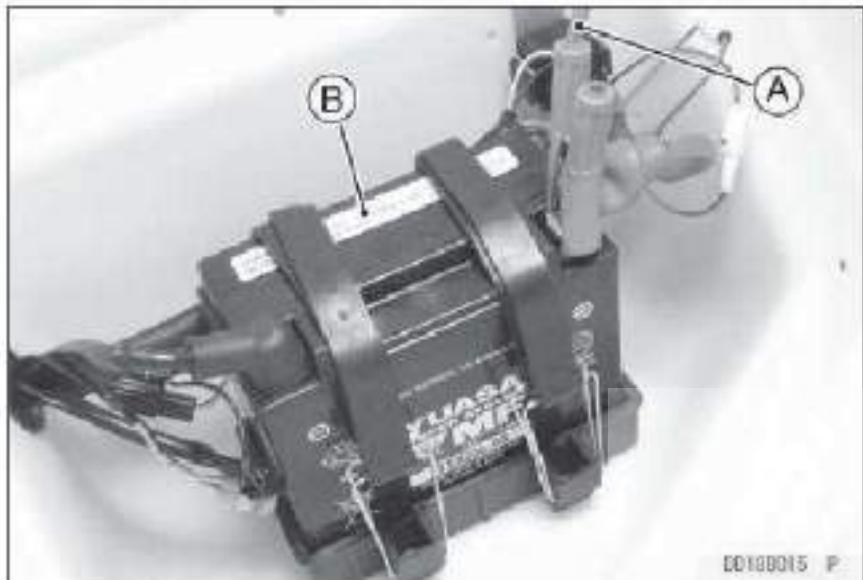
⚠ 警告

バッテリ液は条件によって引火性および爆発性がある水素ガスを発生します。このガスは常時バッテリ内にあり、完全放電していても残っています。火気や火花をバッテリから遠ざけてください。また、バッテリを取り扱っているときは、保護メガネを着用してください。バッテリ液が皮膚や目、衣類に付着したときは、直ちにその部分を水で5分以上洗い、医者の診察を受けてください。

- イグニションキーを抜きます。
- シートを外します。
- 備品入れふたを開け、そして備品入れケースを取り外します。
- バッテリー格納スペースのカバーを取り外します。
- 両方のバッテリの(+)ターミナル間をジャンプコードで接続します。
- 他のジャンプコードの一端を他の船のバッテリの(-)ターミナルに接続します。

注意

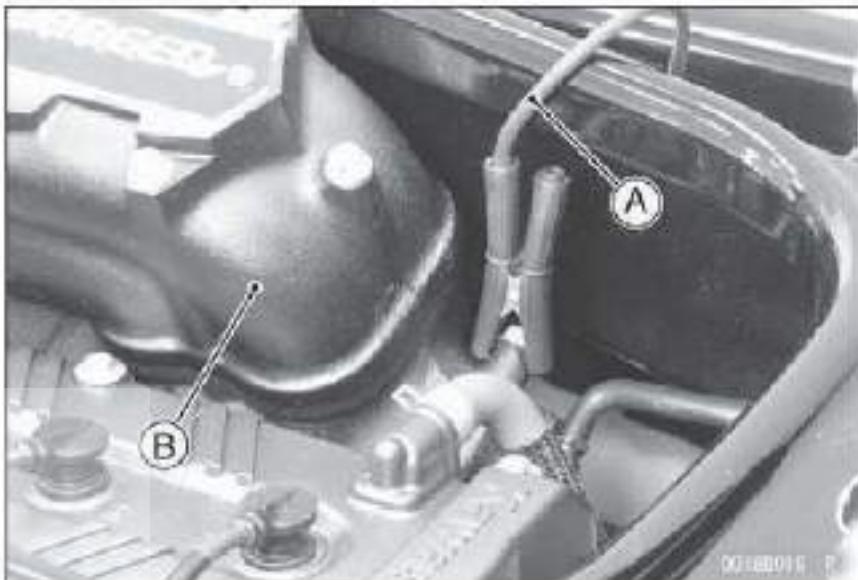
バッテリを反対の極[(+)から(-)]へ接続すると、電気系統に大きな損傷が生じます。



00188015 P

A. (+) コード
B. バッテリ

- もう一方の端をエギゾーストパイプのボルトに接続します。



00188016 P

A. (-) コード
B. エギゾーストパイプ

⚠ 警告

最後の接続を間違ってスロットルボディ、インジェクタやバッテリへしてはいけません。コードをショートさせないように注意し、上記の最後の作業をするときは、バッテリの上に体を乗り出さないでください。また、凍結したバッテリをジャンプコードで始動させてはいけません。爆発するおそれがあります。

注意

5秒間以上連続してスタータを回さないでください。スタータがオーバーヒートします。スタータが冷えるように15秒間待ってから、再度回してください。

- エンジンを始動させた後、上記の逆の順序でジャンプコードを取り外してください。

エンジンのオーバーヒート

このウォータクラフトには、冷却水およびエンジンオイルの温度センサが設けられています。エンジンがオーバーヒートしたときには警告灯が点灯しブザーがなります。

さらに原因によって、水温シンボルおよびスピードメータの隣の“HEAt”文字が点滅するか、または油温シンボルおよび“OILH”，“OILt”文字が点滅します。

同時にエンジン回転が自動的に3 000 rpm以下に制御されます。

- 警告灯が点灯し、水温シンボル、油温シンボル、および“HEAt”，“OILt”または“OILH”文字が点滅してウォータクラフトのスピードが落ちたときは、直ちに岸に戻って、冷却水系統に詰まりがないか、エンジンオイルの量は十分か点検してください。それ以外の原因の場合には「ジェットスキーARK」へ相談ください。

注意

エンジンがオーバーヒートすると警告灯が点灯し、水温シンボル、“HEAt”文字が点滅、もしくは油温シンボル、“OILH”文字が点滅してエンジンの回転がさがります。直ちに岸へ戻り、冷却系統、エンジンオイルを点検してください。

エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータクラフトを操縦しないでください。

運搬

- ウォータクラフトをトレーラ等でけん引するときは、けん引に関する諸法規、規則を必ず守ってください。
- ウォータクラフトの重量と形状に合ったトレーラを使用してください。不適格なトレーラで運搬することは安全面で問題があります。
- トレーラの上でウォータクラフトが動かないようしっかり固定してください。

注意

シート後方のハンドレールや、その下のけん引用フックに船体固定用ベルト等をかけないでください。

ウォータクラフトを運搬した後ではエンジンをかける前に備品入れおよびシートを取り外して数分間換気をしてください。（「シートラッチ」と「備品入れ」の項参照。）

▲ 警告

気化したガソリンがエンジルームにたまると、火災や爆発の原因になることがあります。

エレクトロニックスロットルバルブ(ETV)システム

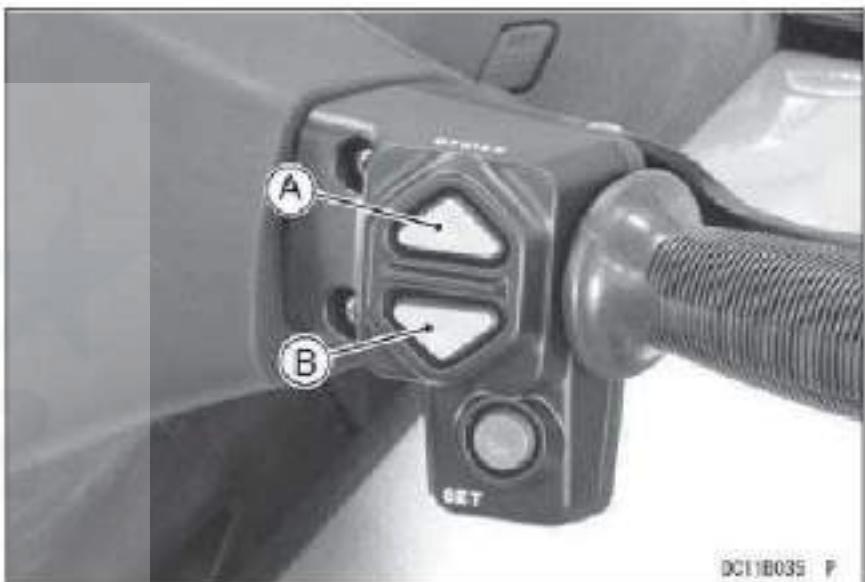
このウォータクラフトには、ケーブルではなく電子的にスロットルバルブを開閉するETVシステムが搭載されています。

ETVシステムが故障したとき、ワーニングインジケータライトが点灯し、“FI”文字が点滅し、ブザーが鳴り、操縦者に警告します。ETVシステムが故障したときは、最高速度とエンジン回転数が制限されます。



ある故障状態では、スロットルレバーを握ってもエンジン回転数がアイドル回転数から上昇し

ないことがあります。この場合には、エンジン回転数はエレクトロニッククルーズコントロールのアップボタンを一度押すごとに250 rpm回転数が増し、上限2 500 rpmまで上昇します。エレクトロニッククルーズコントロールのダウンボタンを一度押すと、上昇したエンジン回転数がアイドル回転数に戻る。



A. アップボタン
B. ダウンボタン

これらがメータに表示されたら、直ちに岸へ戻り、「ジェットスキーエーク」で故障修理を行ってください。

保管

冬の間や、一ヶ月以上の長時間ウォータクラフトを使用しないときは、適切な保管が必要です。無くなつた部品がないか点検し、摩耗した部品を交換したり、防錆のために各部への注油、潤滑をします。次回ウォータクラフトを最良のコンディションで使用できるよう準備をしておきます。「ジェットスキーARK」でしてもらうか、または次の事項を実施してください。

要点

- 個人用ウォータクラフト“ジェットスキー”は長期間水中に置いておくようにはなっていません。長期間水にさらすと、船体の塗装のバブルやはくりの原因になります。また、ジェットポンプの金属の電解腐食を招きます。塗装の損傷と電解腐食を防ぐために、ウォータクラフト“ジェットスキー”を使用したらその日のうちに水中から引き揚げてください。翌日まで水中に放置しないでください。ウォータクラフト“ジェットスキー”は使用する毎に水中から引き揚げるようになると、より寿命が長くなり、よりきれいな外観を保てます。

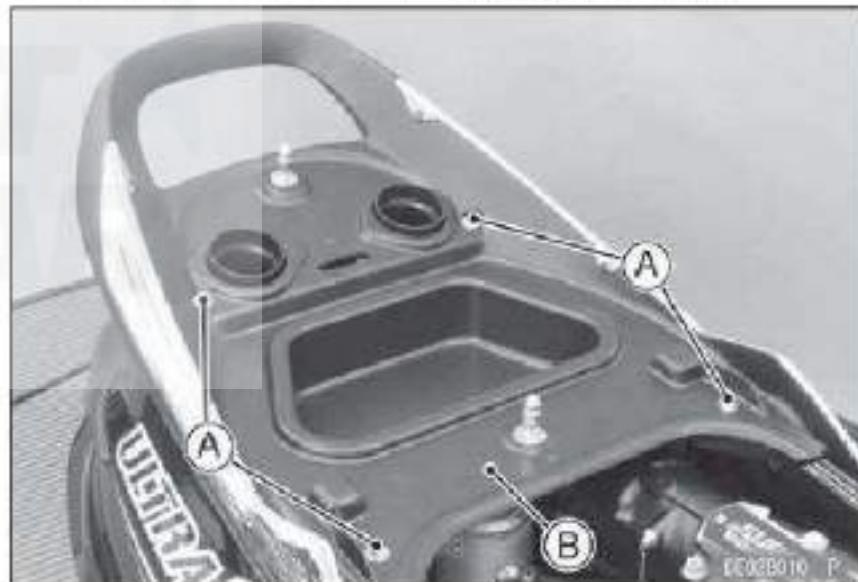
保管する前の作業

冷却系統

- 冷却系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）

ビルジ系統

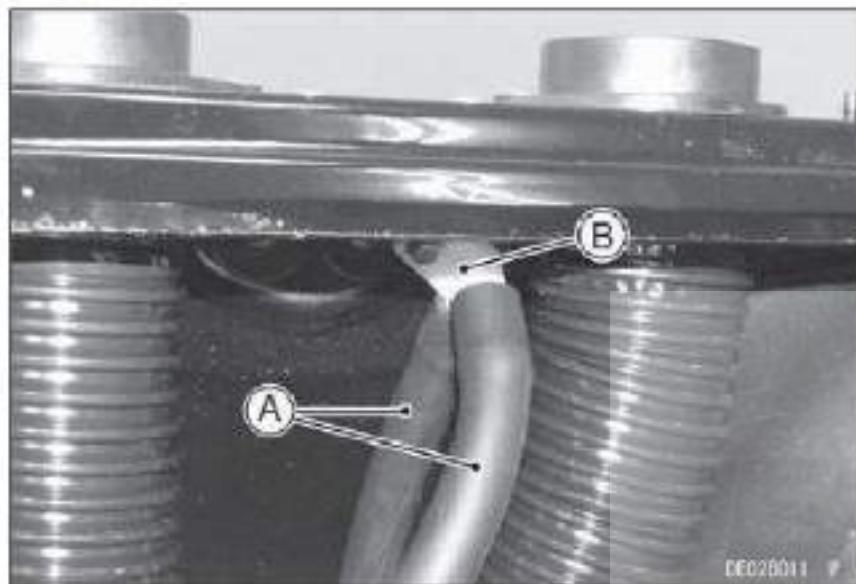
- ハンドレールプレートを取り外します。



A. ナット
B. ハンドレールプレート

- ビルジ系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「ビルジ系統の洗浄」の項参照。）このとき、ホースをプラスチックのブリーザに再び接続する前に、両方のホースに圧縮空気を吹き込

んで、ビルジ系統から水を完全に押し出してください。



- A. 両方のホースに空気を吹き込む。
- B. ブリーザ

エンジンオイル

- エンジンオイルを入替えます。（「整備と調整」の章の「エンジンオイル系統」の項を参照。）

燃料系統とエンジン

- エンジンルームを水洗いし、船尾のドレーンプラグを外して水を抜きます。エンジンルームに水が残っていれば拭きとります。

! 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

- 燃料タンクの底の燃料と水とが燃料注入口の方にいくよう船尾を少し上にあげ、サイフォンまたはポンプで燃料タンクからそれらを完全に抜きます。

注意

油脂類の廃液は、法令で適切な処置を行うことが義務づけられていますので、「ジェットスキーアーク」にご相談ください。

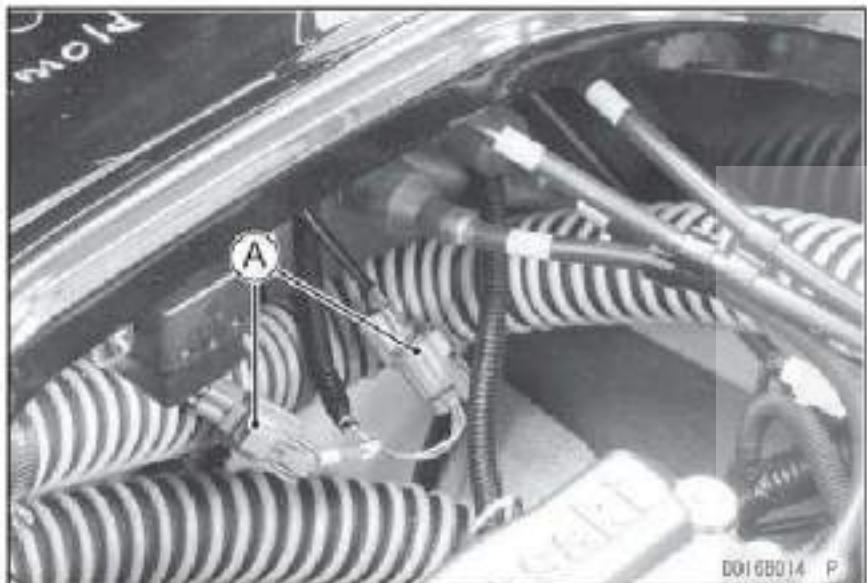
- 約10 Lの新しい燃料を燃料タンクに入れます。
- イグニションスイッチを“ON”にします。
- キルスイッチコードキーをストップボタンに差し込んでエンジンを始動し、燃料系統内の燃料が新しい燃料と入替るまで、15秒間づつ回転させます。各回転は5分間隔で行います。

注意

水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- 燃料タンクから先に述べた方法で燃料を抜きます。

- タンク内の結露を防ぐため、燃料注入口キャップを緩めておきます。
- エンジンの前方右側にある一次側イグニションケーブルの二つのイグニションコイルコネクタをはずします。



A. イグニションコイルコネクタ

- スパークプラグを取り外します。
- 各シリンダ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
- スタートボタンでエンジンを数回回転させ、シリンダの内側にオイルを行きわたらせます。

⚠ 警告

この作業中は、エンジンの上にかがみこまないでください。スパークプラグ穴から防錆剤が霧状になって勢いよく噴出することがあり、目に入るおそれがあります。もし、少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗ってください。そして、できるだけ早く医者の診察を受けてください。

- スパークプラグに浸透性防錆剤をスプレーし、シリンダーヘッドに取り付けます。

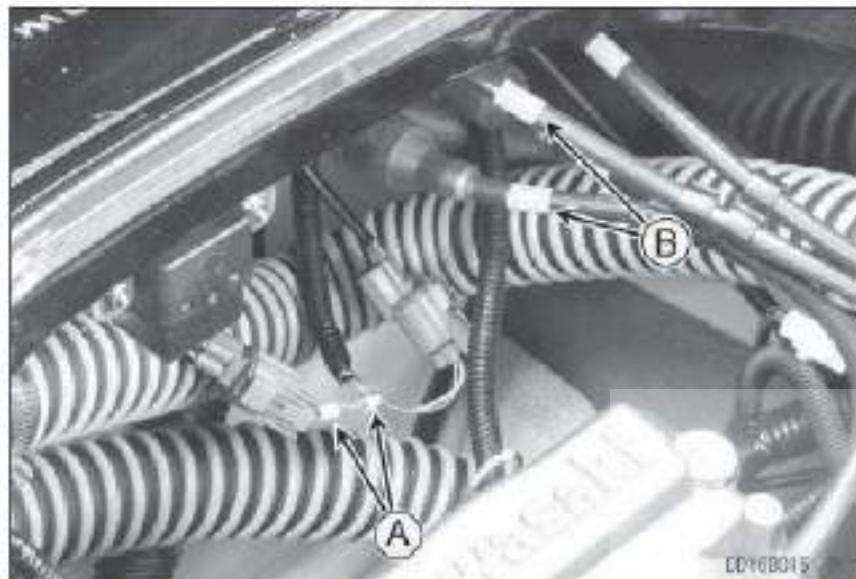
スパークプラグ締付トルク:

11 ~ 15 N·m (1.1 ~ 1.5 kgf·m)

- コードキーをトップボタンから抜き、イグニションスイッチを“OFF”にします。
- プラグキャップを取り付けます。
- イグニションコイルの一次側ケーブルのコネクター（2個）を接続します。

要点

- 2と3のマークがついたスパークプラグコードからのコネクタと、2と3のマークがついたリード線のコネクタを接続します。そして、残ったコネクタを接続します。
- コネクタを接続する前に良質の耐水グリースを塗布します。



A. 2と3のマーク (リード線)
B. 2と3のマーク (スパークプラグコード)

バッテリ

- バッテリを取り外します。（「整備と調整」の章の「バッテリ」の項参照。）
- 重ソウと水の溶解液で外部を清掃します。水でよくゆすぎます。

注意

密封栓は絶対に取り外さないでください。バッテリが損傷します。

- 両方のターミナルにグリースを塗ります。
- バッテリを乾燥した涼しい場所に保管します。温度が氷点下になる場所にはおかいでください。また、保管中は大体月に1回補充電してください。

エンジン取り付けブラケット用ボルト

- エンジン前部のエンジン取り付けブラケット用ボルトを規定のトルクで締め付けます。

要点

- この作業には特殊な工具が必要なので「ジェットスキーアーク」で実施をしてください。

スーパーチャージャ

「ジェットスキーアーク」で下記の点検・作業を受けてください。

- スーパーチャージャの駆動ベルトの摩耗および損傷を点検する。
- スーパーチャージャのロータに一般的な市販の防錆スプレーを塗布します。「整備と調整」の章の「スーパーチャージャ」の項参照。

注意

エンジン停止後長期間使用しない場合、ウォータクラフトを使用中にスーパーチャージャに吸引された空気中の水分が凝縮し、内部の部品に鉛物質の沈着物ができることがあります。特に塩水での使用において、この沈着物がスーパーチャージャのロックを引き起こすことがあります。鉛物質の沈着物の生成を防ぐため、ウォータクラフトを使用した後は、そのたびにスーパーチャージャに防錆処理を実施してください。（「整備と調整」の章の「スーパーチャージャ」の項参照。）

ジェットポンプベアリング／シール

注意

ジェットポンプベアリングとシールは定期的に整備してください。整備が不十分な場合、ジェットポンプベアリングが破損し、エンジンの重大な損傷の原因となります。

ジェットポンプベアリングとシールは、最初の20時間後、以降は50時間毎または毎年1回のどちらか早い時期に「ジェットスキーハーク」で定期点検を受けてください。また、長期間保管する前に、ジェットポンプベアリングの整備を実施し、ジェットポンプ内に残った水を抜いてください。水がポンプ内に残っていると、ジェットポンプベアリングが腐食したり、早期破損の原因になります。

洗浄

- 船体の外部を水洗いし、完全に乾かします。

注意

ウォータクラフトを洗う場合は、洗浄力の弱い洗剤を水に混ぜたものだけを使用してください。強力な溶剤は化学作用で塗装表面を変色させることができます。

- すべての露出している金属部品に、錆や腐食防止のため浸透性防錆剤を軽くスプレーします。

- 適当な換気が行われ、結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に10 mm位の木片等において隙間をあけておきます。
- ウォータクラフトにカバーを掛け、ほこりのない乾燥した場所に保管します。

注意

ウォータクラフトを外に保管すると、シート両側のデッキに水がたまります。その水は塗装のバブルやはくり、更にはデッキマットのはくりの原因になります。もし、ウォータクラフトをトレーラに載せたまま保管する場合は、デッキの水が流出するようにならぬよう、船首を上げておいてください。

潤滑

- すべての推進潤滑方法を実施してください。
(「整備と調整」の章の「潤滑」の項参照。)

保管後再使用する前の作業

以下の作業は保管期間終了後、ウォータクラフトを使用できる状態に戻すために必要な手順です。

「ジェットスキーアーク」で行ってもらうか、または次の事項を実施してください。詳細については、「整備と調整」の章を参照してください。

- すべての推奨潤滑方法を実施してください。（「潤滑」の項参照。）
- スロットル、ステアリングおよびシフト機構が動かなかったり、途中でひっかかったりしないか点検します。スロットルレバーは放すと完全にもとの位置に戻らなければなりません。
- スパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。（「スパークプラグ」の項参照。）
- すべてのゴムホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 保護パッドを敷いてウォータクラフトを左へ傾け、ジェットポンプカバーを取り外します。冷却ホースとビルジホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 必要なら良品と交換してください。カバーを取り付け、ボルトにネジロックを塗布してしっかりと固定します。

ボルト締付トルク: 7.8 N·m (0.8 kgf·m)

- ドレンプラグがしっかりと取り付けられているか点検します。
- バッテリのターミナルを清掃し、必要ならば補充電します。バッテリを取り付けてください。（「バッテリ」の項参照。）

- 燃料タンクにガソリンを入れ、燃料注入口キャップをしっかりと締めます。

!**警告**

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。キルスイッチコードキーをストップボタンから抜き、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないか確かめてください。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、シートを外し、小物入れ（後部）を取り出して、エンジンルームを数分間換気してください。

!**警告**

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 燃料漏れを点検し、必要があれば修理してください。
- オイルの量を調べ、少なければ規定のオイルを補充します。

!**警告**

密閉された場所でエンジンを運転しないでください。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

106 保管

- エンジンを始動し、15秒間運転します。燃料、オイルおよび排気ガス漏れを点検してください。漏れがあれば必ず修理してください。
- シートを取り付け、ラッチをロックします。

注意

水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

水から引き揚げた状態では、エンジンを最大速度で回転させないでください。エンジンの重大故障の原因になります。

JET
STAR

整備と調整

定期点検整備表

要点

- 毎日乗る前には必ず「乗る前の点検項目」の点検を実施してください。

実施項目	頻度	最初の 10時間後	25時間毎	50時間毎	100時間 毎
※ スーパーチャージャの駆動ベルトの摩耗および損傷を点検する。	●	●			
※ スーパーチャージャのローターに防錆油を塗布する。	毎航走終了後				
すべてのホース、ホースクランプ、ナット、ボルトおよびファスナを点検する。	●	●			
※ ジェットポンプペアリングとシールを潤滑する。 ペアリング／シールを点検し、必要ならば交換する。	最初の20時間後、以降は50時間毎または毎年1回のどちらか早い時期				
スロットルボディ部のスロットルボディケーブル取付部を潤滑する。		●			
スロットルコントロールケーブルおよびスロットルレバーのケーブル取付部を潤滑する。		●			
スパークプラグを清掃し、ギャップを点検し、必要ならば交換する。		●			
ステアリングケーブルジョイント(ステアリングシャフトの下部)、シフトケーブルのポールジョイントと、ステアリングノズル、リバースパケットのピボットを潤滑する。		●			

108 整備と調整

実施項目	頻度	最初の 10時間後	25時間毎	50時間毎	100時間 毎
※ ハンドルバーピボットを潤滑する。		●			
※ 燃料ポンプスクリーンを清掃する。		●			
※ 燃料ベントチェックバルブを点検する。		●			
スロットルコントロール系統を点検する。		●			
※ バルブクリアランスを点検調整する。					●
エアーボックスのドレンプラグを点検清掃する。		●			
エンジンオイルを交換する。		● (1)			
エンジンオイルフィルタを交換する。					●
※ エンジン取り付けボルトを点検・締める				● (1)	
ビルジ系統およびフィルタを洗浄する。		●			
冷却系統を洗浄する(海上で操縦したときは使用後毎回)。		●			
※ インペラのブレードの損傷を点検する。					●
※ カップリングダンパを点検、交換する。					●
※ スロットルシャフトのスプリングを点検する(もし必要ならばスロットルアッセンブリを交換する)。					●
※ ステアリングケーブル、シフトケーブルを点検する。					●
船尾ドルンプラグの損傷を点検する(もし必要ならば交換する)				●	
バッテリターミナル及び充電状態の点検		●			
※ 燃料ホースを交換する。	4年毎				

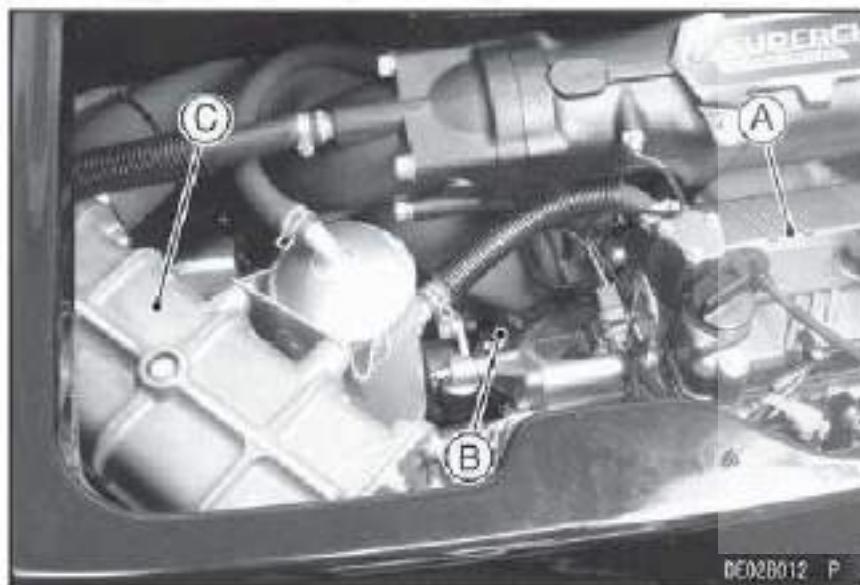
※ これらの項目は適正な工具を用いて行わなければなりません。適切な設備がなく、また、機械の取り扱いに熟練していなければ、「ジェットスキーARK」で実施してもらってください（サービスマニュアル参照）。

- (1) または毎年1回のどちらか早いほう。



スーパーチャージャ

このウォータクラフトにはスーパーチャージャおよびインタークーラーが搭載されており高出力エンジンの重要な役割を構成しています。「定期点検整備表」に従って「ジェットスキーアルク」で点検・整備を受けてください。



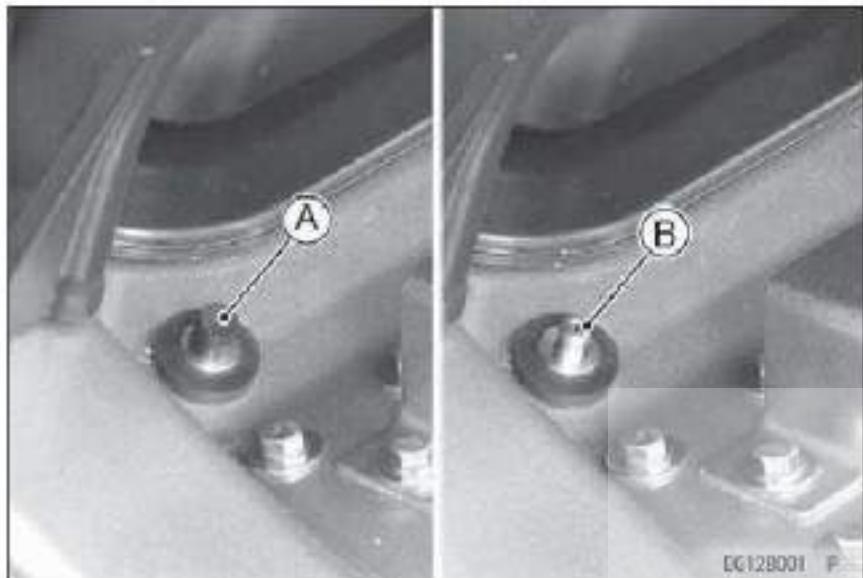
A. エンジン
B. スーパーチャージャ
C. インタークーラー

注意

エンジン停止後長期間使用しない場合、ウォータクラフトを使用中にスーパーチャージャに吸引された空気中の水分が凝縮し、内部の部品に鉛物質の沈着物ができることがあります。特に塩水での使用において、この沈着物がスーパーチャージャのロックを引き起こすことがあります。鉛物質の沈着物の生成を防ぐため、ウォータクラフトを使用した後は、そのたびにスーパーチャージャに防錆処理を実施してください。(「整備と調整」の章の「スーパーチャージャ」の項参照。)

スーパーチャージャの防錆

- フロントシートを取り外します。「一般事項」の章の「シートラッチ」の項を参照してください。
- 注油口のキャップを取り外します。
- エンジンを始動して、アイドルスピードにしてください。
- 防錆スプレー給油口から、スーパーチャージャに一般的な市販の防錆スプレーを10秒間塗布します。
- エンジンを停止させます。
- 取り外した部品を取り付ける。



A. キャップ
B. 防錆スプレー注油口

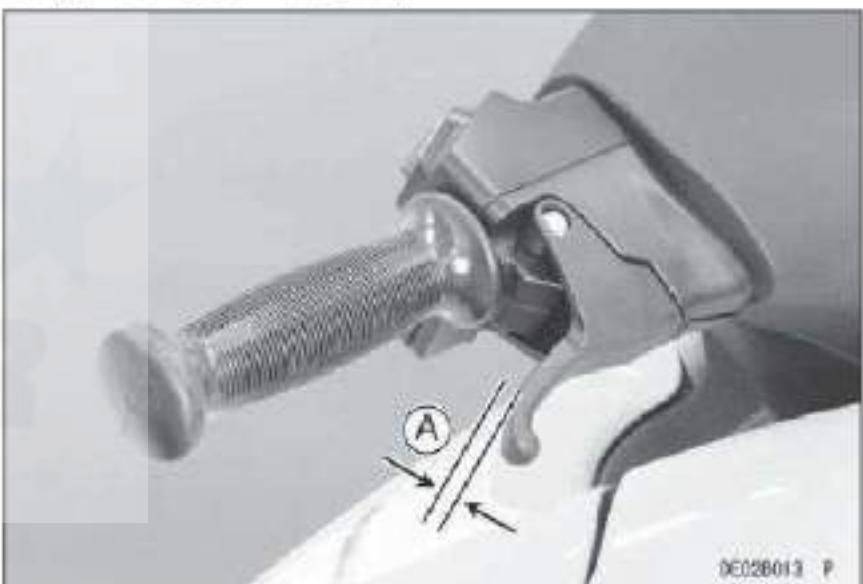
注意

水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

コントロールケーブル

スロットルケーブルの調整

スロットルケーブルには適度の“あそび”が要ります。エンジンの回転が上がり始めるまでのスロットルレバーの動く量を測ります。約2 mmが適当な“あそび”量です。



A. 約2 mm

このウォータクラフトにはエレクトロニックスロットルバルブ(ETV)が搭載されています。調整は「ジェットスキーカーク」でしてください。

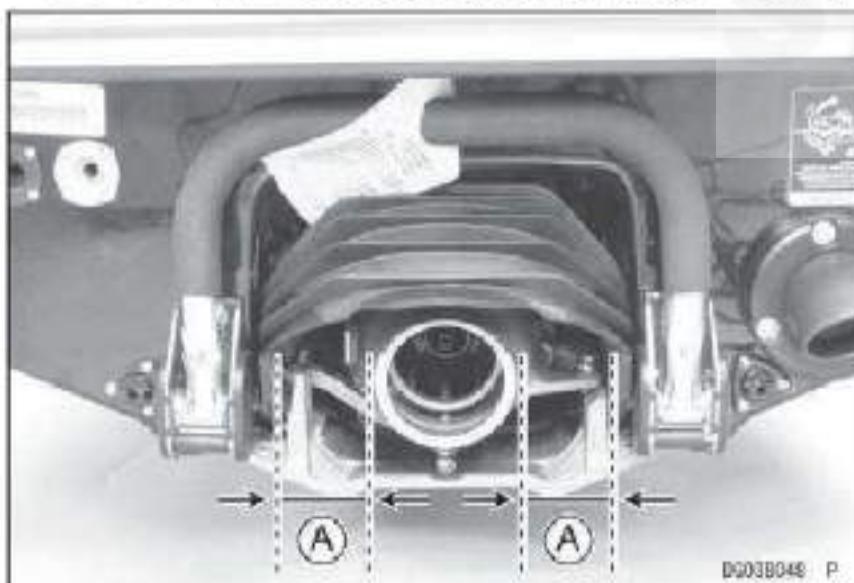
ステアリングケーブルの調整

- ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。



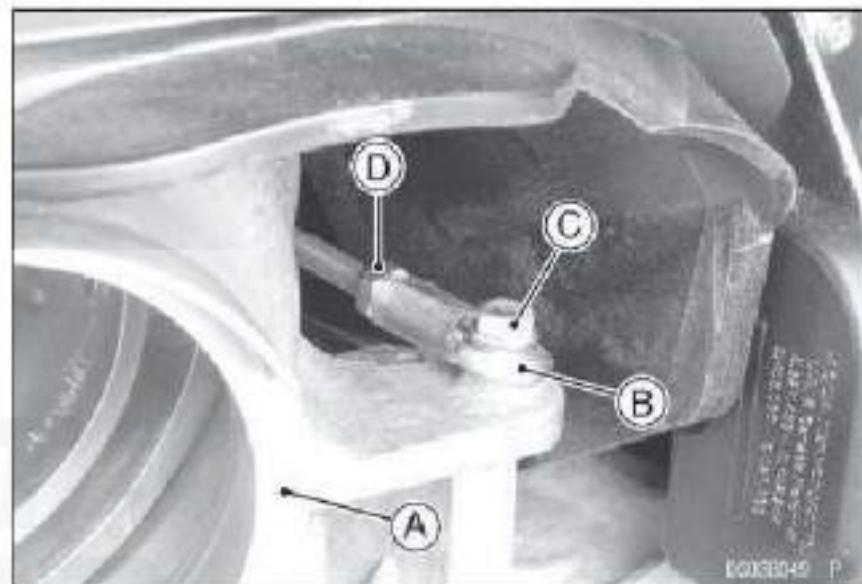
A. ハンドルバー

- ステアリングノズルがリバースパケット取付用プラケットから同じ距離にあるか点検します。



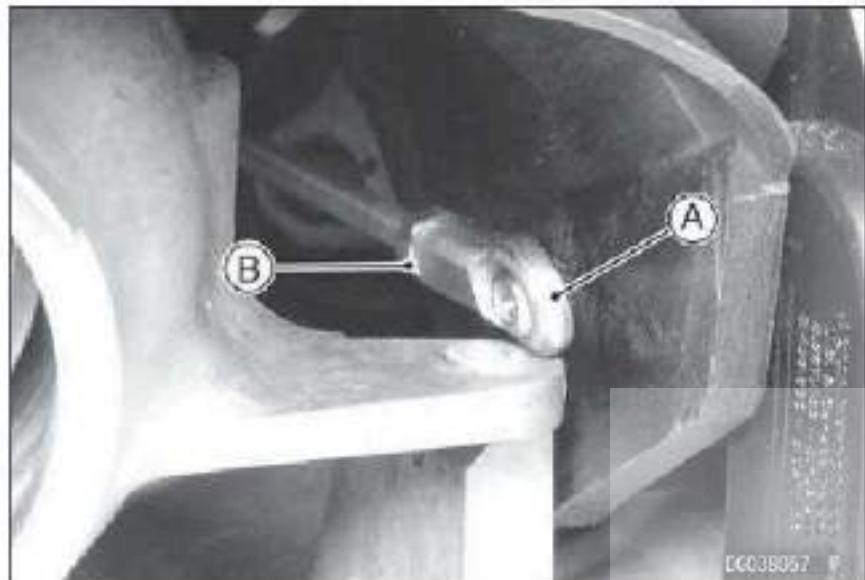
A. 等距離

- 同じ距離でなければ調整します。
- ステアリングノズル右側のステアリングリングのロックナットを緩めます。



A. ステアリングノズル
B. ジョイント
C. ボルト
D. ロックナット

- ジョイント部のボルトを外します。
- ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。
- リンクのジョイントを回して、ステアリングノズルがノズル室の中央に位置するように調整します。

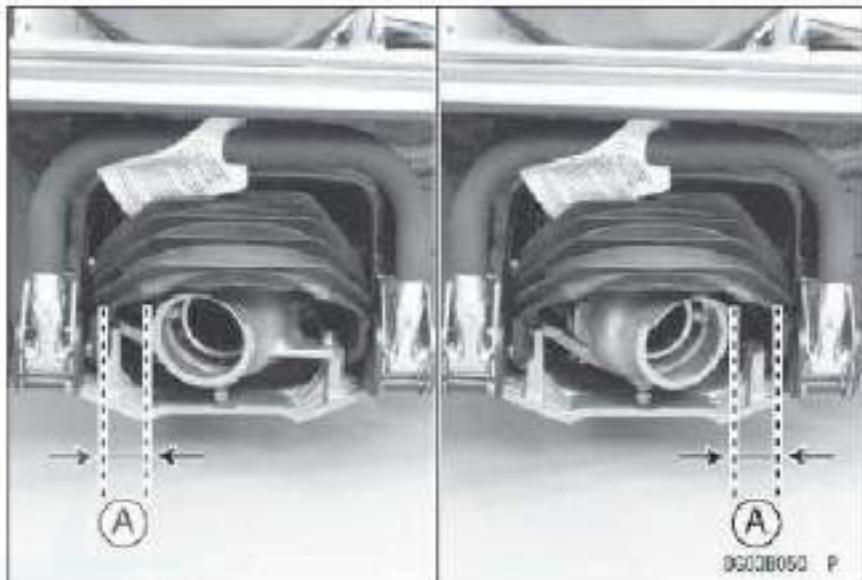


A. ジョイント
B. ロックナット

- ノズルにジョイントを接続し、もう一度ステアリングケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければ、ロックナットをしっかりと締めます。また、ボルトにネジロックを塗布し、ジョイントをノズルに取り付けます。

ボルト締付トルク: 9.8 N·m (1.0 kgf·m)

- もう一つの点検方法として、ハンドルを左右にいっぱい切ります。ステアリングノズルの左右の端からリバースパケット用ブラケットまでの隙間を計り、それぞれが同じであれば正確に調整されています。



A. 等距離

ステアリングケーブルの点検

ステアリングの動きがスムーズでなかったり、ひっかかっているように感じられたときは、「ジェットスキーアーク」で点検を受けてください。

要点

- ステアリングケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

トリムコントロールケーブルの調整

トリムコントロールケーブルの調整は「ジェットスキーアーク」でしてください。

トリムコントロールケーブルの点検

ステアリングの動きがスムーズでなかったり、ひっかかっているように感じられたときは、

「ジェットスキーカー」でトリムコントロールケーブルの点検を受けてください。

要点

- トリムコントロールケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

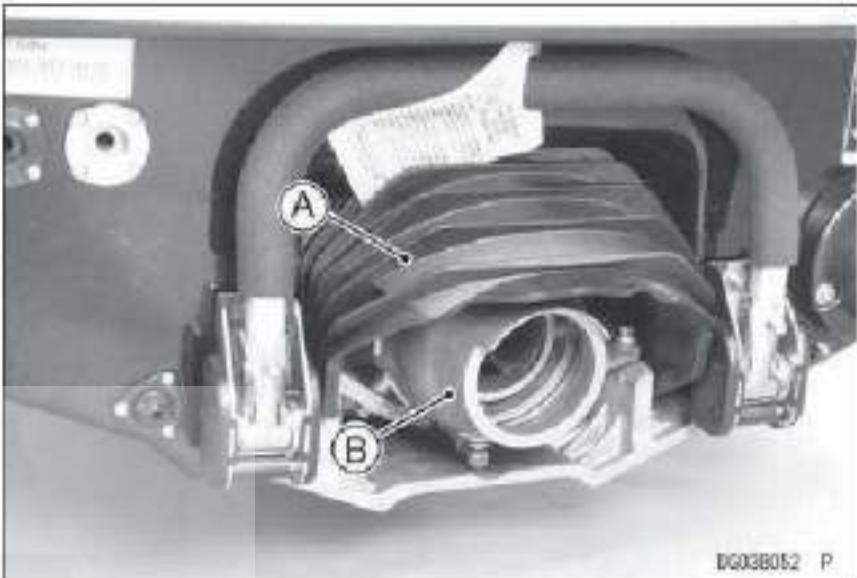
シフトケーブルの調整

- シフトレバーを “F” (前進) の位置に入れます。



A. シフトレバーの “F” (前進) 位置

- このとき、スター（船尾）にあるリバースパケットに少し遊びがあり、手で押し下げてもパケットの下端はステアリングノズルの上端より上に位置します。



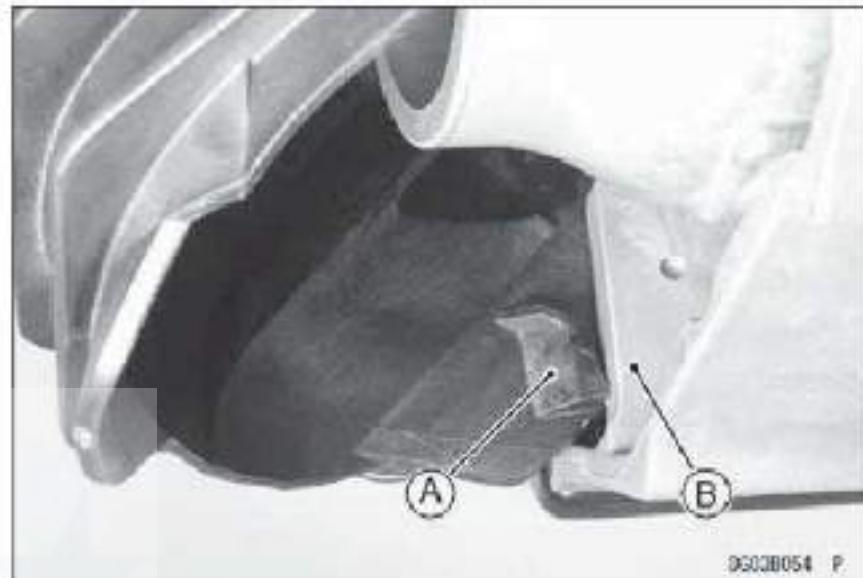
A. リバースパケット
B. ステアリングノズル

- シフトレバーを “R” (後進) の位置に入れます。



A. シフトレバーの“R”（後進）位置

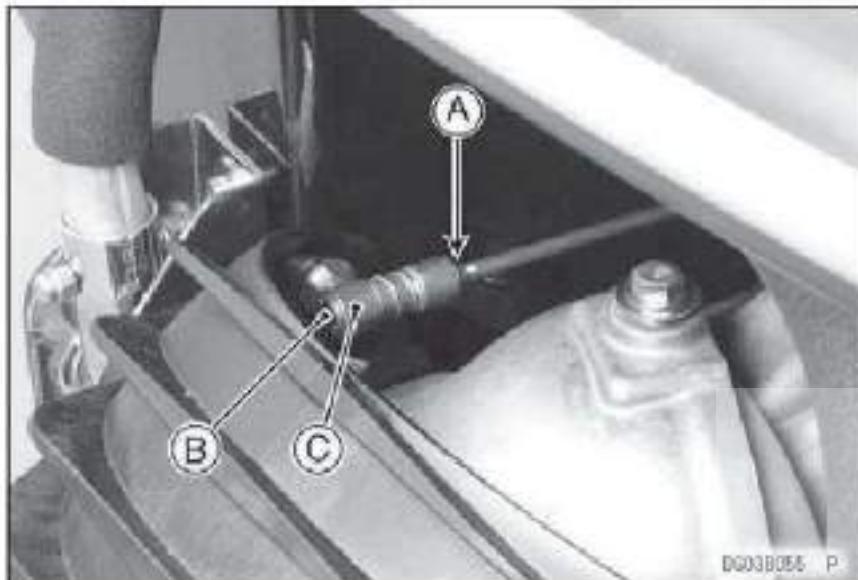
- このとき、リバースパケットの下端右側のストッパーが、ポンプカバーの底面に当たっています。



A. ストップバー

B. ポンプカバー

- もしどちらかでも異なっていれば、シフトケーブルを調整します。
- シフトレバーを“R”（後進）の位置に入れます。
- シフトリンクのボールジョイントのロックナットを緩めます。

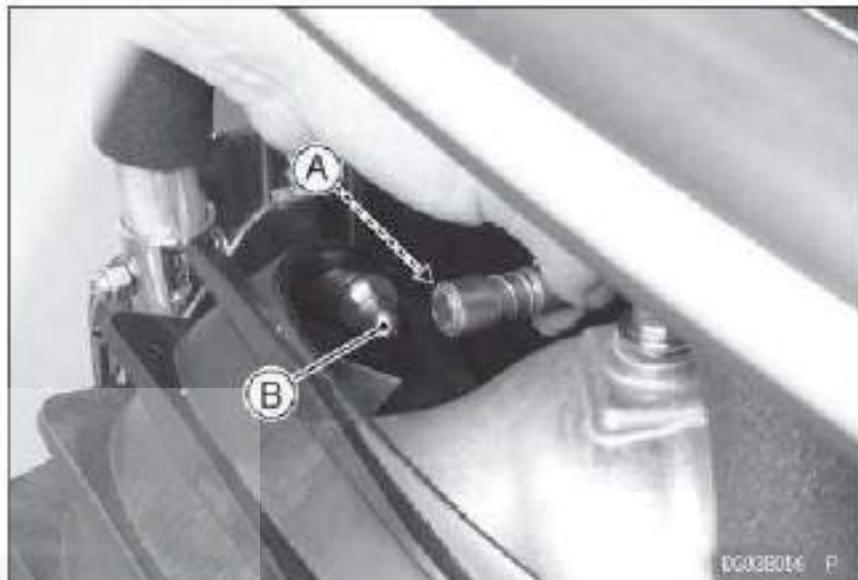


A. ロックナット
B. ボールジョイント
C. スリープ

- アウタースリープを少しずらして、ボールからボールジョイントを外します。
- リンクのボールジョイントを回して、シフトレバーが“F”（前進）の位置にあるとき、バケットに2~3 mmの遊びがあり、手で押し下げてもバケットの下端がノズルの上端より上有るよう に調整します。

要点

- ケーブル端部が5 mm以上ジョイントにねじ込まれて いることを確認します。



A. ボールジョイントの穴
B. ボール

- ボールにボールジョイントを接続し、もう一度 シフトケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければ、ロックナットをしっかりと締めます。

シフトケーブルの点検

シフトケーブルの動きがスムーズでなかったり、ひつかかっているように感じられたときは、「ジェットスキーARK」で点検を受けてください。

要点

- シフトケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

燃料系統

スロットルの調整

アイドリングスピード:

アイドリングスピードの調整は「ジェットスキーARK」で行ってください。もし、アイドリングが不安定になったらスロットルボディを販売店で点検してもらってください。

アイドリングスピード

水上……約1 300 ±100 rpm

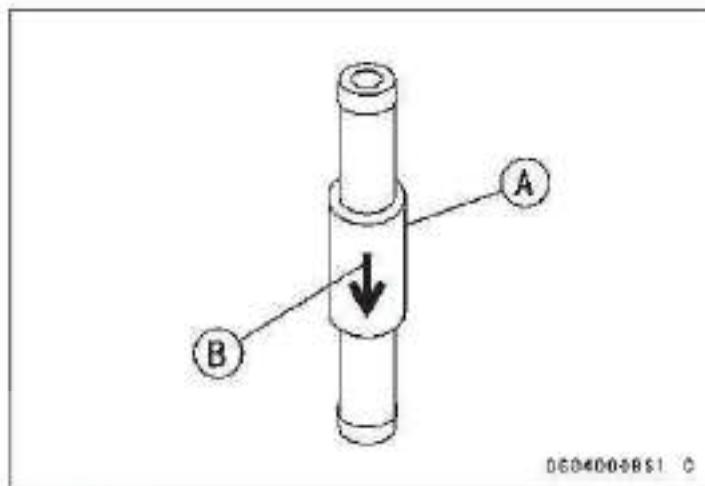
陸上……約1 300 ±100 rpm

高地でウォータクラフトを使用する場合でもECU（電子制御ユニット）が自動的に燃料／空気の混合を調整するため特別な調整は要りません

燃料ペントチェックバルブ

燃料タンクにはペントホースが設けられています。ペントホースの中間にチェックバルブが取り付けられ、ウォータクラフトが転覆したときの燃料流出を少なくし、かつ燃料タンクへ空気が入るようになっています。

「定期点検整備表」の規定に従って、チェックバルブの検査を「ジェットスキーARK」で受けてください。



0604000851 C

A. チェックバルブ

B. 流れの方向

燃料ポンプスクリーン

ウォータクラフトには燃料系統に汚物や異物が入らないように、燃料ポンプにスクリーンが設けられています。

「定期点検整備表」の規定に従って、スクリーンの検査を「ジェットスキーARK」で清掃してもらってください。

燃料ホース

ゴム部品であるホースは年月がたつと劣化します。長期保管前および長期保管後乗る前には「ジェットスキーARK」で燃料系統の点検を受けてください。

⚠ 警告

このウォータクラフトは燃料噴射モデルで、燃料ホースには常に高圧がかかっています。そのため劣化による割れやホース接続部に緩みがあるとガソリンが噴出し、火災や爆発の原因となるおそれがあります。

エンジンオイル系統

エンジンには適量のエンジンオイルを保つことが不可欠です。「定期点検整備表」にしたがってエンジンオイルおよびオイルフィルタを交換してください。エンジンオイルにはごみ等が溜まる他、長時間使用によりオイル自体が劣化します。

エンジンオイルおよびオイルフィルタの交換

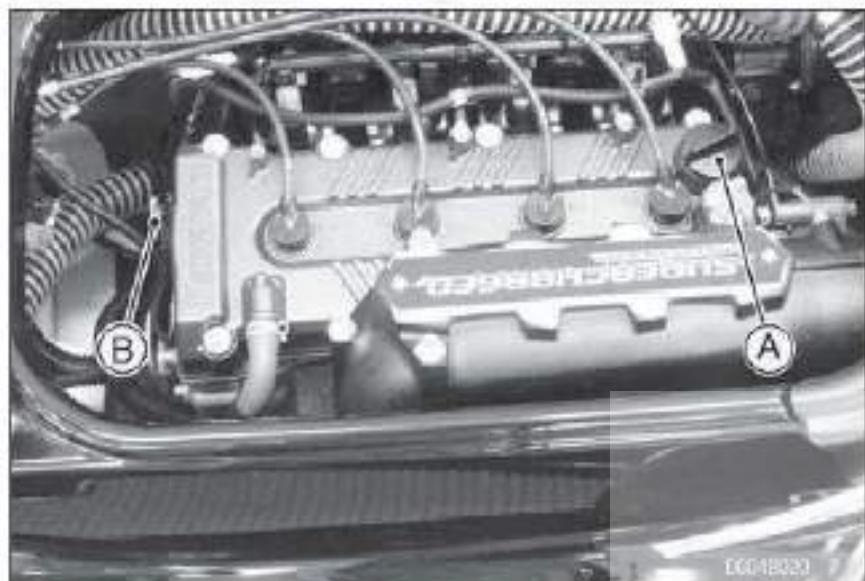
下記の要領にしたがってエンジンオイルおよびオイルフィルタを「定期点検整備表」に記載されている時期に交換してください。

- ウォータクラフトを前後・左右方向に極力水平に据付けます。
- 十分に換気された区画で冷却水を送りながらエンジンを始動します。

注意

エンジンは冷却水を出す前に始動し、エンジンを停止するときは先に冷却水を止めてください。また、冷却水無しではエンジンは15秒以上運転しないでください。

- エンジンを暖気し、その後停止します。
- オイル注入孔キャップおよびレベル計測ゲージを外します。



A. オイル注入孔キャップ
B. レベル計測ゲージ

注意

エンジン内部にごみや異物が入らないように注意してください。

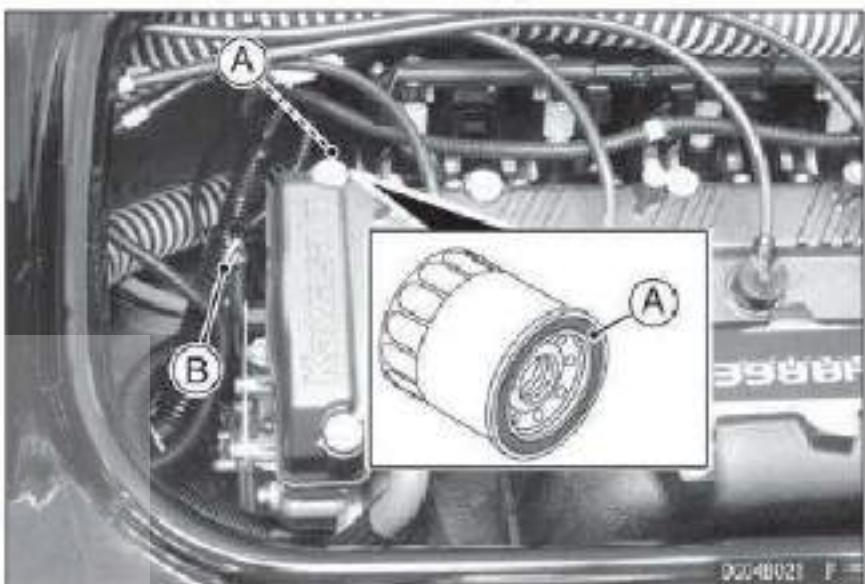
- レベル計測ゲージパイプからバキュームポンプ等を利用してオイルを排出します。

注意

エンジンオイル等の廃液は法令で適切な処置を行なうことが義務づけられていますので、「ジェットスキーARK」にご相談ください。

- こぼれ出る油を受けるため、布きれ等を下部に敷きます。

- オイルフィルタを外します。



A. オイルフィルタ
B. レベル計測ゲージ

- オイルフィルタのガスケット部に薄くエンジンオイルを塗り、規定のトルクで締めつけます。

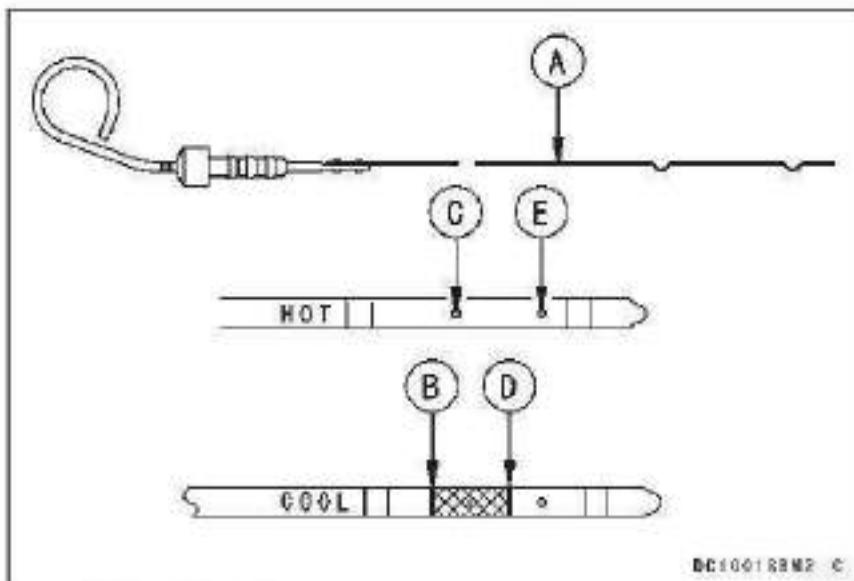
フィルタ締めつけトルク

16 ~ 20 N·m (1.6 ~ 2.0 kgf·m)

- 下の表に指定されているオイルを計測ゲージの“H”(ハイレベル)の線まで注入します。(冷間用のマークを使用します。)

要点

- オイルを“H”(ハイレベル)以上に入れ過ぎないように注意します。入れ過ぎたらオーバーした分を排出してください。



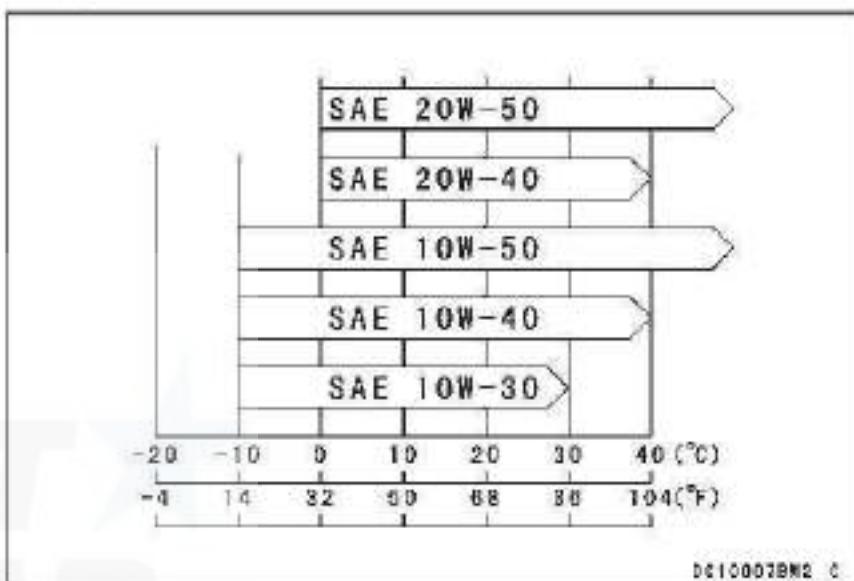
- A. 計測ゲージ
- B. 冷間時の "H" (ハイレベル)
- C. 暖間時の "H" (ハイレベル)
- D. 冷間時の "L" (ローレベル)
- E. 暖間時の "L" (ローレベル)

タイプ	API SG、SH、SJ、SLまたはSM (JASO MA、MA1またはMA2) SAE10W-40
必要量:	4.5 L(オイルのみ交換時) 5.5 L(エンジンを完全に空にした時)

要点

- エンジンの性能、耐久性に悪影響を与えることがあるので、エンジンオイルに摩擦を低減させる添加物は加えないでください。

通常10W-40が推奨オイルですが、使用状況によってはオイル粘度を次の表により変える必要があります。



- オイル注入孔キャップおよびレベル計測ゲージをしっかりと締めつけます。
- 冷却水を接続し、供給しながらエンジンを数分間始動します。(冷却水の供給のしかたは本章の「[冷却系統の洗浄]」の項を参照してください。)

注意

水を流す前に、必ずエンジンをかけておいてください。先に水を流すと、エギゾーストパイプを通ってエンジン内に水が逆流して、内部を損傷するおそれがあります。

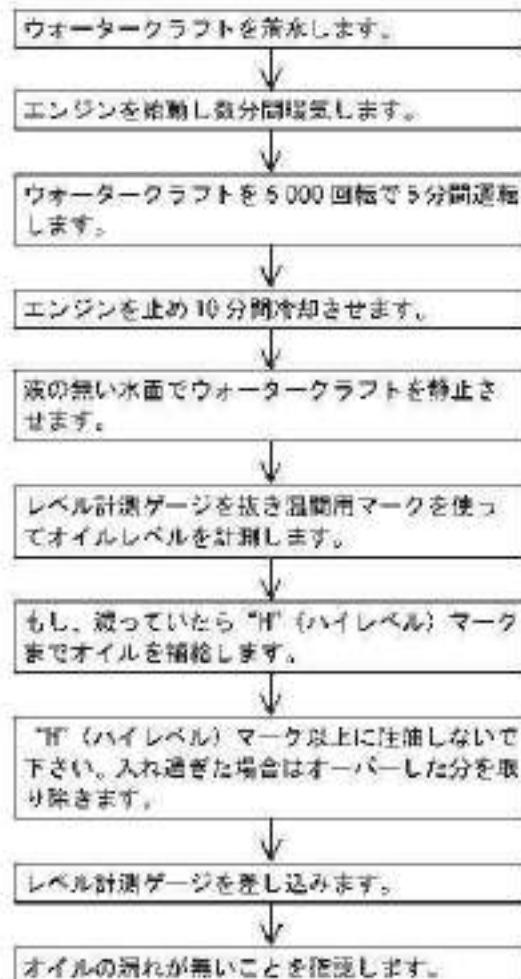
- 再度オイルレベルを計測し、“H”(ハイレベル)と“L”(ローレベル)の間にあることを確認します。

- エンジン室内にオイルの漏れがないか確認します。

要点

- この作業は適切な技術と工具が要ります。必要な時には、「ジェットスキーアーク」にご相談ください。

エンジンオイルが注入された後、次に示す手順でオイルレベルを注意深く計測してください。



要点

- オイルレベルを計測する時に、ウォータクラフトの前後方向のトリムおよび左右方向の傾斜はオイルレベルに大きな影響を与え、正確な計測ができません。計測は搭乗者および荷物がウォータクラフトに載っていない状態で行ってください。また、燃料タンクはフルの状態で計測をしてください。
- このオイルレベルを水上で計測する方法はオイル量が不足して補給した場合でも行ってください。

バルブクリアランス

バルブクリアランスはバルブやバルブシートの摩耗によって小さくなり、バルブタイミングを不適切にします。

注意

バルブクリアランスの調整をしないとバルブが完全に閉じなくなり、パワーがロスするだけでなく、バルブやバルブシートが焼けてエンジンが損傷するおそれがあります。

- 定期点検表に従がってバルブクリアランスを点検し、調整してください。
- バルブクリアランスの点検と調整は「ジェットスキーARK」してください。

バルブクリアランス

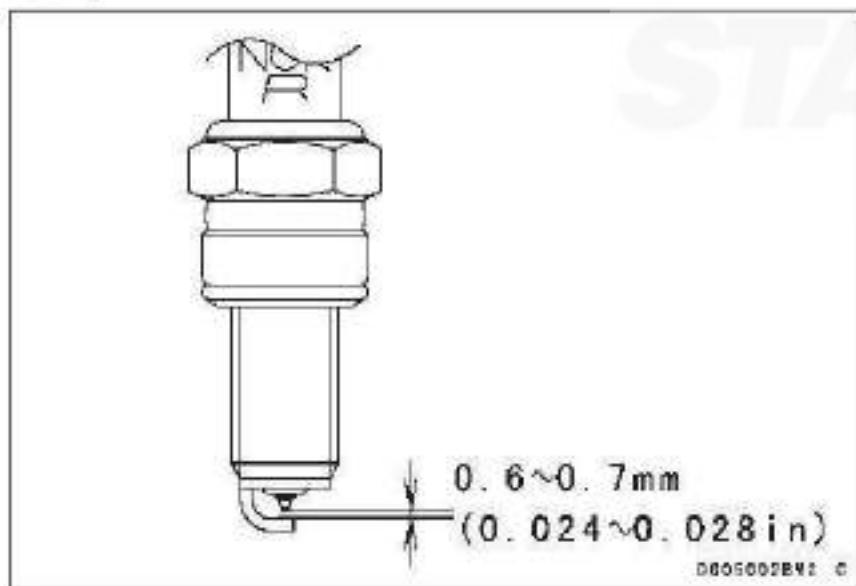
吸入側	0.15 ~ 0.24 mm
排気側	0.47 ~ 0.55 mm

スパークプラグ

「定期点検整備表」の規定に従ってスパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。

標準のスパークプラグはNGK PMR9Bで、ギャップを0.6~0.7mmに調整して使用してください。

ウォータクラフトのエンジンは水冷で、一般的に一定のスロットル開度で運転されるので、シリンドヘッドの温度は比較的安定しています。従つて、エンジンの調子がよく、調整も適切であれば、熱価の異なったスパークプラグを使用する必要はありません。間違った熱価のスパークプラグを使用すると、エンジンの広範な損傷の原因となるので、標準のスパークプラグのみ使用してください。



スパークプラグの検査および交換:

スパークプラグを取り外し、絶縁碍子を検査します。電極のまわりの絶縁碍子を見ると燃焼状態がわかります。エンジンが適正に運転されていると、絶縁碍子はきれいで薄褐色をしています。絶縁碍子が白くなり過ぎたり、プラグに灰色の金属性の付着物があるなら、燃焼室の温度が高過ぎます。「トラブルシューティング」の章を参照してください。

注意

過度の運転温度はエンジンに重大な損傷を起こすので、原因をつきとめ直ちに修正してください。

- 絶縁碍子に乾いたすすのような黒い堆積物があるときは、燃料と空気の混合が濃過ぎることを示しています。スロットルコントロールケーブルが正しく調整されているか点検してください。
「トラブルシューティング」の章を参照してください。
- スパークプラグを点検し、電極が腐食、損傷したり絶縁碍子が割れている場合はプラグを取り替えてください。
- スパークプラグの電極のギャップを計測します。計測には電極の白金部分を損傷しないよう、ワイヤタイプのゲージを使用してください。

注意

プラグのギャップは調整しないでください。ギャップの測定値が規定値を超えてるときはプラグを取り替えてください。

要点

- 電極周囲に油分やカーボンが付着していれば非金属ブラシまたはプラグクリーナを使って清掃し、高引火点の溶剤で洗浄します。

注意

スパークプラグを清掃するときは、金属ブラシを使用しないでください。電極を傷めるおそれがあります。

スパークプラグ締付トルク:

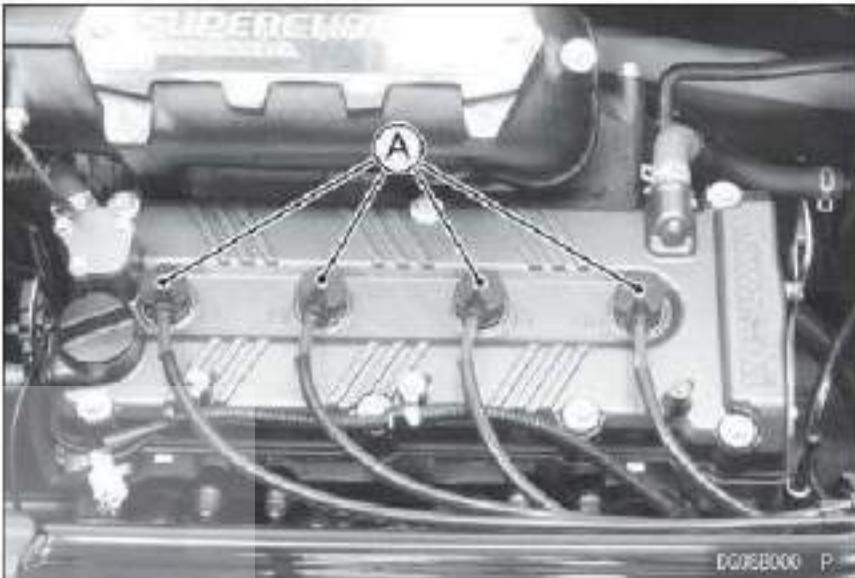
11 ~ 15 N·m (1.1 ~ 1.5 kgf·m)

スパークプラグの取付け

- スパークプラグをプラグホールへ差込みます。
- 規定トルクでプラグを締め付けます。
- プラグキャップをプラグに取付け、充分差し込みます。

要点

- プラグキャップに過度の荷重が掛からないよう、プラグケーブルがエンジンの中心線に対して直角になるようプラグキャップを取り付けてください。



A. プラグキャップ

- 最後にプラグキャップを軽く引っ張って、キャップの取付けが良好であることを確認します。

バッテリ

バッテリは船首の格納スペースの中になります。

- 備品入れを取り出して、バッテリ格納スペースのふたを外してください。



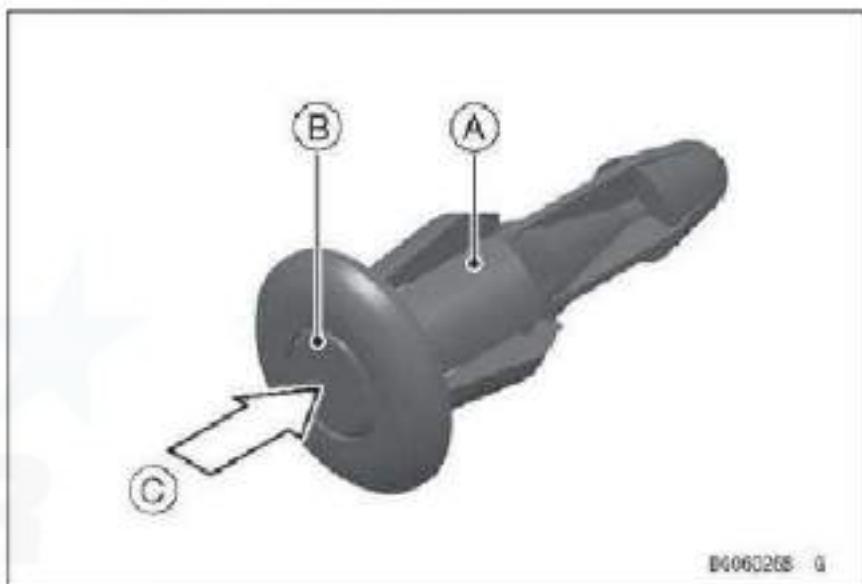
A. 船首格納スペース
B. ドレンプラグ
C. バッテリ格納スペースふた

要点

- バッテリ格納スペースのふたはクイックリベットで止められています。クイックリベットを外すにはリベット

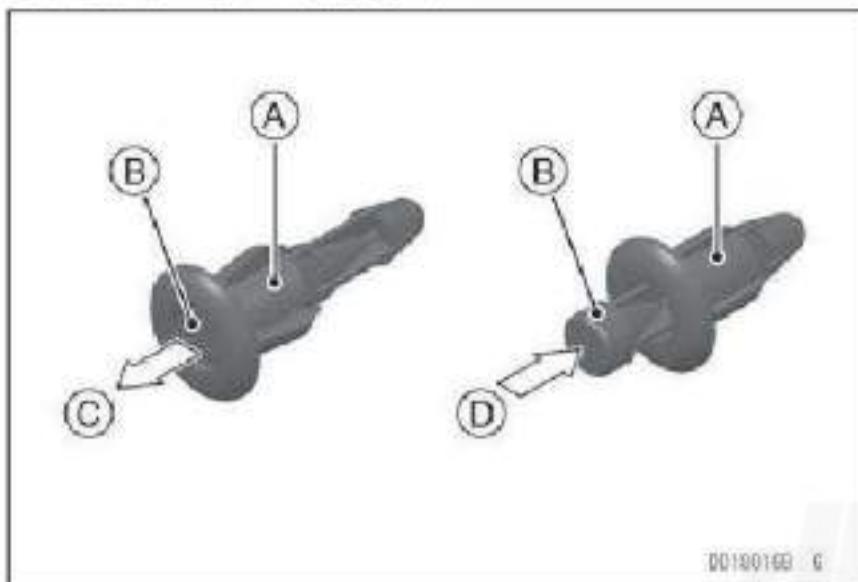
中央のピンを押し込んでください。取り付けるときはまず中央のピンを引っ張り出した状態でリベット本体を取り付け、その後にピンを押し込みます。

クイックリベットの取り外し:



A. クイックリベット
B. ピン
C. ピンを押し込む。

クイックリベットの取り付け:



- A. クイックリベット
- B. ピン
- C. ピンを引っ張り出す。
- D. ピンを押し込む。

このウォータクラフトは密閉型バッテリを使用しています。従って、バッテリ液の点検や補充の必要はありません。新品のバッテリにバッテリ液がいったん入れられたら、密封栓を外さないでください。また、このウォータクラフトは、密閉型バッテリのみ使用するように設計されていますので、通常のバッテリと交換しないでください。

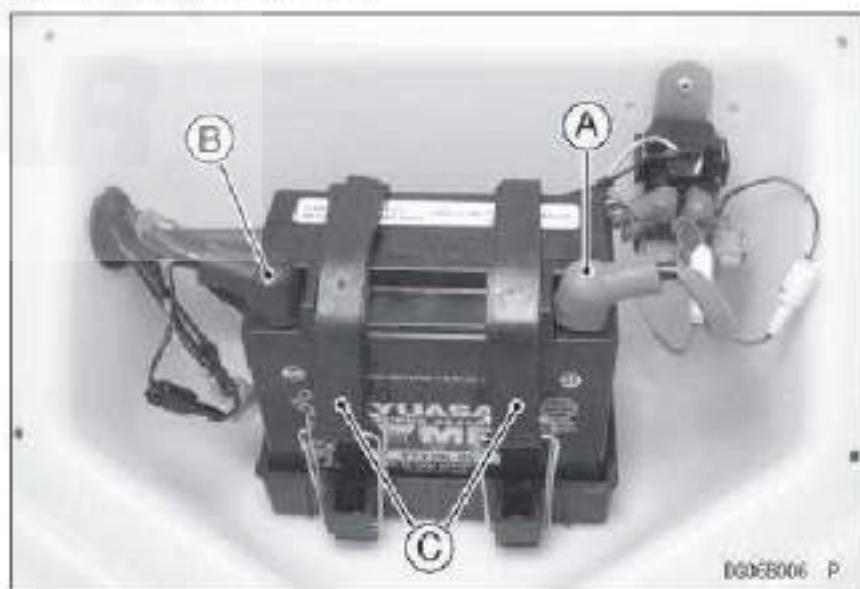
注意

密封栓は絶対に外さないでください。バッテリが損傷します。
バッテリを交換する場合は、必ず同型式のバッテリをご使用ください。違う型式のバッテリを使用すると、電気系統が正しく機能しません。
使用済みのバッテリを廃却する場合は、「ジェットスキーARK」にご相談ください。

要点

- 密閉型バッテリを補充電する時は、バッテリのラベルの指示に必ず従ってください。

バッテリの取り外し:

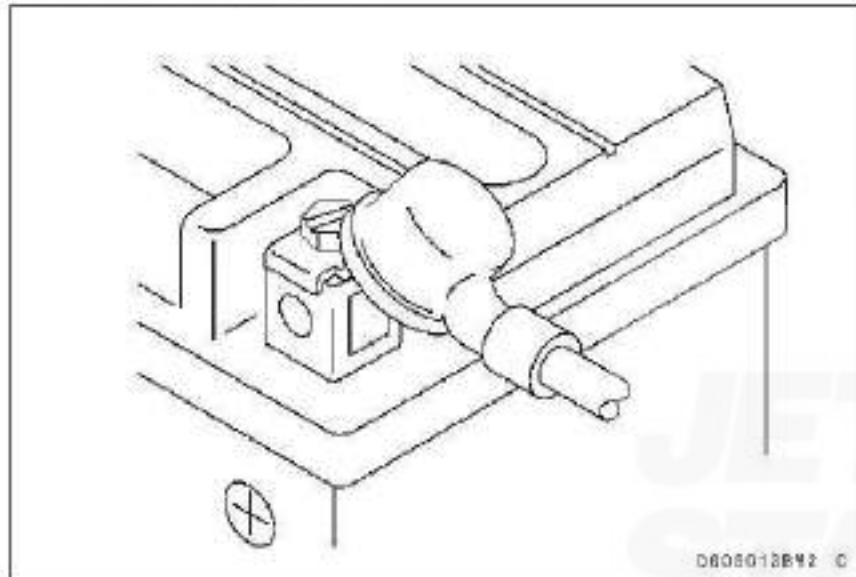


- A. 赤ケーブル
- B. 黒ケーブル（アース）
- C. バンド

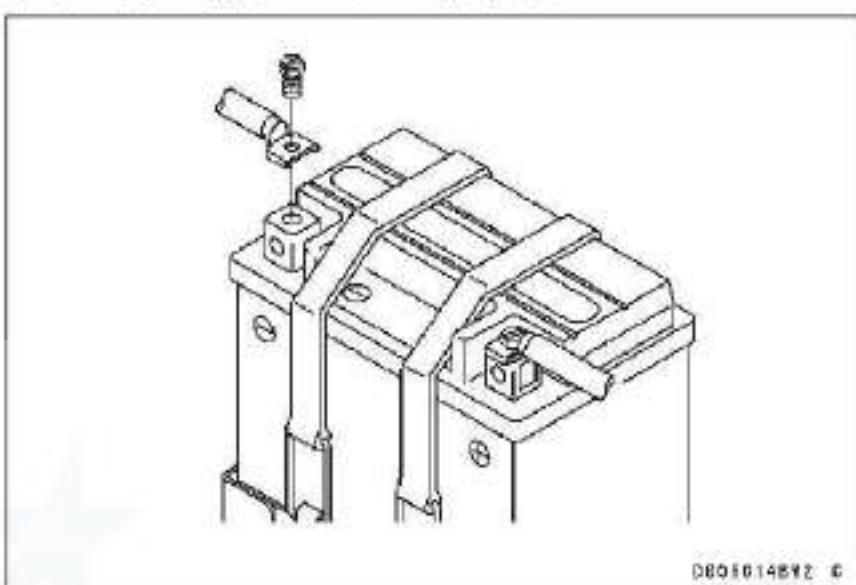
1. バッテリケーブルの取り外し

● 必ず艇のイグニションキーを抜いてから実施してください。

(1) キャップをはずす。

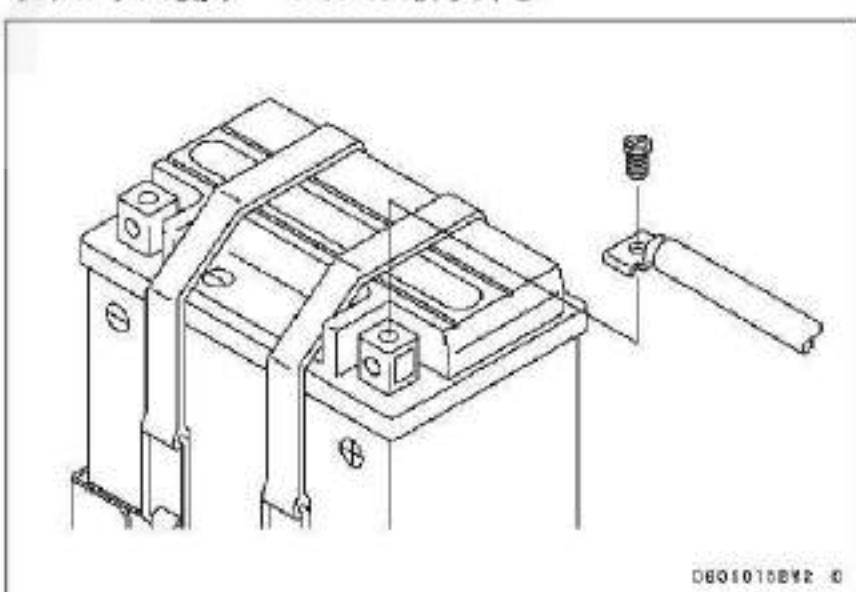


(2) マイナス側ケーブルの取り外し



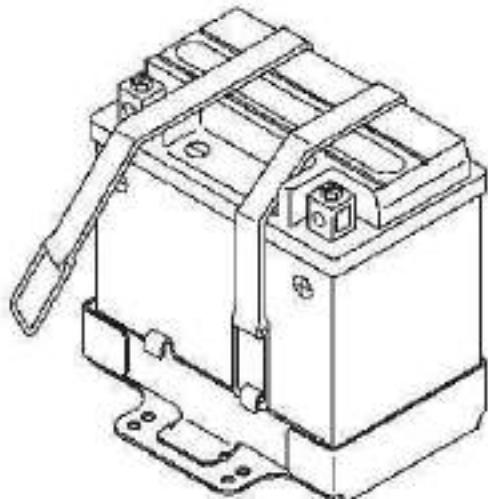
● 必ずマイナス（-）側を先にはします。

(3) プラス側ケーブルの取り外し



● 次に (+) 側をはずす。

2. バッテリ取り外し

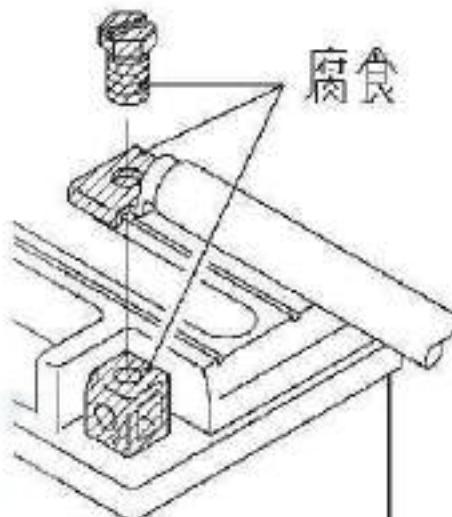


BG0501-BBM2-C

- 固定バンドの金具をフックより取りはずす。

バッテリーの点検、処置:

- (1) バッテリ端子部の酸化・腐食(緑青の発生、白い粉吹き等)

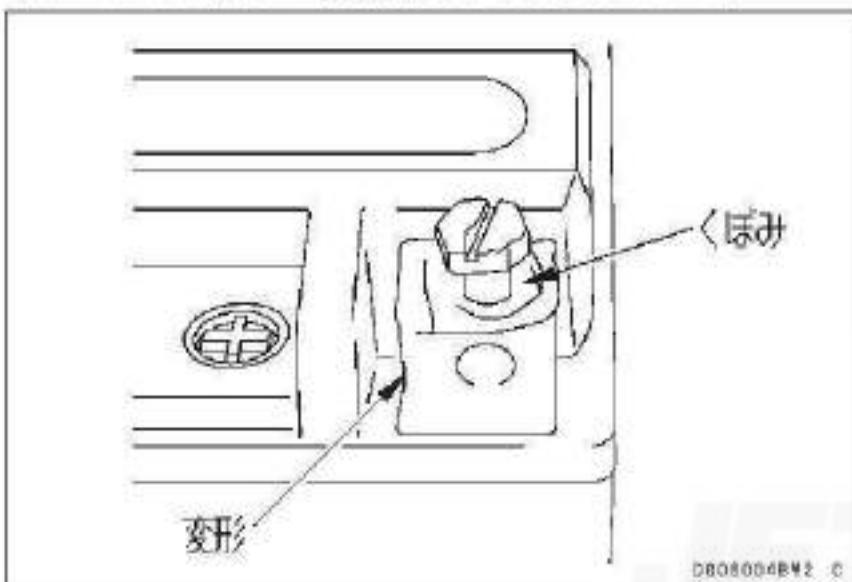


BG0503-BBM2-C

<クリーニング方法>

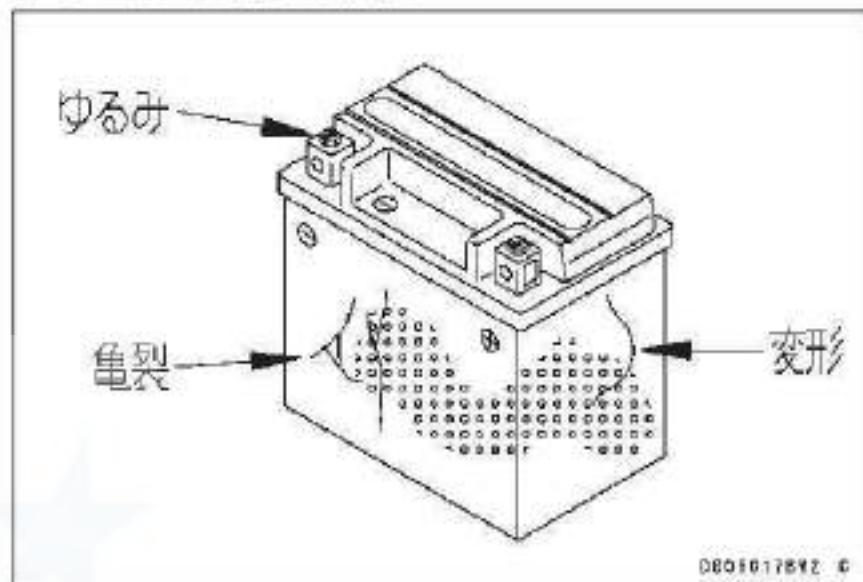
1. 浸透潤滑剤スプレーを塗布する。
2. 5分間放置する。
3. 布で拭きとる。またはサンドペーパー、ワイヤブラシで磨く。

(2) バッテリ端子の損傷(変形、割れ、くぼみ)



- 変形、割れ、くぼみがあればバッテリを交換する。

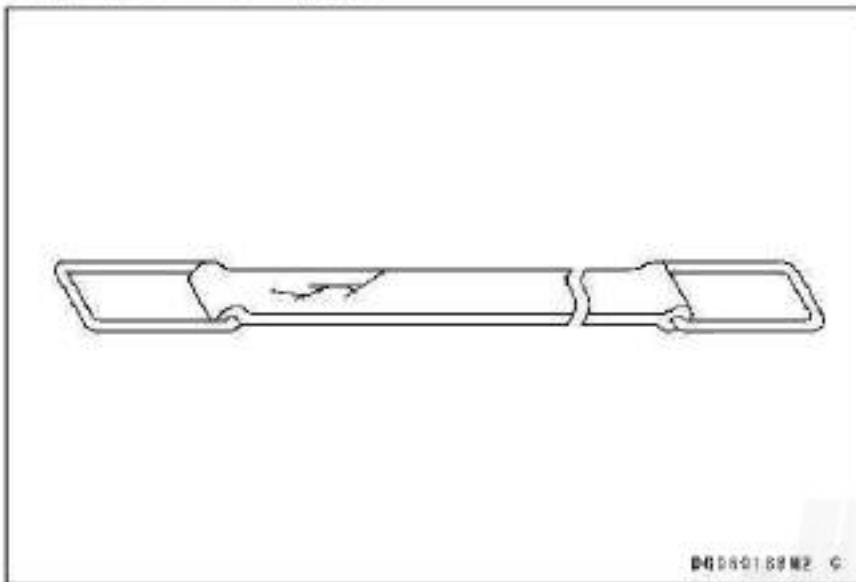
(3) バッテリ本体の点検



- 変形、割れ等のダメージがないことを確認する。

130 整備と調整

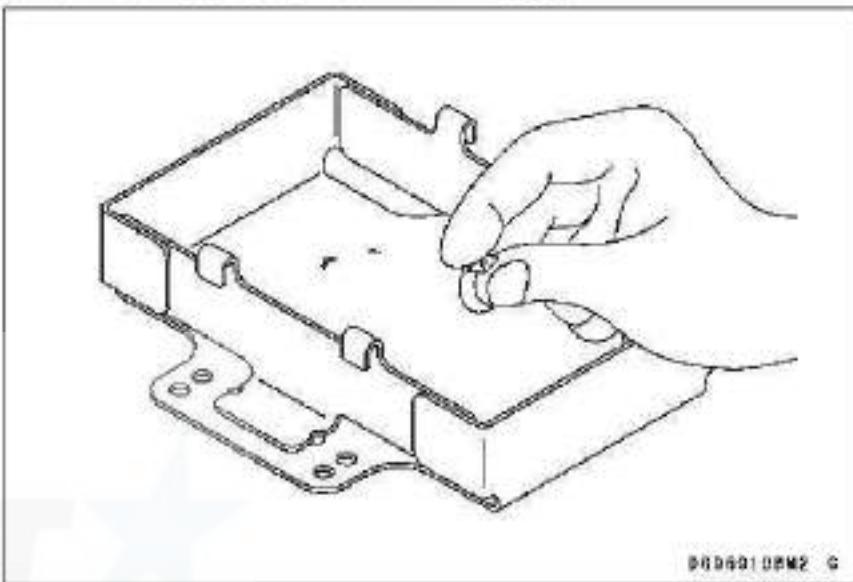
(4) 固定バンドの点検



06060108M2_G

- 切れ、割れ、伸びなどの劣化がないことを確認する。

(5) バッテリ取り付けケースの清掃

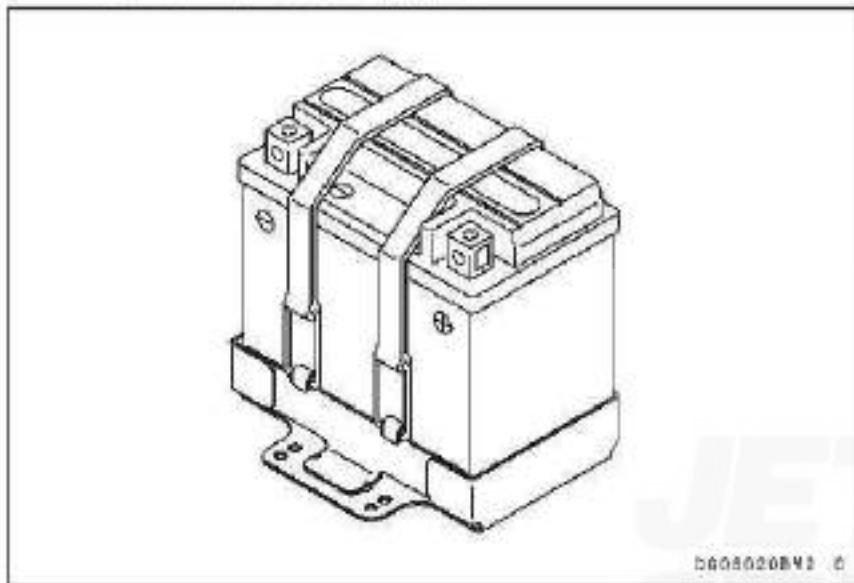


06060108M2_G

- 取り付けケースを確認し、ゴミなどがあれば除去する。

バッテリの取り付け:

1. バッテリの取り付け、固定

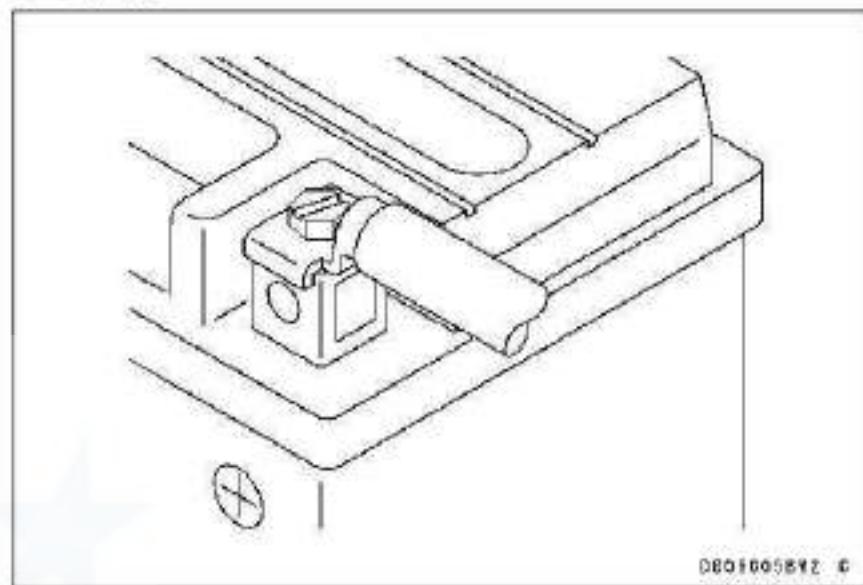


- バッテリをバンドで固定し、バッテリにガタがないことを確認する。

2. ケーブル組み付け

- ケーブルは必ずプラス側を先に取り付けてください。

(1) 仮締め

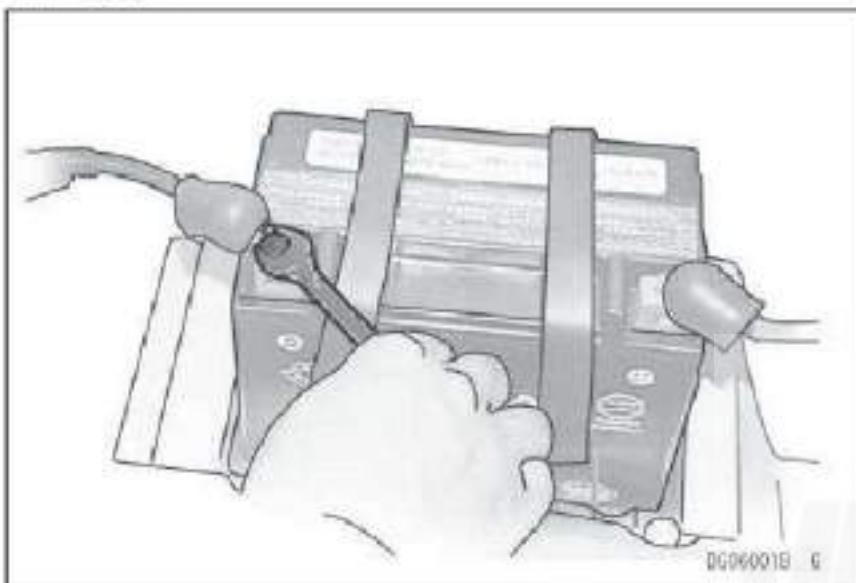


- ケーブル端子の向きに注意し、バッテリ端子とケーブル端子が密着するように取り付ける。

注意

バッテリの(+)と(-)を逆に接続しないでください。レギュレータや整流器が損傷します。

(2) 本締め

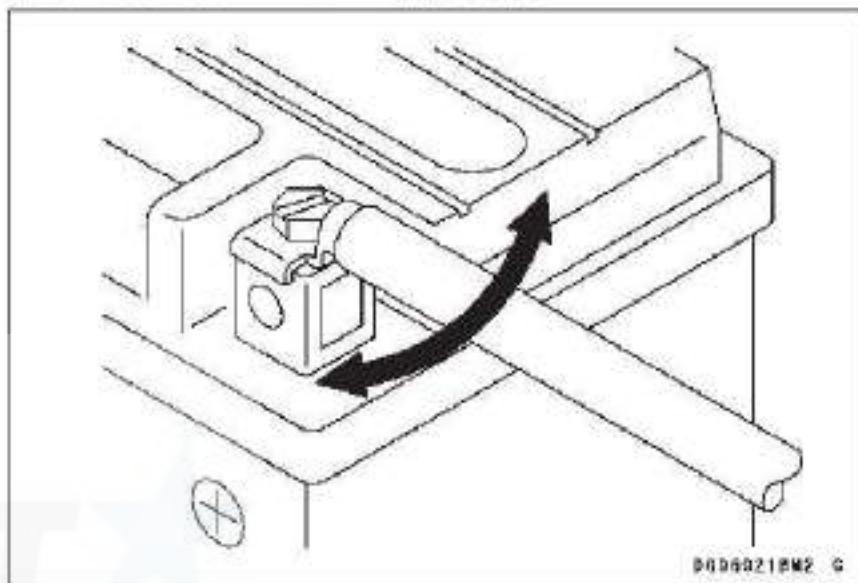


- スパナを使用し、規定トルクで締め付ける。規定トルク : 3 N·m (0.3 kgf·m)

注意

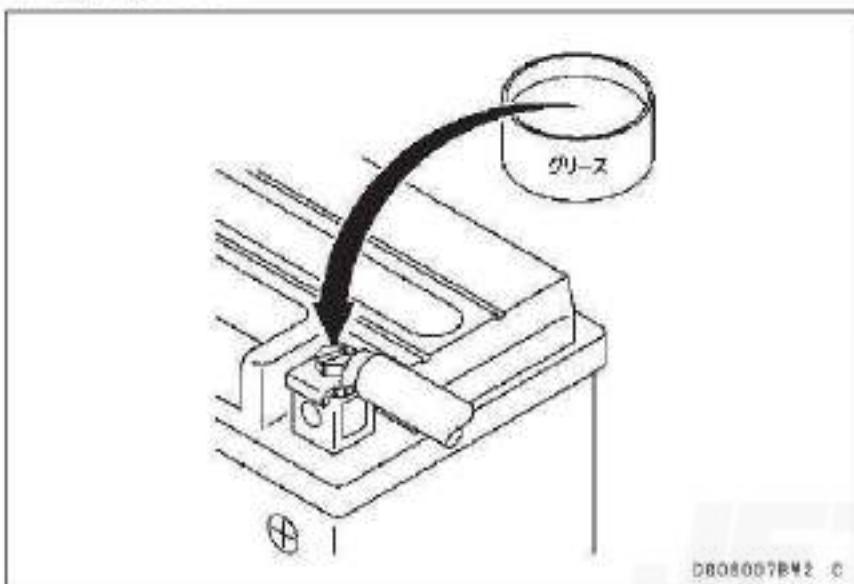
プラス側を本締めした後、マイナス側を取り付け
る。

(3) バッテリケーブルの固定確認



- 両側とも本締めした後、ケーブル端子を左右方
向に動かし、ケーブルが動かないことを確認す
る。

(4) 防錆処理



- グリースまたは浸透潤滑剤を塗布する。

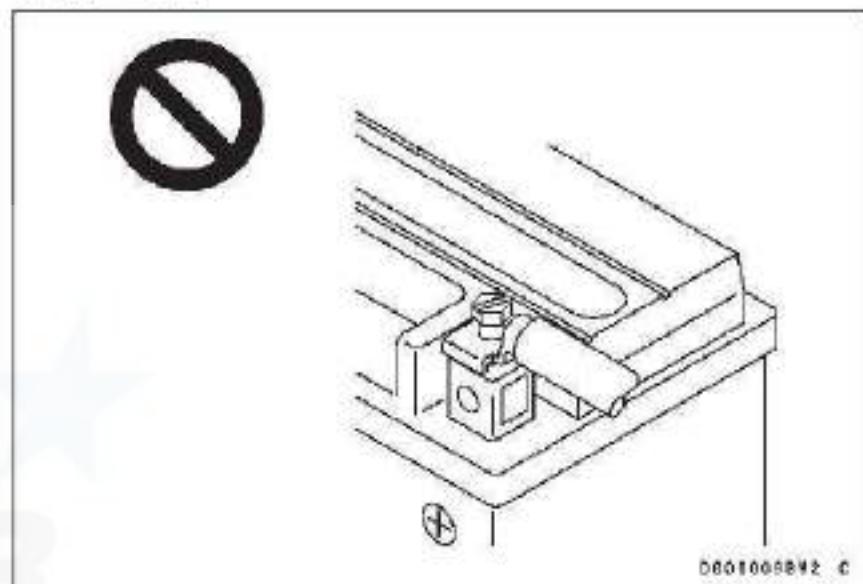
(5) 端子キャップ取り付け



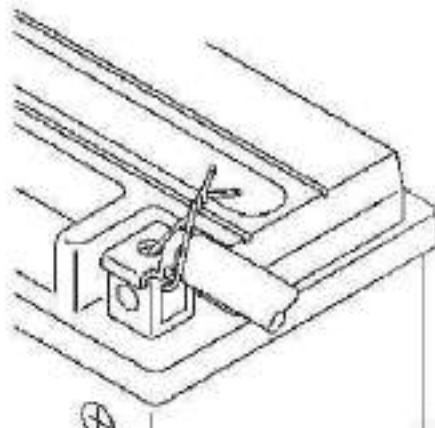
- 端子部を端子キャップで確実にカバーする。

ケーブル取り付け時の注意事項

- (1) 取付が不十分になるため、長過ぎるボルトは使用しないこと。

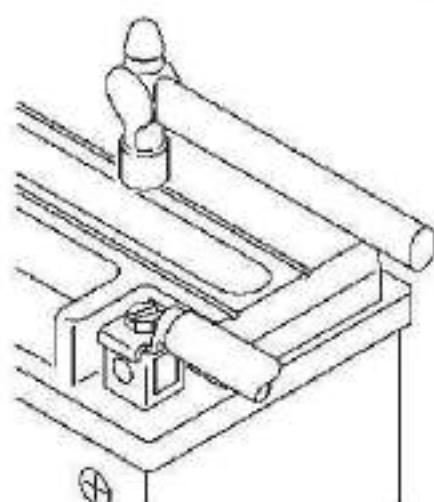


(2) 接触が不十分になるため、針金等で接続しないこと。



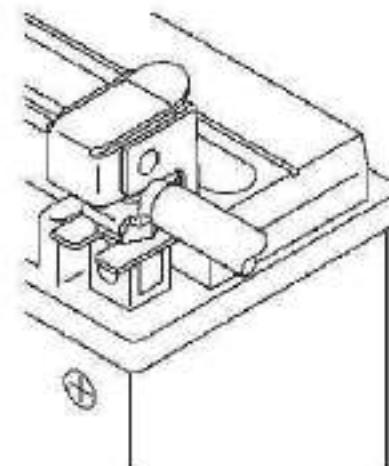
B000010BM2 C

(3) 端子が変形・破損するため、端子部をハンマーでたたかないこと。



B000011BM2 C

(4) 航行時の振動で外れるおそれがあるため、ワンタッチ式カプラは使用しない。



B000012BM2 C

(5) 複数のケーブル端子を接続する場合端子間にスキマがないように確実に締め付ける。

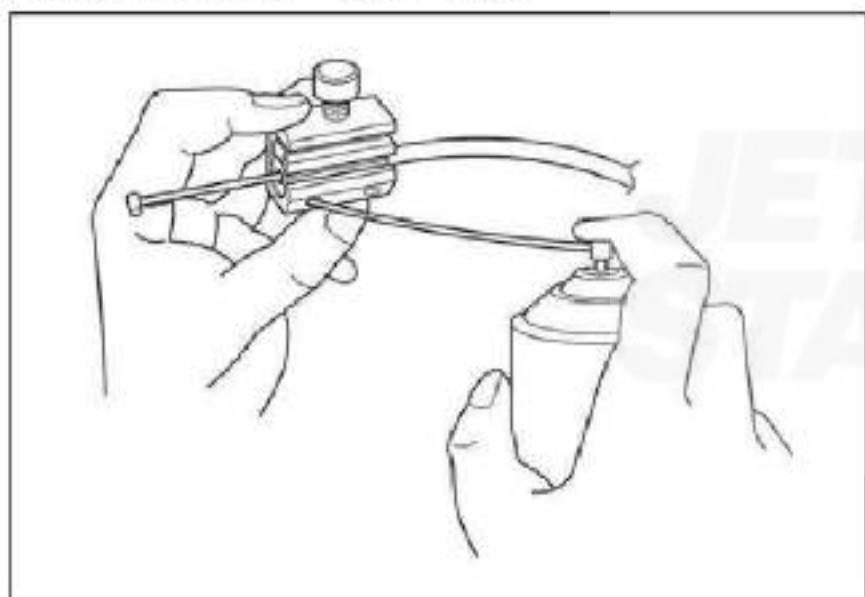
⚠ 警告

バッテリケーブルの取り付けが緩むとスパークが発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡するおそれがあります。バッテリターミナルのスクリュはしっかりと締め付け、カバーをターミナルにかぶせてください。

潤滑

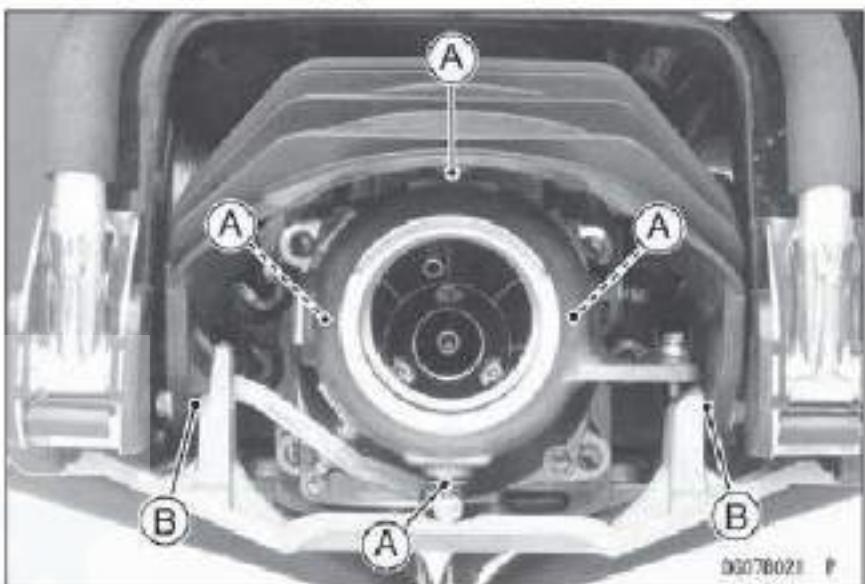
すべての船舶と同じように、適切な潤滑と腐食防止処置は、ウォータクラフトを長期間、故障なく使用するために絶対必要なことです。下記箇所の潤滑頻度については、「定期点検整備表」および「乗る前の点検項目」を参照してください。

- 下記の箇所に浸透性防錆剤をスプレーします。
- スロットルコントロールケーブル



ケーブルルーラーを使ってケーブルの潤滑をする

ステアリングノズル、リバースパケットのピボット



A. ステアリングノズルピボット
B. リバースパケットピボット

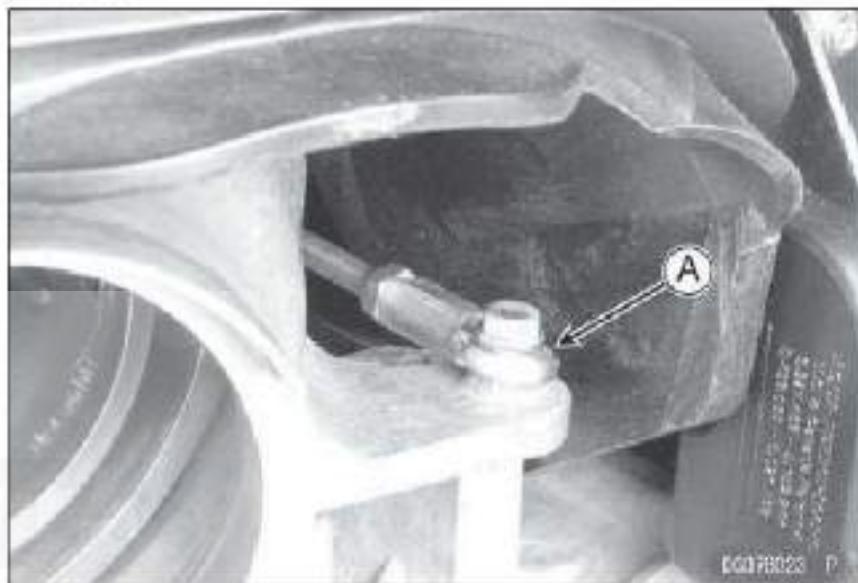
136 整備と調整

- 下記の箇所に良質の耐水グリースを塗ります。
シフトリンクのボールジョイント



A. ボールジョイント

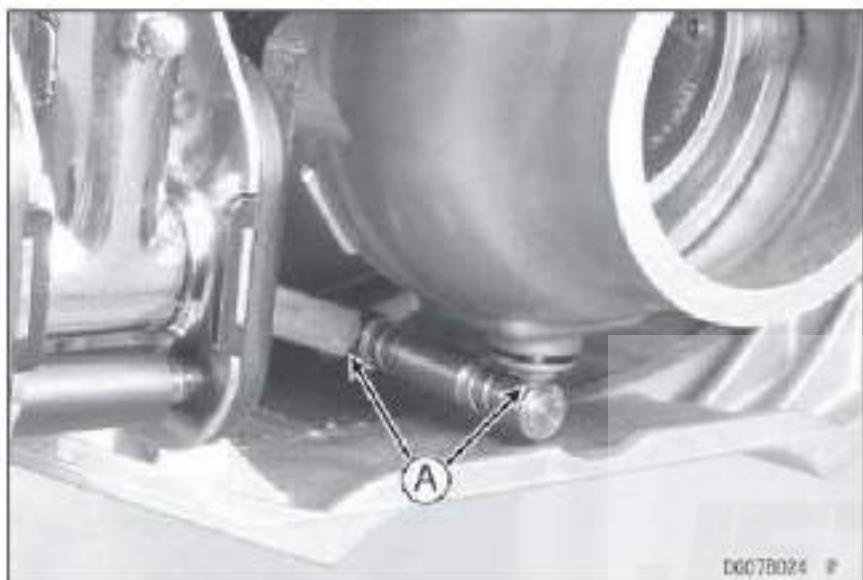
ステアリングケーブルジョイント(ステアリングシャフトの下部)



A. ステアリングジョイント

- この作業は「ジェットスキーARK」で実施してください。

トリムコントロールリンクのボールジョイント



A. トリムコントロールリンクボールジョイント

D607B024 F

トリムコントロールリンクのジョイント



A. トリムコントロールリンクジョイント

D607B025 F

スロットルレバーの取り付け部



A. グリースを塗布

注意

ハンドルバーピボットの分解と潤滑は「ジェットスキーARK」で行ってもらってください。

冷却系統の洗浄

冷却系統に砂や塩分が堆積するのを防ぐため、ときどき洗浄する必要があります。以下の作業を「定期点検整備表」に従って行うか、または、海上で使用した後は毎回、また、船体の右側にあるバイパス出口から出てくる水の量が減ったときはすぐに行ってください。

また、この方法は、陸上の整備でエンジンに冷却水を送る必要のあるとき（例えばエンジンオイルの交換）にも使われます。

- 冷却水の接続口が船体の後部にあります。



A. エンジン洗浄口

B. インタークーラ洗浄口

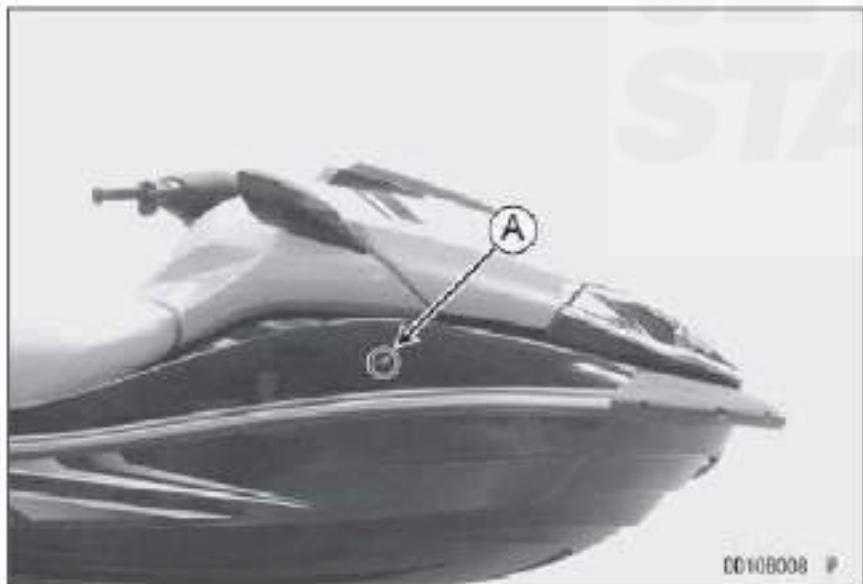
エンジン冷却系統の洗浄

- 接続金物を取り付けた水道ホースをエンジン洗浄口に接続します。
- 水道の蛇口を開ける前に、エンジンをかけ、アイドリングさせます。

注意

水を流す前に、必ずエンジンをかけておいてください。先に水を流すと、エギゾーストパイプを通してエンジン内に水が逆流して、内部を損傷するおそれがあります。

- エンジンをかけたらすぐに水道の蛇口を開け、船体の右側にあるバイパス出口から水がわずかに出てくる位に水量を調節してください。



A. バイパス出口

- 水を出したままエンジンを数分間アイドリングさせます。
- 蛇口を閉めます。エンジンはまだアイドリングさせておきます。
- エンジンを数回吹かせて排気系統から水を排出します。

注意

冷却水なしで続けて15秒間以上エンジンを運転しないでください。過熱からエンジンと排気系統に重大な損傷を引き起こすもとになります。

- エンジンを止め、ホースを外してください。

インタークーラ冷却系統の洗浄

- 接続金屬を取り付けた水道ホースをインタークーラ洗浄口に接続します。
- インタークーラ冷却系統の洗浄のため、水道の蛇口を開けます。

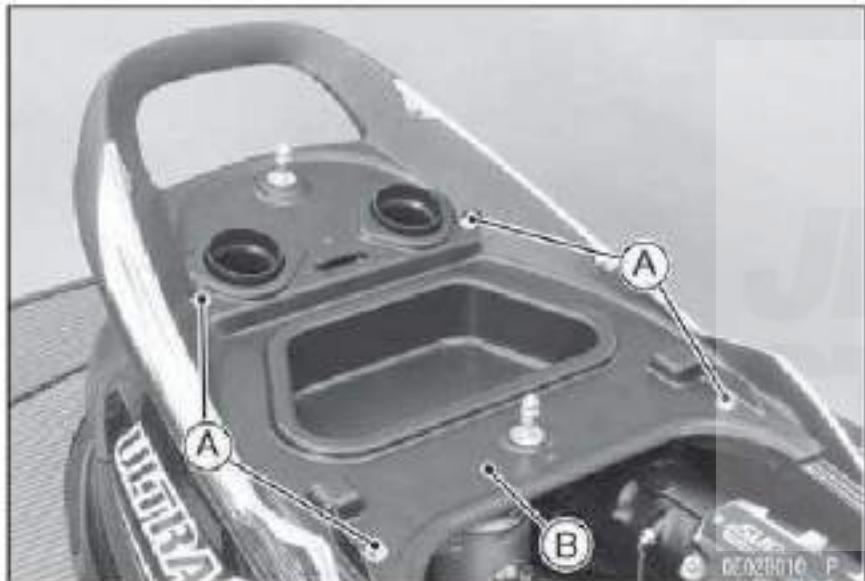
要点

- インタークーラ冷却系統の洗浄のとき、エンジンをかける必要はありません。

ピルジ系統の洗浄

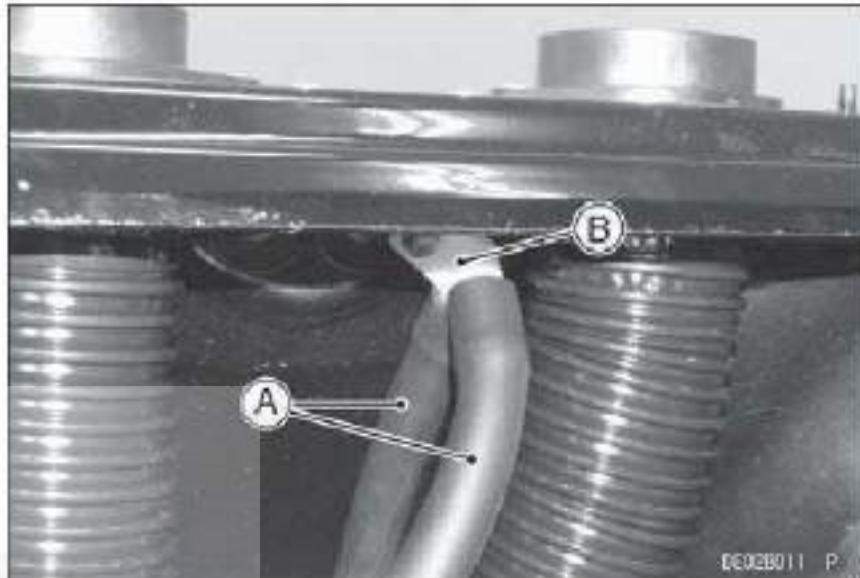
詰まりを防ぐためにピルジ系統を「定期点検整備表」に従って洗浄するか、または、詰まっていると疑われるときはすぐに洗浄してください。

- ハンドルプレートを外すため、ナットを外してください。



A. ナット
B. ハンドルプレート

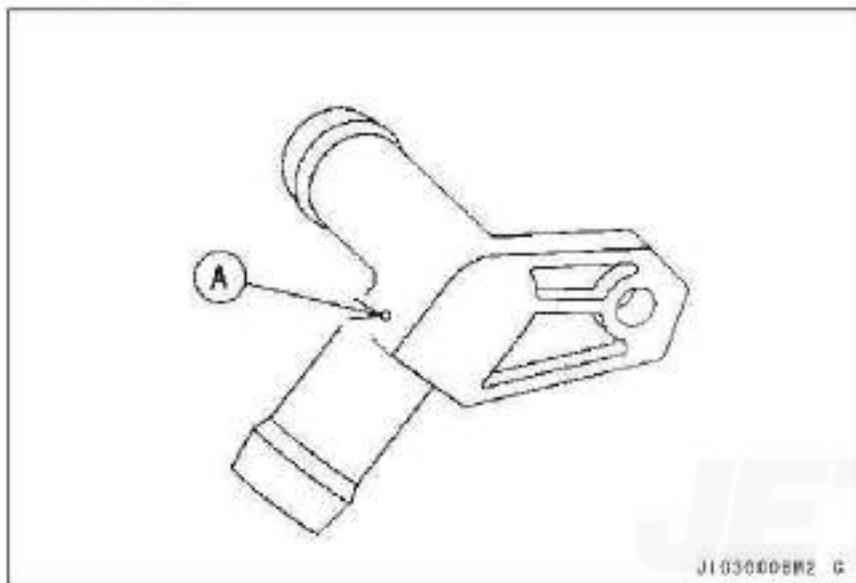
- それぞれのプラスチックのブリーザから両方のピルジホースを外してください。ブリーザはエンジンルームの後方上側にあります。



A. ピルジホース
B. ブリーザ

- ピルジフィルタ側のホースに水道ホースを接続し、水を出して約1分間洗浄します。この間、水がエンジンルームに入りますが、たくさんたまらないようにします。スター（船尾）のドレンプラグを外してエンジンルームの水を出します。
- 反対側のホースに水道ホースを接続し、水を出して数分間洗浄します。4本のホース全てについて洗浄します。
- プラスチックのブリーザにそれぞれのホースをもと通り接続する前に、ブリーザの小さな穴が詰まっていないか確かめてください。もし、穴が詰まっているれば、エンジンが停止したときやアイドリング状態のとき、ホースを通じて水がどんどんエンジンルームに入ってくることがある

ります。ブリーザをはずす必要があるかも知れません。



A. ブリーザの穴

- すべてのビルジホースをもと通りに接続します。

要点

- ウォータクラフトを保管する場合は、ビルジホースを接続する前に両方のホースに圧搾空気を吹き込んでください。（「保管」の章の「ビルジ系統」の項参照。）

ジェットポンプベアリング／シール

注意

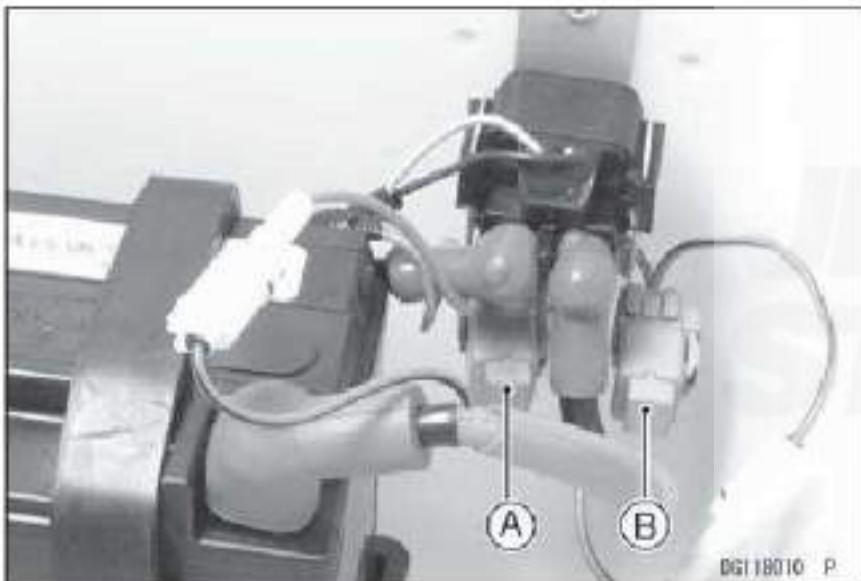
ジェットポンプベアリングとシールは定期的に整備してください。整備が不十分な場合、ジェットポンプベアリングが破損し、エンジンの重大な損傷の原因となります。

ジェットポンプベアリングとシールは、最初の20時間後、以降は50時間毎または毎年1回のどちらか早い時期に「ジェットスキーカーク」で定期点検を受けてください。また、長期間保管する前に、ジェットポンプベアリングの整備を実施し、ジェットポンプ内に残った水を抜いてください。水がポンプ内に残っていると、ジェットポンプベアリングが腐食したり、早期破損の原因になります。

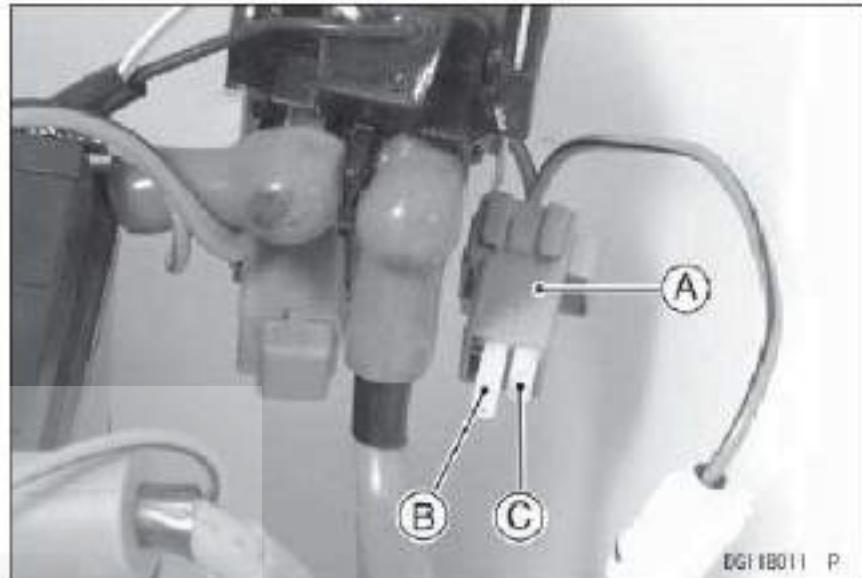
ヒューズ

20 Aのメインヒューズと20 Aのエレクトリックトリムコントロールヒューズが船首バッテリ格納スペースにあるヒューズケースに入っています。

操作中にヒューズが切れたなら、その原因となつた電気系統を点検し、適切な容量の新しいヒューズに交換してください。



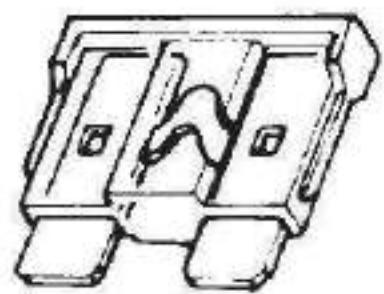
A. メインヒューズ
B. エレクトリックトリムコントロールヒューズ



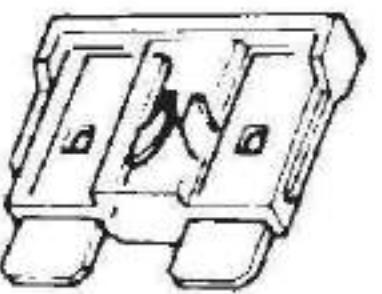
A. ヒューズケース
B. ヒューズ
C. スペアヒューズ

注意

ヒューズの代用品は使用しないでください。切れたヒューズはヒューズケースに規定された正しい容量のヒューズと交換してください。



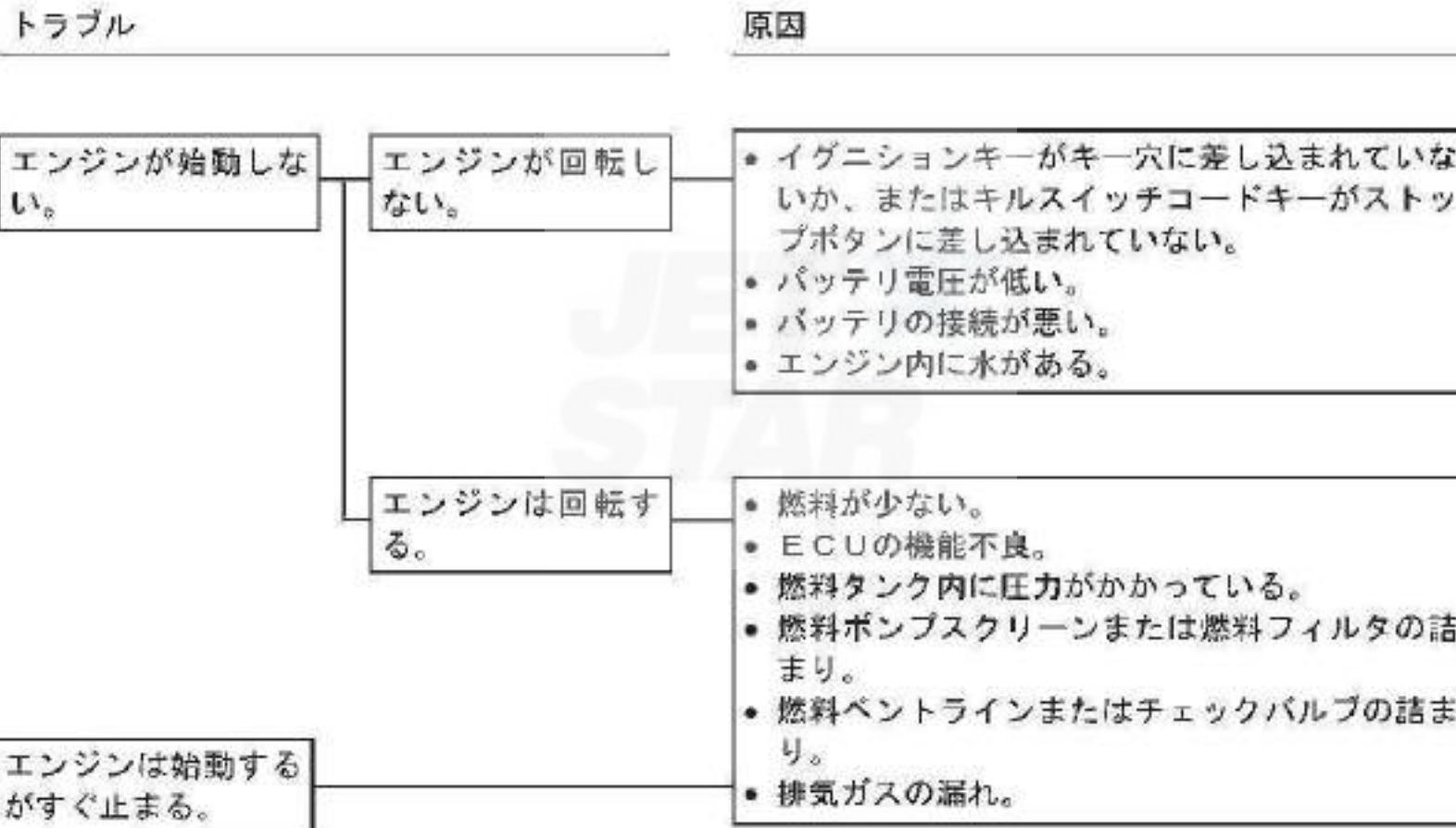
正規なもの



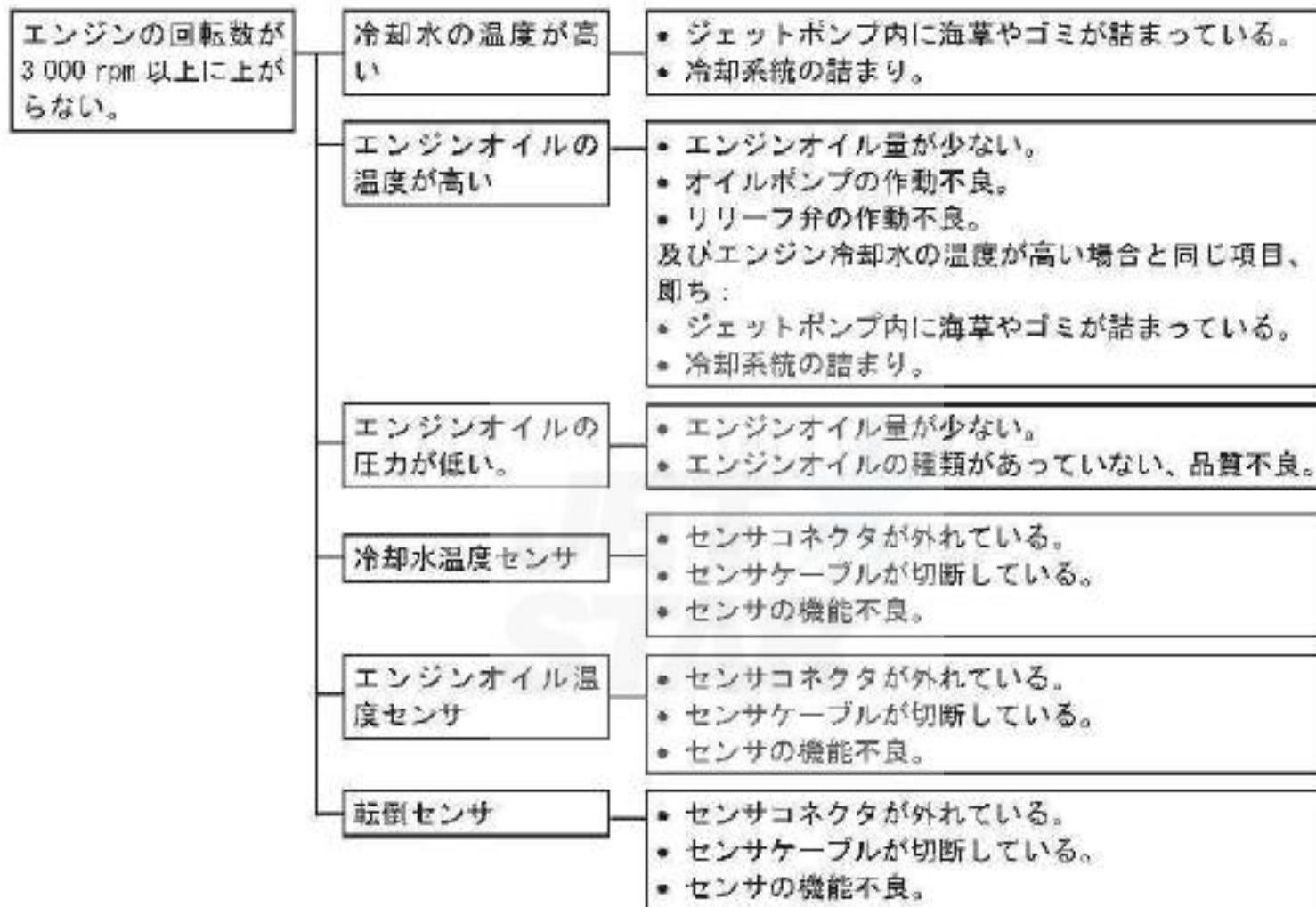
切れたもの

トラブルシューティング

- ここに示す方法ではあなたのウォータクラフトのトラブルが確定できないときは、「ジェットスキーARK」に相談するか、サービスマニュアルを参照してください。







ノッキングを起こす。

- ガソリンの品質不良。

ステアリングがかた
い、または調子が悪
い。

- ステアリングピボットの油切れ。
- ステアリングケーブルが損傷、または取り回しが
不適当。

DODDOSB F



警告

ステアリング装置に故障があれば非常に危険で
すので、「ジェットスキーARK」でよく調べてもらっ
てください。

船舶検査

船舶検査

ウォータクラフト“ジェットスキー”は、法律（船舶安全法）に基づいて日本小型船舶検査機構の行う検査を受けなければ使用できません。

検査の種類：

検査には最初に使用を始める時、および6年毎に行う定期検査と、その中間の3年毎に行う中間検査があります。

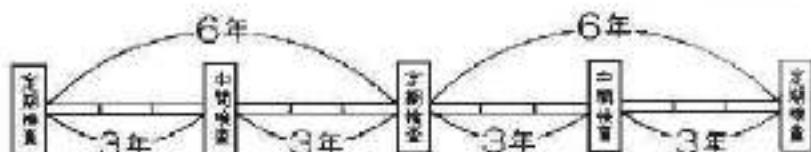
- 定期検査

定期的に行う精密な検査

- 中間検査

定期検査と定期検査との間で行う簡易な検査

船検の時期



なお、定められた中間検査日または定期検査日より繰り上げて検査を行う場合は、繰り上げが1ヶ月以内であれば次回定期検査日または中間検査日が早くなることはありません。

船舶検査証書など合格証書類

1. 定期検査の場合

船検に合格した小型船には、(1) 船舶検査証書 (2) 船舶検査手帳 (3) 船舶検査済票（年票と番号票を各2枚）が渡されます。

上記(1)および(2)の証書類は、ウォータクラフトを使うときには必ず船内に備えてください。

また、(3)の検査済票（通称「船検ナンバー」）は、ウォータクラフトの両側の外から見やすい位置に必ず貼り付けてください。

船舶検査証書の有効期間は6年です。

2. 中間検査の場合

中間検査に合格した小型船には、船舶検査証書と船舶検査手帳が返されるときに、中間検査済票1枚が渡されます。この中間検査済票は、中間検査に合格した小型船のしるしですから、これを左舷の船舶検査済票の近くに貼ってください。

航行区域

航行区域

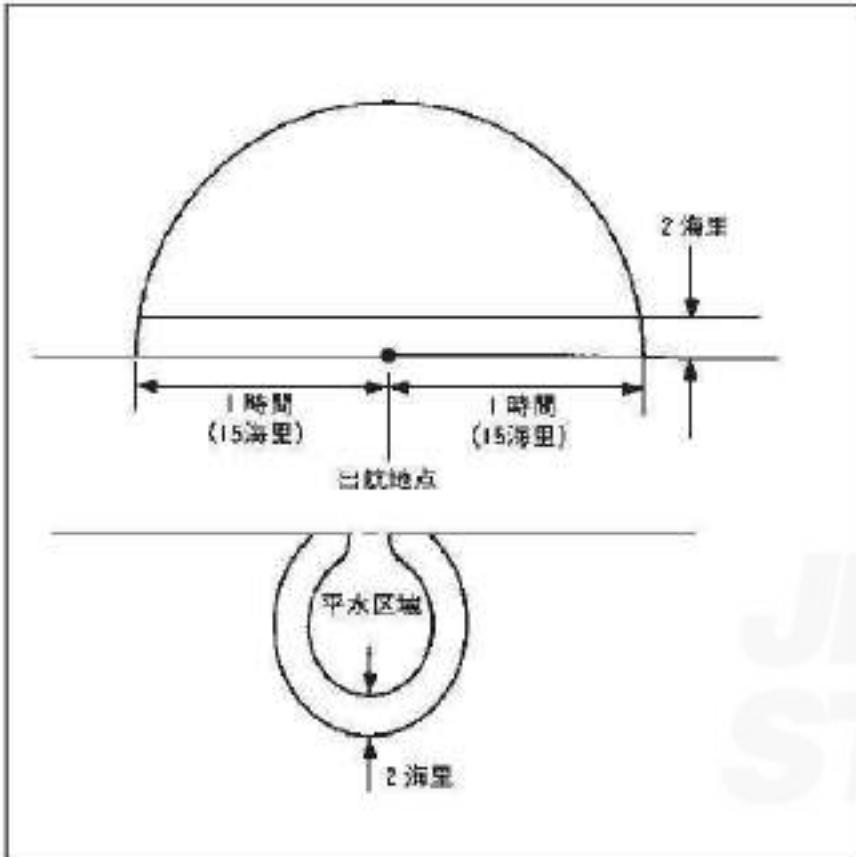
法律（船舶安全法）により、ウォータクラフト“ジェットスキー”が航走できる区域は次のように定められています。

注：

- 船舶安全法施行規則第1条第6項とは、平水区域（湖、川、港内、湾などの波の静かな水域）を指します。
- 法律では、平水区域は沿海区域に含まれます。

海岸あるいは陸岸で使用する場合

1. 沿海区域で、ウォータクラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56 km以内）で往復できる水域のうち、海岸か2海里（約3.7 km）以内の水域。
2. 沿海区域で、船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の陸岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。



母船に乗せて使用する場合

1. 沿海区域で、母船から半径2海里（約3.7 km）以内の水域。
2. 沿海区域で、ウォータクラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56 km以内）で往復できる水域のうち、海岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。
3. 沿海区域で、船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の海岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。

注意

母船に搭載してウォータクラフトを使用するには、船舶検査手帳に母船の船名が登録されていなければなりません。

- *周辺の人たちに迷惑をかけないために、次の事を守ってください。
- ・遊泳者のいる近くでは乗らないでください。
 - ・人家の近くでは乗らないでください。
 - ・他の人に迷惑をかける騒音は出さないでください。
 - ・釣り船、釣り人の迷惑にならないように注意してください。
 - ・航走中の船に近づかないでください。
 - ・漁場へは乗り入れないでください。また、操業中の漁船には近づかないでください。
 - ・乗り入れ禁止区域には入らないでください。
 - ・指定区域内では制限速度を守ってください。

環境保護

環境保護

いつまでもきれいな環境を保つために、次の事を守ってください。

- 自分たちのゴミは自分たちで処理しましょう。
(不法投棄は絶対しないでください。)
- 燃料、オイル等で浜辺や海岸、そして水を汚さないようにしましょう。
- 自然の景観や、生物を大切にしましょう。
- 使用済みのバッテリやエンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。また、将来ジェットスキーを廃棄される場合も同様です。
もし、これらのものを廃棄する時は、「ジェットスキーARK」にご相談ください。

お客様の相談窓口

あなたのカワサキウォータクラフト“ジェットスキー”について、ご不明な点や、サービス面のこと
で、ご意見やご質問がございましたら、お買いあげいただきました「ジェットスキーARK（正規取扱店）」
または下記の相談窓口にお申しつけください。

株式会社カワサキモータースジャパン 〒673-8666 兵庫県明石市川崎町1番1号 TEL078(921)2491代表
ジェットスキー営業部

*平成22年4月1日現在

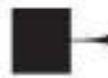
JET
STAR

**JT1500HB
JT1500JB**



* 9 9 9 2 1 - 0 1 0 1 *

STAR

 **Kawasaki**

川崎重工業株式会社
モーターサイクル&エンジンカンパニー
Part No. 99921-0101

Printed in Japan